稅ノ賦課ヲ受ケタル物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム若數選舉區ニ亙リ賦課ヲ受ケタル物件アルトキハ稅額ノ最多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム又直接町村稅ノ賦課ヲ受ケタル物件ナキトキハ住居ヲ構ヘ若クハ滯在スル地ニ依テ之ヲ定ムヘシ但シ本文ノ場合ニ於テ稅額ノ相同キトキ又ハ數選舉區ニ亙リ住居ヲ構ヘ若クハ滯在スルトキハ本人ノ申出ニ依テ之ヲ定ムヘシ

選舉區ヲ設クルトキハ各選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ

各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數各級ニ等分シ難キトキハ各選舉區各級ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ヲ第一項ノ條例ニ規定スヘシ

被選舉人ハ其ノ選舉區內ノ者ニ限ラサルモノトス

第三十二條　選舉權ヲ有スル町村公民ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス

一　北海道廳及所屬郡ノ官吏

二　有給ノ町村吏員

三　檢事及警察官吏

四　神官僧侶其ノ他諸宗敎師

五　小學校敎員

其ノ他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其ノ多キ者一人ヲ當選トシ同數ナレハ年長者ヲ當選トシ同年ナレハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

町村長トノ間父子兄弟タル緣故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若議員トノ間ニ其ノ緣故アル者町村長ノ任命ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル議員ハ其ノ職ヲ失フモノトス

第三十三條　町村會議員ハ名譽職トス其ノ任期ハ六年トシ每三年各級ニ於テ其ノ半數ヲ改選ス若各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退職セシムヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ任期ハ總選舉ヲ行ヒタル日（選舉ノ數日ニ亙ル場合ハ其ノ初日）、又ハ定期改選期日（選舉ノ數日ニ亙ル場合ハ其ノ初日）ヨリ起算シ曆ニ從フ但シ總選舉ノ場合ニ於テ一部ノ議員後レテ選舉セラレ又ハ定期改選ノ場合ニ於テ一部若クハ全部ノ議員其ノ期日後ニ選舉セラルルコトアルモ先ニ總選舉ヲ行ヒタル日又ハ定期改選期日ヨリ起算ス

退職ノ議員ハ再選セラルルコトヲ得

議員ニ關シテハ第二十三條第一項第三項第二十五條第二十六條ノ例ヲ適用ス

第三十四條　町村會議員中闕員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

若定員三分ノ一以上闕員アルトキ又ハ町村長若クハ町村會ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選舉ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ從テ之カ選舉ヲ行フヘシ

第三十五條　町村長ハ選舉ヲ行フ每ニ其ノ選舉前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉原簿ヲ調製シ此ノ原簿ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區ヲ設クルトキハ每選舉區各別ニ原簿及名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿ハ其ノ選舉前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間町村役場ニ於テ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期限內ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其ノ郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ

訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ異議、訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分、決定若クハ裁決ノ執行ヲ停止セス

町村長ハ第二項異議ノ決定又ハ第三項訴願ノ裁決若クハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ日ヨリ五日前ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ヲ行フコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ選舉ヲ行フトキモ亦之ヲ適用ス但シ名簿確定後訴願ノ裁決若クハ訴訟ノ判決ニ依リ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ日ヨリ五日前ニ修正スヘキモノトス

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第三十六條　選舉ヲ行フトキハ町村長ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ選舉ノ場所日時竝每選舉區及每級ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ヲ公告スヘシ

各級ニ於テ選舉ヲ行フ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ

第三十七條　選舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ町村長若クハ其ノ代理者ハ掛長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス但シ選舉分會若クハ選舉區ヲ設クルトキハ各別ニ選舉掛ヲ設クヘシ

第三十八條　選舉開會中ハ選舉人ヲ除ク外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議若クハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條　選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名又ハ其ノ住所氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ之ヲ掛長ニ差出スヘシ但シ選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

町村住民ニ非スシテ第二十八條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且公權停止中ニ非サル獨立ノ男子ニ限ル但シ一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス又代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示スヘシ

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但シ投票函ハ投票ヲ終ルマテ之ヲ開クコトヲ得ス

第四十條　單名投票ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノハ之ヲ無效トス連名投票ニシテ第一號第五號第六號ニ該當スルモノモ亦同シ又連名投票ニシテ第二號乃至第四號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無效トス

一　氏名ヲ記載セサルモノ

二　記載シタル氏名ノ讀ミ難キモノ

三　被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四　被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五　被選舉人ノ住所氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ位階敬稱ノ類ヲ記入スルハ此ノ限ニ在ラス

六　投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

投票ニ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ定數ヲ過クルトキハ末尾ニ記載シタルモノヲ順次ニ棄却スヘシ

投票ノ受理竝效力ニ關スル事項ハ選舉掛之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第四十一條　町村會議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取リ同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

同時ニ補闕議員數名ヲ選舉スルトキハ投票數ノ多キ者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ投票ノ數相同キトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ順序ヲ定ム

第四十二條　選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顚末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其ノ他關係書類ヲ合綴シテ選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ署名捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

投票ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

第四十三條　選舉ヲ終リタルトキハ選舉掛長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ其ノ當選ヲ辭セントスル者ハ當選ノ告知ヲ發シタル日ヨリ五日以內ニ之ヲ町村長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數級若クハ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ當選ノ告知ヲ最終ニ發シタル日ヨリ五日以內ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ町村長ニ申立ツヘシ其ノ期限內ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタル者ト看做スヘシ

定期改選ト補闕選舉トヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ兩選舉ニ當リタルトキモ亦前項ノ例ヲ適用ス

本條ニ依リ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

選舉ヲ終リ當選者定マリタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ公告シ同時ニ選舉錄ノ寫ヲ添ヘ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第四十四條　選舉人選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以內ニ郡長ニ訴願シ其ノ郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

郡長ニ於テ選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス前條ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以內ニ選舉ヲ取消スヘシ

前項郡長ノ處分ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第四十五條　選舉ノ規程ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無效トシ又當選者中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ當選ヲ無效トスヘキモノトス但シ選舉ノ規程ニ違背スル所アルモ其ノ事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條　選舉若クハ當選無效ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第四十七條　町村會議員中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

町村長若クハ町村會ニ於テ前項ニ該當スル者アルコトヲ發見シタルトキハ郡長ニ申出ツヘシ

第一項資格要件ノ有無ハ郡長ニ於テ前項ノ申立ニ依リ又ハ其ノ職權ヲ以テ之ヲ決定ス

前項郡長ノ決定ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テ資格要件ヲ有セストスル決定ハ其ノ決定確定シ又ハ訴訟ノ判決アルマテ其ノ執行ヲ停止ス

第四十八條　特別ノ事情アル場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ選舉ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得

第二款　職務權限及處務規程

第四十九條　町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ

一　町村條例及町村規則ヲ設定スル事

二　町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業但シ國ノ行政事務ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

三　歲入出豫算ヲ定ムル事

四　法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料加入金手數料町村稅及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事

五　町村有不動產ノ賣買交換讓受讓渡竝質入書入ヲ爲ス事

六　基本財產及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事

七　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

八　町村有財產及町村ノ營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

九　町村吏員ノ身元保證ヲ徵シ竝其ノ額ヲ定ムル事

十　町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

其ノ他町村會ノ職權ハ法律命令ノ定ムル所ニ依ル

第五十條　町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閱シ町村長ノ報告書ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行竝收入支出ノ正否ヲ檢査スルコトヲ得

町村會ハ前項ノ目的ノ爲ニ五名以下ノ委員ヲ議員中ヨリ選擧シ町村長若クハ其ノ指命シタル吏員立會ノ上關係書類竝金庫ヲ檢閱セシムルコトヲ得

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ町村長若クハ監督官廳ニ差出スコトヲ得

町村會ハ町村長若クハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

第五十一條　議員タル者ハ選擧人ノ指示若クハ委囑ヲ受クヘカラサルモノトス

第五十二條　町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス

町村會ハ町村會議員中ヨリ議長代理者一名ヲ選擧スヘシ

議長代理者ハ町村會議員ノ定期改選期日ノ前日マテ在職スルモノトス但シ議員ノ職ヲ退クトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

第二項ノ選擧ハ總選擧ヲ行ヒタル場合ハ初會ニ於テ其ノ他ハ前任者退職當時ノ會議又ハ退職後ノ初會ニ於テ之ヲ行フ

第五十三條　議長故障アルトキハ其ノ代理者之ニ代リ議長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ假議長トスヘシ但シ臨時ニ假議長ヲ選擧スルモ妨ナシ

第五十四條　町村長及其ノ委任ヲ受ケタル吏員ハ何時ニテモ會議ニ出席シ及發言スルコトヲ得但シ議員ノ演說ヲ中止スルコトヲ得ス

前項ノ出席者ハ議員ノ職ニ在ル者ヲ除ク外議決ニ加ハルコトヲ得ス

第五十五條　町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ町村長會期ヲ定メテ之ヲ招集ス議員四分ノ一以上ヨリ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキモ亦同シ

招集竝會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除ク外少クトモ會議ノ三日前タルヘシ

町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

第五十六條　町村會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付集會再回ニ至ルモ議員仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十七條　町村會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第五十八條　議長及議員ハ自己若クハ其ノ父母妻子兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ就テハ町村會ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

前項除席ノ爲ニ議員ノ數減少シテ會議ヲ開ク定數ニ滿タサルトキモ仍會議ヲ開クコトヲ得

第五十九條　町村會ノ會議ハ公開ス但シ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得又町村長ヨリ要求アリタルトキハ傍聽ヲ禁スヘシ

第六十條　議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第六十一條　會議及傍聽ノ紀律竝取締ニ關スル規則ハ拓殖務大臣之ヲ定ム其ノ規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以內出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設クルコトヲ得

第六十二條　前條ニ依リ拓殖務大臣ノ定ムル規則ノ外町村會ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ會議規則及傍聽規則ヲ設クヘシ其ノ會議規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設クルコトヲ得

町村會ニ於テ行フ選舉ノ方法ハ會議規則ニ之ヲ規定スヘキモノトス

第六十三條　町村會ノ書記ハ町村吏員ノ中ニ就キ町村長之ヲ命ス

書記ハ議長ニ隷屬シテ庶務ニ從事ス

議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シテ會議ノ顚末竝出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ

會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名捺印スヘキモノトス

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ町村長ニ報告スヘシ

第四章　町村ノ財務

第一款　町村有財産及町村稅

第六十四條　町村ハ不動産積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ

北海道廳長官ハ町村ノ經濟ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ額ヲ定メテ基本財産ヲ蓄積セシムルコトヲ得

臨時ニ收入シタル金穀等ハ基本財産ニ加入スヘシ但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ町村規則ノ規程ニ依リ或ル事業ノ爲ニ特別ノ基本財産若クハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ前項收入ノ一部若クハ全部ヲ特別ノ基本財産若クハ積立金穀等ニ加入スルコトヲ得但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十五條　町村有財産ハ其ノ收益ヲ以テ町村ノ收入ト爲スカ爲ニ管理スルモノトス但シ町村ノ直接ノ公用若クハ町村住民ノ直接ノ共用ニ供シタル町村有財産ニシテ其ノ公用若クハ共用ニ妨アルトキ及特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アル場合ニ於テ其ノ權利ニ抵觸スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十六條　町村有財産ヲ町村住民ノ全部若クハ一部ノ直接ノ共用ニ供スルニハ町村規則ノ規程ニ依ルヘシ

前項ノ規則ニハ使用料ノ外場合ニ依リ加入金徵收ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第六十七條　町村有財産ノ賣却貸與又ハ町村ノ工事及物件調達ノ請負ハ公ノ入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ承諾ヲ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條　町村ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ國區町村其ノ他公共團體若クハ一個人ノ事業ニ對シ寄附若クハ補助ヲ爲スコトヲ得

第六十九條　町村ハ國庫ヨリ支給スルモノヲ除ク外其ノ必要ナル支出及法律命令ニ依リ賦課セラルル支出ヲ負擔スル義務アリ

町村ハ町村有財産ヨリ生スル收入使用料手數料過怠金其ノ他法律命令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第七十條　町村ハ町村有財産若クハ町村ノ營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付使用料又ハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第七十一條　町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキ目左ノ如シ

一　國稅ノ附加稅

二　直接若クハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ニ賦課スルヲ常例トス

特別稅ハ別ニ町村限リ稅目ヲ設ケ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課スルモノトス

第七十二條　此ノ勅令中別ニ規程アルモノヲ除ク外特別稅ニ關スル細則ハ町村條例又使用料手數料ニ關スル細則ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第七十三條　町村住民ニ非スト雖三箇月以上町村內ニ住居ヲ構ヘ若クハ滯在スル者ハ其ノ住居ヲ構ヘタル初若クハ滯在ノ初ニ遡リ町村稅ヲ納ムル義務アルモノトス

町村住民ニ非ス又三箇月以上町村內ニ住居ヲ構ヘ若クハ滯在スルコトナキ者ト雖町村內ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ町村內ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ町村內ニ於テ或ル行爲ヲ爲ス者ハ土地家屋營業若クハ其ノ所得ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムル義務アルモノトス其ノ法人タルトキモ亦同シ但シ官業ハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條　所得稅ノ附加稅ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課スルトキハ納稅義務者ノ町村外ニ於テ所有シ若クハ使用スル土地家屋又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除スヘキモノトス

數市區町村ニ住居ヲ構ヘ若クハ滯在スル者ニ前項ノ町村稅ヲ賦課スルトキハ其ノ所得ヲ各市區町村ニ平分シ其ノ一部分ニノミ課稅スヘシ但シ土地家屋又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條　所得稅法第三條ニ掲クル所得ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

國區町村其ノ他公共團體ノ直接ノ公用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ國區町村其ノ他公共團體ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

社寺ノ用ニ供シ又ハ官立公立ノ學校病院ノ用ニ供シ又ハ官其ノ他公共ノ施設ニ係リ學藝美術慈善ノ用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ社寺又ハ國區町村其ノ他公共團體ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

國有ノ山林若クハ荒蕪地ニ對シテハ國ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財產ニ對シテハ第百十一條ニ掲クル期間中ハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

本條ノ外町村稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ

皇族ニ係ル町村稅ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムルマテ現今ノ例ニ依ル

第七十六條　町村有財產ヲ町村住民ノ一部ノ直接ノ共用ニ供シタル場合ニ於テハ其ノ使用權ヲ有スル者ヲシテ使用ノ多寡ニ準シテ其ノ財產ニ係ル必要ナル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第七十七條　町村住民ノ一部ノミヲ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

町村ノ一部ノミヲ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ部內ニ住居ヲ構ヘ若クハ滯在シ又ハ其ノ部內ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ其ノ部內ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ其ノ部內ニ於テ或ル行爲ヲ爲スニ依リ町村稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得但シ其ノ一部ノ收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

第七十八條　地租ノ附加稅ハ其ノ納期ヲ定メ納期（納期ノ數日ニ亙ル場合ハ其ノ末日）ニ於ケル土地臺帳ノ記名者ヨリ徵收スルモノトス但シ質入ノ土地ニ對シテハ質取主ヨリ徵收スルモノトス

地租ノ附加稅ハ免租地若クハ無租地ノ有租地ト爲リタルトキハ其ノ翌月ヨリ、有租地ノ免租地若クハ無租地ト爲リタルトキハ其ノ前月マテ又地類地目ノ變換等ニ依リ地租ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ月ヨリ月割ヲ以テ徵收スルモノトス

所得稅ノ附加稅ハ本稅ノ納期ニ於テ本稅ヲ納ムル義務アル者ヨリ徵收スルモノトス

本條ニ規定スルモノヲ除ク外附加稅徵收ノ方法ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

本條ノ例ニ依リ難キ場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第七十九條　町村ハ其ノ必要ニ依リ夫役現品ヲ以テ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術手工ニ關スル勞役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外直接町村稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八十條　町村ニ於テ徵收スル使用料加入金手數料町村稅夫役現品ニ代フル金圓其ノ他町村ノ公法上ノ收入ヲ定期內ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ處分スヘシ其ノ督促及手數料ニ關シテハ町村規則ヲ以テ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

納稅義務者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度內ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ超ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵還付期滿免除及先取特權ニ就テハ國稅ニ關スル一般ノ例ヲ適用ス

第八十一條　町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者ニシテ其ノ課目課額ニ錯誤アリト認ムルトキハ納稅ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以內ニ町村長ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

町村有財產若クハ町村ノ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

本條ノ異議ハ町村長之ヲ決定ス其ノ町村長ノ決定ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其ノ郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ異議、訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第八十二條　町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ天災事變等已ムヲ得サル支出若クハ町村ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ增加スルトキハ町村住民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ町村債ヲ起スコトヲ得

町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘキモノトス其ノ變更ヲ要スルトキ又ハ此ノ勅令ヲ行フ前ニ起シタル負債ニ關シ變更ヲ要スルトキモ亦同シ

町村債償還ノ初期ハ起債ノ時ヨリ三年以內ト爲シ年年ノ償還步合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以內ニ還了スルヲ以テ常例トス

町村債ノ總額ハ每年ノ利子額其ノ町村經常支出既往三年（起債ノ都度其ノ前年度ヨリ起算ス）平均額ノ三分ノ一ヲ超過セサルヲ限度トス

町村ハ債券ヲ發行スルコトヲ得ス

豫算內ノ支出ヲ爲スニ付必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

第二款　町村ノ歲入出豫算及決算

第八十三條　町村長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ歲入出豫算ヲ調製シ少クトモ年度二箇月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ但シ町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ町村ノ事務報告書及財產明細表ヲ提出スヘシ

第八十四條　町村長ハ必要ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若クハ更正ヲ爲スコトヲ得

第八十五條　豫算外ノ支出若クハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ但シ町村會ノ否決シタル費目ニ充ツルコトヲ得ス

豫備費ノ支出ハ後日町村會ノ認定ヲ求ムルコトヲ要ス

町村ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用

ヲ支出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

町村ハ町村規則ヲ以テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

豫算調製ノ式並費目流用ニ關スル規程ハ拓殖務大臣ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

豫算ハ町村會ノ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ郡長ニ報告シ並地方所定ノ公告式ニ依リ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第八十六條　豫算ノ議決ヲ經タルトキハ町村長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ其ノ豫算中監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事項アルトキハ先ツ其ノ許可ヲ受クヘシ

收入役ハ町村長ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス町村長ノ命令ヲ受クルモ其ノ支出豫算中豫定ナキカ又ハ其ノ命令前條第一項ノ規程ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

前項ノ規程ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第八十七條　町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ檢査ヲ行ヒ又毎年少クトモ一回臨時檢査ヲ行フヘシ

檢査ハ町村長若クハ其ノ代理者之ヲ行ヒ臨時檢査ハ町村會ノ選擧シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第八十八條　町村ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ以テ期限トス

決算ハ出納閉鎖期限後一箇月以內ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出スヘシ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ次ノ通常豫算會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

町村長ハ決算報告書及之ニ關スル町村會ノ議決ヲ郡長ニ報告シ並地方所定ノ公告式ニ依リ決算ノ要領ヲ公告スヘシ

第五章　町村內一部ノ行政

第八十九條　町村內ノ一部ニシテ所有財產若クハ營造物ニ就キ其ノ部限リ特ニ其ノ費用ヲ負擔スルトキハ北海道廳長官ハ町村會ノ意見ヲ聞キ拓殖務大臣ノ許可ヲ得テ財產營造物ニ關スル事務ノ爲部會ヲ設クルコトヲ得

前項部會ノ組織選擧職務權限處務規程等ハ拓殖務大臣ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第九十條　前條ニ記載スル事務ニ就キ此ノ勅令ノ規程ニ依リ難キ事項其ノ他部ニ關シ特ニ必要ナル事項ハ拓殖務大臣ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第六章　町村組合

第九十一條　郡長ハ公益上必要ト認ムル場合ニ於テハ數町村ノ事務ヲ共同處理セシムル爲北海道廳長官ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコトヲ得

郡長ハ前項ノ許可ヲ受クルニハ組合會議ノ組織費用ノ支辨方法ニ關シ組合規程ヲ設ケ併セテ北海道廳長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ變更ヲ要スルトキモ亦同シ

第九十二條　町村組合ニ就テハ町村ニ關スル規程ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項其ノ他町村組合ニ關シ特ニ必要ナル事項ハ前條ノ組合規程ニ之ヲ規定スヘシ

第九十三條　町村組合ハ郡長ニ於テ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解除スルコトヲ得ス

第九十四條　一級町村ト二級町村トノ組合ニ關シテモ亦本章ノ例ヲ適用ス

第七章　町村行政ノ監督

第九十五條　町村行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ北海道廳長官之ヲ監督シ第三次ニ於テ拓殖務大臣之ヲ監督ス

第九十六條　此ノ勅令ニ規定スル異議、訴願若クハ訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若クハ裁決書ヲ交付シタル日ヨリ二十一日以內ニ提起スヘシ但シ此ノ勅令中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限

ニ在ラス

第九十七條　監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戻セサルヤ其ノ事務錯亂澁滯セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲ニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算決算等ノ書類帳簿ヲ徵シ竝實地ニ就テ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スル權ヲ有ス

監督官廳ハ町村行政ヲ監督スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲ス權ヲ有ス

上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町村行政ニ關シテ爲シタル命令若クハ處分ヲ停止シ若クハ取消スコトヲ得

第九十八條　郡長ハ町村ノ豫算中不適當ノ支出ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得其ノ支出ヲ削減シタル場合ニ於テハ之ニ相當スル收入ヲ削減スヘシ

前項郡長ノ處分ニ不服アル町村會ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル町村會ハ拓殖務大臣ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ訴願ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第九十九條　町村會ノ解散ハ拓殖務大臣之ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選擧スヘシ

郡長ハ十日以内ニ於テ町村會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第百條　町村條例ノ設定ハ拓殖務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第百一條　左ニ掲クル事件ハ拓殖務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　町村債ヲ起シ竝借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若クハ變更スル事但シ第八十二條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二　特別稅ヲ新設シ若クハ變更スル事

三　直接國稅二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

四　間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

五　國庫ヨリ直接ニ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事

第百二條　左ニ掲クル事件ハ北海道廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　町村規則ヲ設定スル事

二　使用料手數料ヲ新設シ若クハ變更スル事

三　道廳ヨリ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事

四　學藝美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物件ノ賣却交換讓渡質入書入若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

五　各種ノ保證ヲ與フル事

六　繼續費ヲ定メ若クハ變更スル事

七　均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

八　第七十六條第七十七條ニ依リ町村住民ノ一部若クハ町村内ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

第百三條　左ニ掲クル事件ハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　町村有不動產ノ賣却交換讓渡竝質入書入ヲ爲ス事

二　基本財產及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事

三　第七十九條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事

第百四條　北海道廳長官郡長ハ町村長書記部長委員其ノ他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フ其ノ北海道廳長官ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トシ郡長ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

前項解職ノ處分ハ職務ニ違背シ若クハ職務ヲ曠廢スル者又ハ行狀ヲ亂リ廉恥ヲ失フ者ニ對シテ之ヲ行フモノトス

隨時解職スルコトヲ得サル吏員ニシテ本條解職ノ處分ニ不服アル者ハ拓殖務大臣ニ訴願スルコトヲ得其ノ訴願ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第八章　附則

第百五條　此ノ勅令施行ノ時期ハ拓殖務大臣之ヲ定ム

第百六條　此ノ勅令ヲ施行スル場合ニ於テ初メテ一級町村ト爲ス地ハ拓殖務大臣之ヲ指定ス

第百七條　此ノ勅令ニ依リ初メテ議員ヲ選擧スルニ付町村會ノ職務ハ町村長之ヲ行フヘシ

第百八條　此ノ勅令ヲ施行スル島嶼其ノ他特別ノ事情アル地ニ就テハ其ノ町村吏員監督官廳ノ職務權限等ニ關シ拓殖務大臣ニ於テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第百九條　此ノ勅令ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依ル但シ現役軍人ヲ除ク

第百十條　現役及豫備役ノ屯田兵村ニハ此ノ勅令ヲ施行セス

第百十一條　屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財産ニ關シテハ屯田兵服役期限中及其ノ滿期ノ年ヨリ十箇年間ハ此ノ勅令ヲ適用セス

第百十二條　此ノ勅令ニ於テ直接稅若クハ間接稅トスヘキ類別ハ拓殖務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百十三條　此ノ附則ニ規定スルモノヲ除ク外此ノ勅令施行ニ付必要ナル事項ハ拓殖務大臣之ヲ定ム

○

朕北海道二級町村制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年五月二十五日

勅令第百六十號（官報　五月二十九日）

北海道二級町村制

第一章　總則

第一款　町村及其ノ區域

第二款　町村住民及其ノ權利義務

第三款　町村條例及町村規則

第二章　町村行政

第一款　町村吏員ノ組織及任用

第二款　町村吏員ノ職務權限

第三款　給料及給與

第三章　町村會

第一款　組織及選擧

第二款　職務權限及處務規程

第四章　町村ノ財務

第一款　町村有財産及町村稅

第二款　町村ノ歲入出豫算及決算

第五章　町村內一部ノ行政

第六章　町村組合

內閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
拓殖務大臣子爵高島鞆之助

第七章　町村行政ノ監督

第八章　附則

北海道二級町村制

第一章　總則

第一款　町村及其ノ區域

第一條　此ノ勅令ハ北海道ニ於テ二級町村ト爲ス地ニ行フモノトス

第二條　町村ハ法人トシ法律命令ヲ以テ定メタル範圍内ニ於ケル公共事務竝從來法律命令若クハ慣例ニ依リ又ハ將來法律命令ニ依リ町村ニ屬スル事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ之ヲ處理スルモノトス

第三條　一級町村制第三條ハ二級町村ニ關シ之ヲ適用ス

第二款　町村住民及其ノ權利義務

第四條　町村内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ町村住民トス

町村住民タル者ハ此ノ勅令ニ從ヒ町村有財産竝町村ノ營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ及町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ有スルモノトス但シ特ニ民法上ノ權利義務ヲ有スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子三年以來(一)町村ノ住民ト爲リ(二)町村ノ負擔ヲ分任シ及(三)町村内ニ於テ地租年額三十錢以上ヲ納メ若クハ直接國税年額一圓五十錢以上ヲ納メ若クハ耕地宅地三町歩以上ヲ所有シ若クハ各納税人ノ直接町村税平均納額以上ノ直接町村税ヲ納ムル者ハ町村公民トス但シ公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後三年ヲ經サル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項三年ノ制限ハ場合ニ依リ町村會ノ議決ヲ經テ郡長ノ許可ヲ受ケ之ヲ特免スルコトヲ得

此ノ勅令ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歳以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサルモノヲ云フ

町村ノ負擔ヲ分任セシムルコトナキ町村ニ於テハ第一項(二)ノ要件ヲ缺クト雖其ノ他ノ要件ヲ具備スル者ハ町村公民トス

町村公民ニシテ相當ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ又ハ無任期ノ職務ヲ少クトモ三年間擔當セス又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサル者ニ對スル處分ノ規則ハ拓殖務大臣之ヲ定ム其ノ規則ニハ町村會ノ議決ニ依リ六年以内町村公民タル權ヲ停止シ場合ニ依リ同年期間他ノ住民ノ負擔スヘキ町村税ノ率ニ比シ四分ノ一以下ヲ增加スル規程ヲ設クルコトヲ得

第六條　町村公民タル者前條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ公民タル權ヲ失フモノトス

町村公民タル者公權停止中若クハ租税滯納處分中ハ公民タル權ヲ停止ス家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ復權ノ決定アルマテ又公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲公判ニ付セラレタルトキハ其ノ裁判ノ確定ニ至ルマテ亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與セサルモノトス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキモ亦同シ

第三款　町村條例及町村規則

第七條　町村ハ町村住民ノ權利義務及町村ノ事務ニ關シ此ノ勅令中明文ナク又ハ條例ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ條例ヲ設クルコトヲ得

町村ハ町村有財産及町村ノ營造物ニ關スル事項其ノ他此ノ勅令中規則ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ規則ヲ設クルコトヲ得

町村條例及町村規則ハ法律命令ニ牴觸スルコトヲ得ス

町村條例及町村規則ヲ發行スルニハ地方所定ノ公告式ニ依ル其ノ公告式ハ町村規則ヲ以テ之ヲ

定ムヘシ

第二章　町村行政

第一款　町村吏員ノ組織及任用

第八條　町村ニ町村長書記其ノ他必要ノ附屬員ヲ置キ有給吏員トス

町村長ハ毎町村若クハ町村組合ニ一名トシ書記ノ定員ハ北海道廳長官之ヲ定ム

町村長ハ北海道廳長官之ヲ任免シ書記ハ郡長之ヲ任免シ其ノ他ノ附屬員ハ町村長之ヲ任免ス

第九條　町村ハ處務便宜ノ爲町村規則ヲ以テ町村ノ區域ヲ數部ニ分チ毎部部長及其ノ代理者各一名ヲ置クコトヲ得

部長及其ノ代理者ハ名譽職トス

部長及其ノ代理者ハ選擧權ヲ有スル町村公民ノ中ニ就キ町村長之ヲ任免ス

第十條　町村ハ町村規則ヲ以テ臨時若クハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會議員若クハ町村公民中選擧權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充テ又ハ町村會議員及町村公民中選擧權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ合議體ニ組織シタル場合ニ於テハ町村長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル書記ヲ以テ委員長トス

委員ハ郡長之ヲ任免ス

委員ノ組織等ニ關スル事項ハ第一項ノ規則ニ之ヲ規定スヘシ

第二款　町村吏員ノ職務權限

第十一條　町村長ハ町村ヲ統轄シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　町村會ノ議事ヲ準備シ竝其ノ議決ヲ承認シ及執行スル事

二　町村有財産及町村ノ營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三　町村ノ權利ヲ保護スル事

四　町村ノ歳入ヲ管理シ町村ノ收入ヲ受領シ其ノ費用ノ支拂ヲ爲シ其ノ他會計事務ヲ處理スル事

五　町村吏員ヲ監督シ書記委員ヲ除ク外其ノ他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

六　町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七　外部ニ對シテ町村ヲ代表シ及町村ノ名義ヲ以テ他廳若クハ一個人ト交渉スル事

八　法律命令若クハ町村會ノ議決ニ依リ使用料加入金手數料町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九　町村條例及町村規則ヲ設定スル事

十　町村營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十一　其ノ他法律命令若クハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第十二條　町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一　司法警察官ノ職務

二　浦役場ノ事務

三　國ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但シ別ニ吏員ノ設アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第十三條　町村長若クハ監督官廳ニ於テ町村會ノ議決其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキ又ハ町村會ニ於テ必要ノ收支ニ關シ否決シタルトキ又ハ町村長若クハ

監督官廳ニ於テ町村會ノ議決必要ノ收支ニ關シ不當ノ削減ヲ爲スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ郡長ニ申立テ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ郡長ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ郡長ハ北海道廳長官ノ認許ヲ得テ指揮スヘキモノトス

第十四條　町村會招集ニ應セス若クハ成立セサルトキハ町村長ハ郡長ニ申立テ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

町村會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス若クハ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

第一項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

第十五條　第五十二條但書若クハ第五十四條第二項ノ場合ニ於テ全ク會議ヲ開クコト能ハサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第十六條　書記ハ町村長ノ命令ヲ承ケ國ノ行政及町村ノ行政ニ係ル庶務ニ從事ス

町村長故障アルトキハ上席書記國ノ行政及町村ノ行政ニ付其ノ職務ヲ代理ス

町村長ハ書記ヲシテ國ノ行政若クハ町村ノ行政事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十七條　部長及其ノ代理者ハ町村長ノ命令ヲ承ケ部內ニ關スル國ノ行政及町村ノ行政ニ付町村長ノ事務ヲ補助執行ス

第十八條　委員ハ町村長ノ監督ニ屬シ町村有財產若クハ町村ノ營造物ヲ管理シ其ノ他町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

委員ノ職務權限ニ關スル細則ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第十九條　町村役場及町村吏員ノ處務規程ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

町村吏員ノ服務紀律ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第三款　給料及給與

第二十條　名譽職吏員ハ職務取扱ノ爲ニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

部長及其ノ代理者竝委員ニハ實費辨償ノ外町村會ノ議決ヲ經テ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

實費辨償額報酬額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經テ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十一條　町村長及書記ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ北海道廳長官之ヲ定メ其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ町村規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十二條　給料旅費報酬辨償等ハ町村ノ負擔トス但シ町村長ノ給料及旅費ハ國庫ヨリ支給ス

第三章　町村會

第一款　組織及選舉

第二十三條　町村會議員ハ町村ノ選舉人其ノ被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其ノ定員左ノ如シ

一人口千五百未滿ノ町村ニ於テハ　議員八人
一人口千五百以上五千未滿ノ町村ニ於テハ　議員十二人
一人口五千以上一萬未滿ノ町村ニ於テハ　議員十六人
一人口一萬以上二萬未滿ノ町村ニ於テハ　議員二十人
一人口二萬以上ノ町村ニ於テハ　議員二十四人

前項ノ定員ハ町村規則ヲ以テ之ヲ減スルコトヲ得

第二十四條　町村公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者及第六條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

直接町村稅ヲ納ムル者其ノ額町村公民ノ最多ク直接町村稅ヲ納ムル三名中ノ一名ヨリモ多キトキハ町村住民ニ非サル者又ハ三年以來ノ町村住民ニ非サル者ト雖第五條ニ掲載スル其ノ他ノ要

件ヲ具備スルトキハ選舉權ヲ有ス但シ第六條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　選舉人ハ分テ二級トス

選舉人中直接町村稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉人ヲ二級トス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ町村內ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年長者ヲ以テシ年齡ニモ依リ難キトキハ町村長自ラ抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人每級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス其ノ被選舉人ハ同級內ノ者ニ限ラサルモノトス

第二十六條　區域廣濶又ハ人口稠密ナル町村ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ區畫ヲ定メ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但シ特ニ二級選舉ノ爲之ヲ設クルモ妨ナシ

分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム

分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開クヘシ其ノ他選舉ノ手續會場ノ取締等總テ本會ノ例ニ依ル

第二十七條　特別ノ事情アル町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得

選舉區ノ數及其ノ區域竝各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ハ選舉人ノ員數ニ準シ前項ノ條例ニ之ヲ規定スヘシ

選舉人ハ住居ヲ占ムル地ニ依テ所屬ノ選舉區ヲ定ム其ノ町村內ニ住居ヲ占メサル者ハ直接町村稅ノ賦課ヲ受ケタル物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム若數選舉區ニ亙リ賦課ヲ受ケタル物件アルトキハ稅額ノ最多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム又直接町村稅ノ賦課ヲ受ケタル物件ナキトキハ住居ヲ構ヘ若クハ滯在スル地ニ依テ之ヲ定ムヘシ但シ本文ノ場合ニ於テ稅額ノ相同キトキ又ハ數選舉區ニ亙リ住居ヲ構ヘ若クハ滯在スルトキハ本人ノ申出ニ依テ之ヲ定ムヘシ

選舉區ヲ設クルトキハ各選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ

各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數各級ニ等分シ難キトキハ各選舉區各級ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ヲ第一項ノ條例ニ規定スヘシ

被選舉人ハ其ノ選舉區內ノ者ニ限ラサルモノトス

第二十八條　選舉權ヲ有スル町村公民ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス

一　北海道廳及所屬郡ノ官吏

二　有給ノ町村吏員

三　檢事及警察官吏

四　神官僧侶其ノ他諸宗教師

五　小學校教員

其ノ他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其ノ多キ者一人ヲ當選トシ同數ナレハ年長者ヲ當選トシ同年ナレハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

町村長トノ間父子兄弟タル緣故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若議員トノ間ニ其ノ緣故アル者町村長ノ任命ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル議員ハ其ノ職ヲ失フモノトス

第二十九條　町村會議員ハ名譽職トス其ノ任期ハ六年トシ每三年各級ニ於テ其ノ半數ヲ改選ス若各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退職セシムヘシ初回ニ於テ退職セシムヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ任期ハ總選舉ヲ行ヒタル日（選舉ノ數日ニ亙ル場合ハ其ノ初日）又ハ定期改選期日（選舉ノ數日ニ亙ル場合ハ其ノ初日）

ヨリ起算シ曆ニ從フ但シ總選舉ノ場合ニ於テ一部ノ議員後レテ選舉セラレ又ハ定期改選ノ場合ニ於テ一部若クハ全部ノ議員其ノ期日後ニ選舉セラルルコトアルモ先ニ總選舉ヲ行ヒタル日又ハ定期改選期日ヨリ起算ス

退職ノ議員ハ再選セラルルコトヲ得

議員ニ關シテハ第二十條第一項第三項第二十二條ノ例ヲ適用ス

第三十條　町村會議員中闕員アルトキハ毎三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フヘシ若定員三分ノ一以上闕員アルトキ又ハ町村長若クハ町村會ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選舉ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ從テ之カ選舉ヲ行フヘシ

第三十一條　町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其ノ選舉前四十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉原簿ヲ調製シ此ノ原簿ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區ヲ設クルトキハ毎選舉區各別ニ原簿及名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿ハ其ノ選舉前三十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ十四日間町村役場ニ於テ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期限內ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

町村長ハ前項ノ申立ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スト認ムルトキハ選舉ノ日ヨリ七日前ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ヲ行フコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以內ニ於テ選舉ヲ行フトキモ亦之ヲ適用ス

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第三十二條　選舉ヲ行フトキハ町村長ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ選舉ノ場所日時竝每選舉區及每級ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ヲ公告スヘシ

各級ニ於テ選舉ヲ行フ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ

第三十三條　選舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ町村長若クハ其ノ代理者ハ掛長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス但シ選舉分會若クハ選舉區ヲ設クルトキハ各別ニ選舉掛ヲ設クヘシ

第三十四條　選舉開會中ハ選舉人ヲ除ク外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議若クハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條　選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名又ハ其ノ住所氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ之ヲ掛長ニ差出スヘシ但シ選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

町村住民ニ非スシテ第二十四條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且公權停止中ニ非サル獨立ノ男子ニ限ル但シ一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス又代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示スヘシ

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但シ投票函ハ投票ヲ終ルマテ之ヲ開クコトヲ得ス

第三十六條　單名投票ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノハ之ヲ無效トス連名投票ニシテ第一號第五號第六號ニ該當スルモノモ亦同シ又連名投票ニシテ第二號乃至第四號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無效トス

一　氏名ヲ記載セサルモノ

二　記載シタル氏名ノ讀ミ難キモノ

三　被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四　被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五　被選舉人ノ住所氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ位階敬稱ノ類ヲ記入スルハ此ノ限ニ在ラス

六　投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

投票ニ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ定數ヲ過クルトキハ末尾ニ記載シタルモノヲ順次ニ棄却スヘシ

投票ノ受理竝效力ニ關スル事項ハ選舉掛之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第三十七條　町村會議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取リ同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

同時ニ補闕議員數名ヲ選舉スルトキハ投票數ノ多キ者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ投票ノ數相同キトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ順序ヲ定ム

第三十八條　選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其ノ他關係書類ヲ合綴シテ選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ署名捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

投票ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

第三十九條　選舉ヲ終リタルトキハ選舉掛長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ其ノ當選ヲ辭セントスル者ハ當選ノ告知ヲ發シタル日ヨリ五日以內ニ之ヲ町村長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數級若クハ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ當選ノ告知ヲ最終ニ發シタル日ヨリ五日以內ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ町村長ニ申立ツヘシ其ノ期限內ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタル者ト看做スヘシ

定期改選ト補闕選舉トヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ兩選舉ニ當リタルトキモ亦前項ノ例ヲ適用ス

本條ニ依リ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

選舉ヲ終リ當選者定マリタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ公告シ同時ニ選舉錄ノ寫ヲ添ヘ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第四十條　郡長ニ於テ選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ前條ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ六十日以內ニ選舉ヲ取消スヘシ但シ北海道廳長官ノ認許ヲ受クルコトヲ要ス

第四十一條　選舉ノ規程ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無效トシ又當選者中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ當選ヲ無效トスヘキモノトス但シ選舉ノ規程ニ違背スル所アルモ其ノ事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條　選舉若クハ當選無效ト爲リタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第四十三條　町村會議員中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

町村長若クハ町村會ニ於テ前項ニ該當スル者アルコトヲ發見シタルトキハ郡長ニ申立ツヘシ

第一項資格要件ノ有無ハ郡長ニ於テ前項ノ申立ニ依リ又ハ其ノ職權ヲ以テ之ヲ決定ス但シ北海道廳長官ノ認許ヲ受クルコトヲ要ス

第四十四條　特別ノ事情アル場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ選舉ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得

第二款　職務權限及處務規程

第四十五條　町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ

一　歲入出豫算ヲ定ムル事

二　法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料加入金手數料町村稅及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事

三　町村有不動産ノ賣買交換譲受譲渡竝質入書入ヲ爲ス事
四　基本財産及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事
五　歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
六　町村有財産ノ管理方法ヲ定ムル事
七　町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事
其ノ他町村會ノ職權ハ法律命令ノ定ムル所ニ依ル

第四十六條　町村會ハ町村長ノ報告書ヲ請求シテ町村有財産ノ管理竝收入支出ノ正否ヲ檢査スルコトヲ得
町村會ハ前項ノ目的ノ爲ニ五名以下ノ委員ヲ議員中ヨリ選擧シ町村長若クハ其ノ指命シタル吏員立會ノ上關係書類竝金庫ヲ檢閲セシムルコトヲ得
町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ町村長若クハ監督官廳ニ差出スコトヲ得
町村會ハ町村長若クハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

第四十七條　議員タル者ハ選擧人ノ指示若クハ委囑ヲ受クヘカラサルモノトス

第四十八條　町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス
町村會ハ町村會議員中ヨリ議長代理者一名ヲ選擧スヘシ
議長代理者ハ町村會議員ノ定期改選期日ノ前日マテ在職スルモノトス但シ議員ノ職ヲ退クトキハ其ノ職ヲ失フモノトス
第二項ノ選擧ハ總選擧ヲ行ヒタル場合ハ初會ニ於テ其ノ他ハ前任者退職當時ノ會議又ハ退職後ノ初會ニ於テ之ヲ行フ

第四十九條　議長故障アルトキハ其ノ代理者之ニ代リ議長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ假議長トスヘシ但シ臨時ニ假議長ヲ選擧スルモ妨ナシ

第五十條　町村長及其ノ委任ヲ受ケタル吏員ハ何時ニテモ會議ニ出席シ及發言スルコトヲ得但シ議員ノ演説ヲ中止スルコトヲ得ス
前項ノ出席者ハ議員ノ職ニ在ル者ヲ除ク外議決ニ加ハルコトヲ得ス

第五十一條　町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ町村長會期ヲ定メテ之ヲ招集ス議員四分ノ一以上ヨリ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキモ亦同シ
招集竝會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除ク外少クトモ會議ノ三日前タルヘシ
町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

第五十二條　町村會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付集會再回ニ至ルモ議員仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條　町村會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第五十四條　議長及議員ハ自己若クハ其ノ父母妻子兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ就テハ町村會ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス
前項除席ノ爲ニ議員ノ數減少シテ會議ヲ開ク定數ニ滿タサルトキモ仍會議ヲ開クコトヲ得

第五十五條　町村會ノ會議ハ公開ス但シ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得又町村長ヨリ要求アリタルトキハ傍聽ヲ禁スヘシ

第五十六條　議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十七條　會議及傍聽ノ紀律竝取締ニ關スル規則ハ拓殖務大臣之ヲ定ム其ノ規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設クルコトヲ得

第五十八條　前條ニ依リ拓殖務大臣ノ定ムル規則ノ外町村會ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ會議規

則及傍聽規則ヲ設クヘシ其ノ會議規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以內出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設クルコトヲ得

町村會ニ於テ行フ選舉ノ方法ハ會議規則ニ之ヲ規定スヘキモノトス

第五十九條　町村會ノ書記ハ町村吏員ノ中ニ就キ町村長之ヲ命ス

書記ハ議長ニ隸屬シテ庶務ニ從事ス

議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シテ會議ノ顚末竝出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ

會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名捺印スヘキモノトス

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ町村長ニ報告スヘシ

第四章　町村ノ財務

第一款　町村有財產及町村稅

第六十條　町村ハ不動產積立金穀等ヲ以テ基本財產ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ

北海道廳長官ハ町村ノ經濟ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ額ヲ定メテ基本財產ヲ蓄積セシムルコトヲ得

臨時ニ收入シタル金穀等ハ基本財產ニ加入スヘシ但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ町村規則ノ規程ニ依リ或ル事業ノ爲ニ特別ノ基本財產若クハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ前項收入ノ一部若クハ全部ヲ特別ノ基本財產若クハ積立金穀等ニ加入スルコトヲ得但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十一條　町村有財產ハ其ノ收益ヲ以テ町村ノ收入ト爲スカ爲ニ管理スルモノトス但シ町村ノ直接ノ公用若クハ町村住民ノ直接ノ共用ニ供シタル町村有財產ニシテ其ノ公用若クハ共用ニ妨

アルトキ及特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アル場合ニ於テ其ノ權利ニ抵觸スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條　町村有財產ヲ町村住民ノ全部若クハ一部ノ直接ノ共用ニ供スルニハ町村規則ノ規程ニ依ルヘシ

前項ノ規則ニハ使用料ノ外場合ニ依リ加入金徵收ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第六十三條　町村有財產ノ賣却貸與又ハ町村ノ工事及物件調達ノ請負ハ公ノ入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ承諾ヲ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條　町村ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ國區町村其ノ他公共團體若クハ一個人ノ事業ニ對シ寄附若クハ補助ヲ爲スコトヲ得

第六十五條　町村ハ國庫ヨリ支給スルモノヲ除ク外其ノ必要ナル支出及法律命令ニ依リ賦課セラルル支出ヲ負擔スル義務アリ

町村ハ町村有財產ヨリ生スル收入使用料手數料過怠金其ノ他法律命令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第六十六條　町村ハ町村有財產若クハ町村ノ營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付使用料又ハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第六十七條　町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキ目左ノ如シ

一、國稅ノ附加稅

二、直接若クハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ニ賦課スルヲ常例トス

特別稅ハ別ニ町村限リ稅目ヲ設ケ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課スルモノトス

第六十八條　此ノ勅令中別ニ規程アルモノヲ除ク外特別税使用料手數料ニ關スル細則ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スベシ

第六十九條　町村住民ニ非スト雖三箇月以上町村内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル者ハ其ノ住居ヲ構ヘタル初若クハ滞在ノ初ニ遡リ町村税ヲ納ムル義務アルモノトス

町村住民ニ非ス又三箇月以上町村内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スルコトナキ者ト雖町村内ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ町村内ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ町村内ニ於テ或ル行爲ヲ爲ス者ハ土地家屋營業若クハ其ノ所得ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル町村税ヲ納ムル義務アルモノトス其ノ法人タルトキモ亦同シ但シ官業ハ此ノ限ニ在ラス

第七十條　所得税ノ附加税ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得税ヲ賦課スルトキハ納税義務者ノ町村外ニ於テ所有シ若クハ使用スル土地家屋又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除スヘキモノトス

數市區町村ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル者ニ前項ノ町村税ヲ賦課スルトキハ其ノ所得ヲ各市區町村ニ平分シ其ノ一部分ニノミ課税スヘシ但シ土地家屋又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ此ノ限ニ在ラス

第七十一條　所得税法第三條ニ掲クル所得ニ對シテハ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス

國區町村其ノ他公共團體ノ直接ノ公用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ國區町村其ノ他公共團體ニ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス

社寺ノ用ニ供シ又ハ官立公立ノ學校病院ノ用ニ供シ又ハ官其ノ他公共ノ施設ニ係リ學藝美術慈善ノ用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ社寺又ハ國區町村其ノ他公共團體ニ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス

國有ノ山林若クハ荒蕪地ニ對シテハ國ニ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス

屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財産ニ對シテハ第百四條ニ掲クル期間中ハ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス

本條ノ外町村税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ

皇族ニ係ル町村税ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムルマテ現今ノ例ニ依ル

第七十二條　町村有財産ヲ町村住民ノ一部ノ直接ノ共用ニ供シタル場合ニ於テハ其ノ使用權ヲ有スル者ヲシテ使用ノ多寡ニ準シテ其ノ財産ニ係ル必要ナル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第七十三條　町村住民ノ一部ノミヲ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

町村ノ一部ノミヲ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ部内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在シ又ハ其ノ部内ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ其ノ部内ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ其ノ部内ニ於テ或ル行爲ヲ爲スニ依リ町村税ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得但シ其ノ一部ノ收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツベシ

第七十四條　地租ノ附加税ハ其ノ納期ヲ定メ納期ノ數日ニ亙ルトキハ其ノ末日ニ於ケル土地臺帳ノ記名者ヨリ徵收スルモノトス但シ質入ノ土地ニ對シテハ質取主ヨリ徵收スルモノトス

地租ノ附加税ハ免租地若クハ無租地ノ有租地ト爲リタルトキハ其ノ翌月ヨリ、有租地ノ免租地若クハ無租地ト爲リタルトキハ其ノ前月マテ又地類地目ノ變換等ニ依リ地租ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ月ヨリ月割ヲ以テ徵收スルモノトス

所得税ノ附加税ハ本税ノ納期ニ於テ本税ヲ納ムル義務アル者ヨリ徵收スルモノトス

本條ニ規定スルモノヲ除ク外附加税徵收ノ方法ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スベシ

本條ノ例ニ依リ難キ場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第七十五條　町村ハ其ノ必要ニ依リ夫役現品ヲ以テ納税義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術

手工ニ關スル勞役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外直接町村稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第七十六條　町村ニ於テ徵收スル使用料加入金手數料町村稅夫役現品ニ代フル金圓其ノ他町村ノ公法上ノ收入ヲ定期內ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ處分スヘシ其ノ督促及手數料ニ關シテハ町村規則ヲ以テ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

納稅義務者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度內ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ超ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵還付期濟免除及先取特權ニ就テハ國稅ニ關スル一般ノ例ヲ適用ス

第七十七條　町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者ニシテ其ノ課目課額ニ錯誤アリト認ムルトキハ納稅ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以內ニ町村長ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

町村有財產若クハ町村ノ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

本條ノ異議ハ町村長之ヲ決定ス其ノ町村長ノ決定ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其ノ郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ異議訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第七十八條　町村ハ此ノ勅令ヲ行フ前ニ起シタル負債ヲ償還スル爲ニ必要ナル場合ニ限リ町村債ヲ起スコトヲ得其ノ他一級町村制第八十二條第二項乃至第五項ヲ適用ス

豫算內ノ支出ヲ爲スニ付必要ナル一時ノ借入金ハ前項ノ例ニ依ラス其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

第二款　町村ノ歲入出豫算及決算

第七十九條　町村長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ歲入出豫算ヲ調製シ少クトモ年度二箇月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ但シ町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ町村ノ事務報告書及財產明細表ヲ提出スヘシ

第八十條　町村長ハ必要ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若クハ更正ヲ爲スコトヲ得

第八十一條　豫算外ノ支出若クハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ但シ町村會ノ否決シタル費目ニ充ツルコトヲ得ス

豫備費ノ支出ハ後日町村會ノ認定ヲ求ムルコトヲ要ス

町村ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

町村ハ町村規則ヲ以テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

豫算調製ノ式竝費目流用ニ關スル規程ハ拓殖務大臣ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

豫算ハ町村會ノ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ郡長ニ報告シ竝地方所定ノ公告式ニ依リ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第八十二條　町村ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ以テ期限トス

決算ハ出納閉鎖期限後初回ノ通常豫算會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

町村長ハ決算報告書及之ニ關スル町村會ノ議決ヲ郡長ニ報告シ竝地方所定ノ公告式ニ依リ決算ノ要領ヲ公告スヘシ

第五章　町村内一部ノ行政

第八十三條　町村内ノ一部ニシテ所有財産若クハ營造物ニ就キ其ノ部限リ特ニ其ノ費用ヲ負擔スルトキハ北海道廳長官ハ町村會ノ意見ヲ聞キ拓殖務大臣ノ許可ヲ得テ財産營造物ニ關スル事務ノ爲部會ヲ設クルコトヲ得

前項部會ノ組織選舉職務權限處務規程等ハ拓殖務大臣ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第八十四條　前條ニ記載スル事務ニ就キ此ノ勅令ノ規程ニ依リ難キ事項其ノ他部ニ關シ特ニ必要ナル事項ハ拓殖務大臣ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第六章　町村組合

第八十五條　郡長ハ公益上必要ト認ムル場合ニ於テハ數町村ノ事務ヲ共同處理セシムル爲北海道廳長官ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコトヲ得

郡長ハ前項ノ許可ヲ受クルニハ組合會議ノ組織費用ノ支辨方法ニ關シ組合規程ヲ設ケ併セテ北海道廳長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ變更ヲ要スルトキモ亦同シ

第八十六條　町村組合ニ就テハ町村ニ關スル規程ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項其ノ他町村組合ニ關シ特ニ必要ナル事項ハ前條ノ組合規程ニ之ヲ規定スヘシ

第八十七條　町村組合ハ郡長ニ於テ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解除スルコトヲ得ス

第七章　町村行政ノ監督

第八十八條　町村行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ北海道廳長官之ヲ監督シ第三次ニ於テ拓殖務大臣之ヲ監督ス

第八十九條　此ノ勅令ニ規定スル異議、訴願若クハ訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若クハ裁決書ヲ交付シタル日ヨリ二十一日以内ニ提起スヘシ但シ此ノ勅令中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十條　監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戻セサルヤ其ノ事務錯亂澁滯セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲ニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算決算等ノ書類帳簿ヲ徵シ並實地ニ就テ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スル權ヲ有ス

監督官廳ハ町村行政ヲ監督スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲ス權ヲ有ス

上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町村行政ニ關シテ爲シタル命令若クハ處分ヲ停止シ若クハ取消スコトヲ得

第九十一條　郡長ハ町村ノ豫算中不適當ノ支出ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得其ノ支出ヲ削減シタル場合ニ於テハ之ニ相當スル收入ヲ削減スヘシ

前項ノ處分ハ北海道廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第九十二條　町村會ノ解散ハ拓殖務大臣之ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選擧スヘシ

郡長ハ十日以内ニ於テ町村會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第九十三條　町村條例ノ設定ハ拓殖務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第九十四條　左ニ掲クル事件ハ拓殖務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　町村債ヲ起シ竝借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若クハ變更スル事但シ第七十八條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二　特別稅ヲ新設シ若クハ變更スル事

三　直接國稅二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

四　間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

第九十五條　左ニ掲クル事件ハ北海道廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　町村規則ヲ設定スル事
二　使用料手數料ヲ新設シ若クハ變更スル事
三　道廳ヨリ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事
四　學藝美術ニ關シ又ハ歴史上貴重ナル物件ノ賣却交換讓渡質入書入若クハ大ナル變更ヲ爲ス事
五　各種ノ保證ヲ與フル事
六　繼續費ヲ定メ若クハ變更スル事
七　均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
八　第七十二條第七十三條ニ依リ町村住民ノ一部若クハ町村內ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

第九十六條　左ニ掲クル事件ハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
一　町村有不動產ノ賣却交換讓渡竝質入書入ヲ爲ス事
二　基本財產及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事
三　第七十五條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事

第九十七條　北海道廳長官郡長ハ町村長書記部長委員其ノ他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フ其ノ北海道廳長官ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トシ郡長ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

第八章　附則

第九十八條　此ノ勅令施行ノ時期ハ拓殖務大臣之ヲ定ム

第九十九條　此ノ勅令ヲ施行スル場合ニ於テ初メテ三級町村ト爲ス地ハ拓殖務大臣之ヲ指定ス

第百條　此ノ勅令ニ依リ初メテ議員ヲ選擧スルニ付町村會ノ職務ハ町村長之ヲ行フヘシ

第百一條　此ノ勅令ヲ施行スル島嶼其ノ他特別ノ事情アル地ニ就テハ其ノ町村吏員監督官廳ノ職務權限等ニ關シ拓殖務大臣ニ於テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第百二條　此ノ勅令ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依ル但シ現役軍人ヲ除ク

第百三條　現役及豫備役ノ屯田兵村ニハ此ノ勅令ヲ施行セス

第百四條　屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財產ニ關シテハ屯田兵服役期限中及其ノ滿期ノ年ヨリ十箇年間ハ此ノ勅令ヲ適用セス

第百五條　此ノ勅令ニ於テ直接稅若クハ間接稅トスヘキ類別ハ拓殖務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百六條　此ノ附則ニ規定スルモノヲ除ク外此ノ勅令施行ニ付必要ナル事項ハ拓殖務大臣之ヲ定ム

○

朕臺灣總督府評議會章程中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年五月二十七日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
拓殖務大臣子爵高島鞆之助

勅令第百六十一號（官報　五月三十一日）

明治二十九年勅令第八十九號臺灣總督府評議會章程中左ノ通改正ス

第二條　評議會ハ明治二十九年法律第六十三號ニ依ル命令ヲ議決スルノ外總督ニ於テ特ニ必要ト認メテ諮詢スル事項ニ付意見ヲ答申スルモノトス

〔參照〕
勅令第八十九號臺灣總督府評議會章程（明治二十九年三月三十一日官報）抄錄
第二條　評議會ハ明治二十九年法律第六十三號ニ依ル命令ヲ議決スルノ外總督ノ諮詢ニ依リ左ノ事項ニ付意見ヲ答申ス

一　豫算案及決算
二　重大ナル土木工事ノ設計
三　人民ノ請願ニシテ特ニ重大ナルモノ
右ノ外總督ニ於テ必要ト認メ特ニ諮詢スル事項

○

朕臺灣總督府製藥所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年五月二十七日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
拓殖務大臣子爵高島鞆之助

勅令第百六十二號（官報　五月三十一日）

臺灣總督府製藥所官制

第一條　臺灣總督府製藥所ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ製藥ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二條　臺灣總督府製藥所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
事務官
技師
技手
屬
通譯

第三條　所長ハ奏任トス臺灣總督府民政局長ノ命ヲ承ケ所内一切ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條　事務官ハ專任一人奏任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ノ事ヲ掌ル

第五條　技師ハ專任四人奏任トス所長ノ指揮ヲ承ケ阿片其ノ他ノ製煉分析等ニ關スル事務ニ從事ス

第六條　技手ハ專任五人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第七條　屬ハ二十人判任トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　通譯ハ四人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

○

朕臺灣總督府撫墾署官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年五月二十七日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
拓殖務大臣子爵高島鞆之助

勅令第百六十三號（官報　五月三十一日）

臺灣總督府撫墾署官制

第一條　臺灣總督府撫墾署ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　蕃民ノ撫育、授産、取締ニ關スル事項
二　蕃地ノ開墾ニ關スル事項
三　蕃地ノ山林、樟腦製造ニ關スル事項

第二條　各撫墾署ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

主事　十一人　奏任

主事補　百四人　判任

第三條　主事ハ各撫墾署長トナリ知事、廳長ノ指揮監督ヲ承ケ署中一切ノ事務ヲ管理ス

第四條　主事補ハ署長ノ指揮ヲ承ケ庶務、技術、通譯ニ從事ス

第五條　撫墾署ノ名稱、位置及管理區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

第六條　知事、廳長ハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ須要ノ地ニ撫墾署ノ出張所ヲ置クコトヲ得

○

朕臺灣總督府燈臺所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年五月二十七日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
拓殖務大臣子爵高島鞆之助

勅令第百六十四號（官報　五月三十一日）

明治二十九年勅令第九十六號臺灣總督府燈臺所官制中左ノ通改正ス

第五條中「六人」ヲ「七人」ニ改ム

第六條中「二十人」ヲ「二十五人」ニ改ム

〔參照〕

勅令第九十六號臺灣總督府燈臺所官制（明治二十九年三月三十一日官報）抄錄

第五條　所長ハ各所ヲ通シテ六人ヲ以テ定員トス

第六條　看守ハ各所ヲ通シテ二十人ヲ以テ定員トス

○

朕臺灣總督府測候所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年五月二十七日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
拓殖務大臣子爵高島鞆之助

勅令第百六十五號（官報　五月三十一日）

明治二十九年勅令第九十七號臺灣總督府測候所官制中左ノ通改正ス

第六條中「十六人」ヲ「十九人」ニ改ム

〔參照〕

勅令第九十七號臺灣總督府測候所官制（明治二十九年三月三十一日官報）抄錄

第六條　技手ハ各所ヲ通シテ十六人ヲ以テ定員トス

○

朕臺灣總督府郵便及電信局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年五月二十七日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
拓殖務大臣子爵高島鞆之助

勅令第百六十六號（官報　五月三十一日）

明治二十九年勅令第九十五號臺灣總督府郵便及電信局官制中左ノ通改正ス

第二條　郵便及電信局ヲ分テ一等郵便電信局二等郵便電信局二等電信局トス

臺灣總督ハ必要ト認ムル地ニ郵便及電信局ノ支局ヲ置クコトヲ得

第四條、第十條及第十三條中「通譯生」ヲ「通譯」ト改ム

第十一條中「十七人」ヲ「二十人」ニ改ム

第十二條中「三百六十五人」ヲ「五百五十六人」ニ改ム

第十三條中「三十四人」ヲ「五十五人」ニ改ム

別表左ノ如ク改ム

一等郵便電信局名稱位置及管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
臺北郵便電信局	臺北	臺北縣新竹縣
宜蘭郵便電信局	宜蘭	宜蘭廳
臺中郵便電信局	臺灣	臺中縣嘉義縣
臺南郵便電信局	臺南	臺南縣澎湖島廳鳳山縣
臺東郵便電信局	臺南	臺東廳

〔參照〕

勅令第九十五號臺灣總督府郵便及電信局官制（明治二十九年三月三十一日官報）抄錄

第二條　縣廳所在地ニ一等郵便電信局、島廳及支廳所在地其ノ他樞要ノ地ニ二等郵便電信局ヲ置ク

臺灣總督ハ其ノ必要ト認ムル地ニ二等郵便局二等電信局又ハ郵便及電信ノ支局ヲ置クコトヲ得

第四條　一等郵便電信局、二等郵便電信局、二等郵便局及二等電信局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

郵便電信書記

通譯生

第十條　通譯生ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

第十一條　一等郵便電信局長及奏任二等郵便電信局長ハ各局ヲ通シテ十七人ヲ以テ定員トス

第十二條　郵便電信書記ハ各局ヲ通シテ三百六十五人ヲ以テ定員トス

第十三條　通譯生ハ各局ヲ通シテ三十四人ヲ以テ定員トス

（別表）

一等郵便電信局名稱位置管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
臺北郵便電信局	臺北	臺北縣
臺中郵便電信局	臺灣	臺中縣
臺南郵便電信局	臺南	臺南縣

○朕臺灣總督府職員官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年五月二十七日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
拓殖務大臣子爵高島鞆之助

勅令第百六十七號（官報　五月三十一日）

明治二十九年勅令第九十九號臺灣總督府職員官等俸給令中左ノ通改正ス

第二條　臺灣總督ノ年俸ハ六千圓民政局長ハ四千圓又ハ四千五百圓勅任事務官ハ三千圓又ハ三千五百圓トス

第三條第一項但書ヲ「但シ稅關長ハ七級俸以上、製藥所事務官ハ二級俸以下トス」ニ改メ稅關鑑定官ノ次ニ「製藥所長」「製藥所事務官」ノ二項ヲ加フ

高等文官官等表中稅關鑑定官ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

製藥所長	同上
製藥所事務官	同上

高等文官官等相當俸給表中臺灣總督祕書官ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

製藥所長	同上
製藥所事務官	同上

〔參照〕

勅令第九十九號臺灣總督府職員官等俸給令（明治二十九年三月三十一日官報）抄錄

第二條　臺灣總督ノ年俸ハ六千圓、民政局長ハ四千圓、知事及勅任事務官ハ三千圓トス

第三條　左ニ掲クル者ノ俸給ハ第一號俸給表ニ依ル但稅關長ハ七級俸以上、警部長及祕書記官ハ二級俸以下トス

（以下略ス）

○

朕臺灣總督府判任文官特別俸支給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年五月二十七日

勅令第百六十八號（官報　五月三十一日）

臺灣總督府判任文官ニシテ月俸六十圓ヲ受ケ一箇年ヲ踰エ事務練熟優等ナル者ハ當分ノ內判任官俸給令第四條ノ規定ニ拘ラス月俸七十五圓マテヲ給スルコトヲ得

內閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田淸隆
拓殖務大臣子爵高島鞆之助

〔參照〕

勅令第八十三號判任官俸給令（明治二十四年七月二十七日官報）抄錄

第四條　判任官最上級俸ヲ受ケ五年ヲ踰（事務練熟優等ナル者ハ特別ヲ以テ別表ノ範圍ニ拘ラス漸次七十五圓マテ增俸スルコトアルヘシ

朕葉煙草專賣法ヲ施行セサル地方ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年五月三十一日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百六十九號（官報　六月三日）

明治二十九年法律第三十五號葉煙草專賣法第三十條ニ依リ左ノ地方ニハ當分ノ內同法ヲ施行セス

一北海道廳管下國後郡、色丹郡、得撫郡、新知郡、占守郡、紗那郡、振別郡、擇捉郡、蘂取郡

一東京府管下小笠原島及伊豆七島

一鹿兒島縣管下大島郡ノ內硫黃島、黑島、竹島、口ノ島、臥蛇島、平島、中ノ島、惡石島、諏訪ノ瀨島、寶島、沖永良部島、與論島

一沖繩縣管下伊平屋島、伊是名島、具志川島、野甫島、久米島、渡嘉敷島、前島、座間味島、阿嘉島、慶留間島、久場島、栗國島、渡名喜島、鳥島、多良間島、大神島、水納島、鳩間島、波照間島、與那國島、大東島、魚釣島

〔參照〕

法律第三十五號葉煙草專賣法（明治二十九年三月二十八日官報）抄錄

第三十條　遠隔ノ島嶼ニシテ內地ト一般ノ狀勢ヲ異ニスルモノアルトキハ其ノ地方ニ對シ勅令ヲ以テ本法ヲ施行セサルコトヲ指定スルコトヲ得

本法ヲ施行セサル地方ヨリ本法施行地ニ葉煙草ヲ輸入スルコトヲ得ス

朕臺灣島及澎湖島駐在海軍軍人軍屬給與規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍大臣侯爵西郷從道

御名御璽

明治三十年五月三十一日

勅令第百七十號（官報　六月三日）

臺灣島及澎湖島駐在海軍軍人軍屬給與規則中左ノ通改正ス

第六條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第九條ノ旅費ヲ給スルトキハ其ノ間本條ノ糧食若ハ食料ヲ給セス

第九條第一項ヲ左ノ如ク改ム

臺灣島及澎湖島内ヲ旅行スル軍人軍屬ノ旅費ハ海軍内國旅費規則ニ於テ規定スル各給額ノ外該定額ノ三倍以内ヲ增給スルコトヲ得但シ其ノ增額ヲ給スルトキハ海軍内國旅費規則第十五條第四項但書ノ割增日當ヲ給セス又海軍内國旅費規則第十七條ノ場合ニ於テ給スル旅費ハ總テ實費拂トス

（參照）

勅令第百六十一號臺灣島及澎湖島駐在海軍軍人軍屬給與規則（明治二十八年十一月二十九日官報）抄錄

第六條　軍人軍屬ニハ海軍糧食條例第一條ノ規程ニ拘ラス糧食ヲ給ス但時宜ニ依リ現金ヲ以テ食料ヲ給スルコトヲ得其ノ金額ハ海軍大臣之ヲ定ム

軍人軍屬外ノ者ト雖糧食給與ノ必要アルトキハ前項ニ依ル

第九條第一項

駐在員ニシテ臺灣島及澎湖島内ヲ旅行スルトキ旅費ハ實費拂トス

○

朕臨時檢疫局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
内務大臣伯爵樺山資紀

勅令第百七十一號（官報　六月四日）

第一條　檢疫豫防上必要アルトキハ内務省ニ臨時檢疫局ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ掌理セシム

第二條　臨時檢疫局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官　勅任　一人
主事　奏任　一人
事務官　奏任　專任四人
技手　專任三人
書記　判任　專任五人

第三條　長官主事ハ高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム

第四條　長官ハ内務大臣ノ命ヲ承ケ部下ノ諸員ヲ監督シ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

主事ハ長官ノ命ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第五條　事務官ハ長官ノ命ヲ承ケ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ分掌シ廳府縣以下ニ於ケル傳染病豫防ニ關スル事務ヲ巡視ス

第六條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○

朕臨時檢疫局事務官任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
内務大臣伯爵樺山資紀

勅令第百七十二號（官報　六月四日）

臨時檢疫局事務官ハ明治二十六年勅令第百八十三號文官任用令第四條ニ依リ任用スルコトヲ得

〔參照〕
勅令第百八十三號文官任用令（明治二十六年十月三十一日官報）抄錄
第四條　特別ノ學術技藝ヲ要スル行政官ハ別ニ試驗ヲ用ヰス奏任官ニ在リテハ文官高等試驗委員、判任官ニ在リテハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ教官技術官ノ中若クハ試驗委員ニ於テ教官技術官タルノ資格アリト認ムル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

○

朕臨時檢疫局職員官等俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二日

内閣總理大臣臨時代理
樞密院議長伯爵黑田清隆
内務大臣伯爵樺山資紀

勅令第百七十三號（官報　六月四日）

臨時檢疫局長官ハ高等官一等二等トシ主事、事務官ハ高等官三等以下七等以上トス

臨時檢疫局事務官ノ俸給ハ高等官官等俸給令中高等文官年俸二號表ニ依ル

〔參照〕
勅令第九十六號高等官官等俸給令（明治二十五年十一月十四日官報）抄錄
高等文官年俸二號表

一級	二千五百圓	二級	二千二百圓	三級	二千圓	四級	千八百圓	五級	千六百圓
六級	千四百圓	七級	千二百圓	八級	千圓	九級	九百圓	十級	八百圓

○

朕臺灣鐵道會社保護ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月四日

拓殖務大臣子爵高島鞆之助

勅令第百七十四號（官報　六月八日）

第一條　臺灣總督ハ必要ト認ムルトキハ臺灣鐵道會社鐵道用地ニ供セントスル官有地ヲ無代價ニテ下付スルコトヲ得

第二條　左ニ記載スルモノヲ以テ鐵道用地トス

第一　線路ニ當ル敷地但シ其ノ幅員ハ築堤切取架橋等工事ノ必要ニ應シテ定ムルモノトス

第二　停車場及之ニ附屬スル車庫貨物庫等ノ建築用ニ供スル土地

第三　前項ノ構内ニ常住ヲ要スル驛長車長及機關方等ノ家宅番人小屋等ノ建築用ニ供スル土地

第四　鐵道敷設又ハ運輸ニ要スル車輛器具ヲ製作修繕スル器械場及同上ノ資材器具ヲ貯藏スル倉庫ノ建築用ニ供スル線路ニ沿ヒタル土地

第三條　鐵道用地ニアラスト雖汽車用工場用ニ要スル石炭又ハ鐵道敷設ニ要スル材料運搬ノ爲敷

設スル鐵道敷地其ノ他必要ノ土地ニシテ官有ニ係ルモノハ臺灣總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ無代價ニテ之ヲ下付シ又ハ臺灣鐵道會社鐵道敷設竣工マテ無料ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得

第四條　鐵道用地又ハ前條ニ掲ケタル目的ニ供セントスル土地民有ニ係ル場合ニ於テ之ト交換セシカ爲ニ臺灣鐵道會社ヨリ官有地ノ下付ヲ請求スルトキハ臺灣總督ハ無代價ニテ之ヲ下付スルコトヲ得但シ其ノ官有地ハ交換セントスル民有地ト評定價格相均シキモノニ限ル

第五條　臺灣總督ハ公益ノ爲必要ト認ムルトキハ既設官有鐵道竝ニ之ニ附屬スル建物器具等ヲ無代價ニテ臺灣鐵道會社ニ下付スルコトヲ得

第六條　無代價ニテ下付スル官有地ニ附屬スル建物植物等ハ併テ無代價ニテ之ヲ下付スルモノトス

○

朕公使館領事館費用條例ニ依リ金貨又ハ銀貨ニテ支給セラルル者ニ明治三十年法律第十六號ニ依リ發行スル金貨ヲ以テ給スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月五日

外務大臣伯爵大隈重信

勅令第百七十五號（官報六月九日）

明治二十六年勅令第百七十一號公使館領事館費用條例ニ依リ金貨ヲ以テ給セラルル者ニハ明治三十年十月二日以後其ノ金貨一圓ニ對シ二圓ノ割合ヲ以テ、銀貨ヲ以テ給セラルル者ニハ同日以後其ノ銀貨一圓ニ對シ一圓ノ割合ヲ以テ明治三十年法律第十六號ニ依リ發行スル金貨ヲ給ス

○

朕遠洋漁業奬勵法ニ依リ奬勵金ヲ受クヘキ漁獵ノ種類及場所竝船舶乘組定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月五日

農商務大臣伯爵大隈重信

勅令第百七十六號（官報六月九日）

第一條　遠洋漁業奬勵法ニ依リ遠洋漁業奬勵金ヲ受クヘキ漁獵ハ左ノ種類トス

鯨獵業
臘虎獵業
膃肭獸獵業
鱶漁業
鮪漁業
鰹漁業
鱈漁業
鯖漁業
鰤漁業
柔魚漁業
大鮃漁業

第二條　遠洋漁業奬勵法ニ依リ遠洋漁業奬勵金ヲ受クヘキ漁獵ノ場所ハ左ノ洋海トス

支那海
臺灣海峽

東海
黄海
朝鮮海峽
日本海
痾哥德斯克海
太平洋

第三條　遠洋漁業奬勵法ニ依リ遠洋漁業奬勵金ヲ受クヘキ船舶乘組定員ハ左ノ如シ

汽船	登簿噸數	乘組定員	
同	百噸以上	同	三十五名以下
同	二百噸以上	同	四十四名以下
同	二百五十噸以上	同	四十七名以下
同	三百噸以上	同	五十二名以下
同	三百五十噸以上	同	五十三名以下
帆船	登簿噸數	乘組定員	
同	六十噸以上	同	二十六名以下
同	八十噸以上	同	二十八名以下
同	百噸以上	同	二十九名以下
同	百四十噸以上	同	三十一名以下
同	百六十噸以上	同	三十二名以下
同	百八十噸以上	同	三十四名以下
同	二百噸以上	同	三十七名以下

○

朕蠶種檢査ノ手數料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月七日

農商務大臣伯爵大隈重信

勅令第百七十七號（官報　六月十日）

第一條　蠶種檢査法ニ據リ蠶種ノ檢査ヲ施行スル道廳府縣ハ蠶種檢査請求者ヨリ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

一　原種　一蛾區ニ付　一厘
二　製絲用種　一枚ニ付　一錢五厘

第二條　前條ニ依リ徵收シタル手數料ハ府縣ノ收入トス但シ北海道廳及沖繩縣ニ於テハ國庫ノ收入トス

○

朕葉煙草專賣所見習員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月七日

內閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百七十八號（官報　六月十日）

第一條　葉煙草ノ鑑定保存ヲ練習セシムル爲メ葉煙草專賣所ニ見習員ヲ置クコトヲ得

見習員ノ數ハ各葉煙草專賣所ヲ通シテ百人ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　見習員ハ高等小學校ヲ卒業シ若ハ尋常中學校二年以上ノ課程ヲ修メタル者又ハ相當ノ教育ヲ受ケ葉煙草ノ取扱ニ經驗アル者ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　二箇年以上見習員トシテ葉煙草ノ鑑定保存ニ從事シタル者ハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ葉煙草專賣所ノ技手ニ任用スルコトヲ得

第四條　見習員ニハ毎月十五圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附則

第五條　葉煙草專賣法施行ノ後二箇年間ハ本官ニ缺員アルトキニ限リ本令第三條ノ年限ニ拘ハラズ見習員ヨリ任用スルコトヲ得

○

朕葉煙草專賣所職員ノ任用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月七日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百七十九號（官報六月十日）

第一條　滿三年以上官務ニ從事シ判任官四級俸以上ノ俸給ヲ受ケタル者又ハ葉煙草ニ關スル學識經驗アル者ニ限リ當分ノ内試驗ヲ要セス文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ一等葉煙草專賣所長ニ任用スルコトヲ得

第二條　明治二十六年勅令第百八十三號文官任用令第五條同年勅令第百八十五號同年勅令第百九十六號第一條ニ依リ任用シタル判任官ニシテ現ニ其ノ職ニ在ル者ハ明治三十年勅令第百二十一號葉煙草專賣所官制施行ノ後二箇年間ニ限リ葉煙草專賣所屬ニ任用スルコトヲ得

第三條　明治二十六年勅令第百九十六號第一條ニ依リ任用シタル判任官ニシテ滿一年以上勤續シ現ニ其ノ職ニ在ル者ハ當分ノ内月俸十二圓以上ノ葉煙草專賣所屬ニ任用スルコトヲ得

第四條　各官廳ニ於テ稅務又ハ會計事務ニ從事セル雇ニシテ引續キ葉煙草專賣所ノ雇ト爲ル者ニハ其ノ勤續年數ヲ通算シテ明治二十六年勅令第百八十三號第五條ヲ適用スルコトヲ得

〔參照〕

勅令第百八十三號文官任用令（明治二十六年十月三十一日官報）抄錄

第五條　滿五年以上雇員トシテ同一官廳ニ勤續シタル者ハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ直ニ其ノ官廳ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

勅令第百八十五號（明治二十六年十月三十一日官報）

本年勅令第百八十三號文官任用令施行五箇月前ヨリ各官廳ニ於テ雇員トシテ引續キ事務ヲ執リタル者ハ文官任用令施行ノ後三箇月間ニ限リ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ直ニ其ノ官廳ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得但其ノ任用ノ際支給スベキ俸給額ハ文官任用令施行ノ際ニ受ケタル俸給現額ヲ超エルコトヲ得ス

勅令第百九十六號（明治二十六年十月三十一日官報）抄錄

第一條　警視廳、北海道廳、府縣（島嶼ヲ包含ス）稅務管理局、葉煙草專賣所及集治監判任官中月俸十二圓未滿ノ者ハ試驗ヲ要セス文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

○

朕土木監督署ニ技監及事務官設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年五月二十九日

内閣總理大臣伯爵松方正義

内務大臣伯爵樺山資紀

勅令第百八十號（官報六月十二日）

第一條　各土木監督署ニ技監一人ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ技監ヲ以テ署長トス

第二條　各土木監督署ニ事務官一人ヲ置クコトヲ得

事務官ハ奏任トス署長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

○

朕土木監督署技監俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年五月二十九日

内閣總理大臣伯爵松方正義
内務大臣伯爵樺山資紀

勅令第百八十一號（官報六月十二日）

土木監督署技監ノ年俸ハ三千圓トス

○

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年五月二十九日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第百八十二號（官報六月十二日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第九條遞信事務官ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

土木監督署事務官　高等文官年俸二號表ニ依ル

文武高等官官等表中内務省ノ部内内務書記官ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

土木監督署事務官	同	上	同	上
		上	同	上
			上	

高等文官官等相當俸給表中遞信事務官ノ次ニ「土木監督署事務官」ヲ加フ

○

朕農商務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月一日

内閣總理大臣伯爵松方正義
農商務大臣伯爵大隈重信

勅令第百八十三號（官報六月十二日）

農商務省官制

第一條　農商務大臣ハ農、商、工、水産、林野、鑛山、發明、意匠、商標及地質ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外内外博覽會及褒賞ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　農商務省專任參事官ハ五人專任書記官ハ四人ヲ以テ定員トス

第四條　農商務省ニ左ノ諸局ヲ置ク

農務局
商務局
工務局
山林局
鑛山局
特許局
水産局

第五條　農務局長、商務局長、工務局長、山林局長、鑛山局長、特許局長及水産局長ハ勅任トス

第六條　農務局ニ於テハ農事、蠶絲、製茶、畜産、家畜衛生及狩獵ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條　商務局ニ於テハ商事及會社ニ關スル事務ヲ掌ル

商務局ニ商品陳列館ヲ置キ内外ノ商品見本ヲ蒐集陳列シ衆庶ノ觀覽參考ニ供セシム

第八條　工務局ニ於テハ工業及度量衡ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條　山林局ニ於テハ森林原野ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條　鑛山局ニ於テハ鑛業及地質ニ關スル事務ヲ掌ル

第十一條　特許局ニ於テハ發明、意匠及商標ニ關スル事務ヲ掌ル

特許局ニ圖書館ヲ置キ審判及審査ニ關スル圖書見本及雛形ヲ保管セシム

第十二條　水産局ニ於テハ水産ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條　農商務省ニ鑛山技監一人ヲ置ク鑛山局ニ屬シ鑛山技術官ヲ指揮監督シ鑛山ニ關スル技術上ノ事項ヲ掌理ス

第十四條　山林局ニ森林監督官五人ヲ置ク奏任トス森林業務ノ監督事務ヲ分掌ス

第十五條　特許局ニ專任審判官二人專任審査官十人專任事務官一人審査官補二十人ヲ置ク

審判官ハ奏任トス審判ヲ掌ル

審査官ハ奏任トス審査ヲ掌ル

事務官ハ奏任トス特許ニ關スル庶務ヲ掌ル

審査官補ハ判任トス審査ヲ助ク

第十六條　商品陳列館ニ技師一人書記七人ヲ置ク

書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十七條　農商務省ニ專任技師三十二人專任技手五十五人ヲ置ク

第十八條　農商務省屬ハ百六十五人ヲ以テ定員トス

○

朕貿易品陳列館官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月一日

内閣總理大臣伯爵松方正義

農商務大臣伯爵大隈重信

勅令第百八十四號（官報六月十二日）

貿易品陳列館官制ハ本年勅令第百八十三號農商務省官制施行ノ日ヨリ廢止ス

○

朕貿易品陳列館長官等及俸給ニ關スル勅令廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月一日

内閣總理大臣伯爵松方正義

農商務大臣伯爵大隈重信

勅令第百八十五號（官報六月十二日）

明治二十九年勅令第百八號ハ本年勅令第百八十三號農商務省官制施行ノ日ヨリ廢止ス

○

朕林區署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月一日

内閣總理大臣伯爵松方正義

農商務大臣伯爵大隈重信

勅令第百八十六號（官報　六月十二日）

林區署官制

第一條　大林區署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　國有林ノ保管經營及利用ニ關スル事項

二　國有地ノ部分林ニ關スル事項

三　森林ノ監督ニ關スル事項

第二條　大林區署ニ左ノ職員ヲ置ク

林務官

林務官補

營林主事

書記

營林主事補

森林監守

第三條　各大林區署長ハ一人林務官ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條　林務官ハ奏任トシ各大林區署ヲ通シテ四十人ヲ以テ定員トス大林區署ニ分屬シ署務ニ從事ス

第五條　林務官補ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ八十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス

第六條　營林主事ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ五百五十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ營林事務及森林調査ニ從事ス

第七條　書記ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ二百四十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　營林主事補ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ八百九十二人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ森林ノ保護ニ從事シ營林事務及森林調査ヲ分擔ス

第九條　森林監守ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ八百四十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ森林ノ保護ニ從事ス

第十條　大林區署ノ事務ヲ分掌スル爲メ管轄內須要ノ地ニ小林區署ヲ置ク

各小林區署長ハ一人營林主事ヲ以テ之ニ充テ大林區署長若ハ大林區支署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ掌理ス

第十一條　農商務大臣ハ必要ト認ムル地ニ大林區支署ヲ置キ署務ヲ分掌セシムルコトヲ得

大林區支署長ハ林務官又ハ林務官補ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條　大林區署ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

第十三條　大林區支署及小林區署ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

附則

第十四條　明治二十六年勅令第百四十七號大小林區署官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表）

大林區署名稱位置管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
青森大林區署	陸奥國青森縣	
秋田大林區署	羽後國秋田縣	

盛手大林區署	陸中國 盛手	盛手縣	
宮城大林區署	陸前國 仙臺	宮城縣	山形縣
福島大林區署	岩代國 福島	福島縣	
東京大林區署	武藏國 東京	東京府	栃木縣 茨城縣 群馬縣 埼玉縣
長野大林區署	信濃國 長野	新潟縣	神奈川縣 靜岡縣 山梨縣
石川大林區署	加賀國 金澤	石川縣	富山縣 福井縣 岐阜縣
大阪大林區署	攝津國 大阪	大阪府	奈良縣
岡山大林區署	備前國 岡山	岡山縣	兵庫縣 鳥取縣
廣島大林區署	安藝國 廣島	廣島縣	島根縣 山口縣
愛媛大林區署	伊豫國 松山	愛媛縣	香川縣 德島縣
高知大林區署	土佐國 高知	高知縣	
福岡大林區署	筑前國 福岡	福岡縣	佐賀縣 長崎縣
熊本大林區署	肥後國 熊本	熊本縣	大分縣
鹿兒島大林區署	薩摩國 鹿兒島	鹿兒島縣	宮崎縣

○朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月一日　　內閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第百八十七號（官報　六月十二日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第九條中農商務省牧馬監督官ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

農商務省森林監督官　　高等文官年俸二號表ニ依ル

同條中農商務省特許局審判官ノ下「年俸千二百圓」ヲ「高等文官年俸二號表ニ依ル」ニ改ム

同條中農商務省特許局審査官ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

農商務省特許局事務官　　高等文官年俸二號表ニ依ル

文武高等官官等表中農商務省ノ部特許局審査官ノ次ニ左ノ三項ヲ加ヘ四等ノ欄內「特許局審判官」ヲ「同上」ニ改ム

特許局審判官

特許局事務官　「同上」　「同上」　「同上」

森林監督官　「同上」　「同上」　「同上」

高等文官官等相當俸給表中農商務省牧馬監督官ノ次ニ左ノ三項ヲ加フ

農商務省森林監督官

農商務省特許局審判官

農商務省特許局事務官

○

朕農商工高等會議規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月一日

内閣總理大臣伯爵松方正義
農商務大臣伯爵大隈重信

勅令第百八十八號（官報六月十二日）

農商工高等會議規則

第一條　農商工高等會議ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ農商工業ニ關スル重要ノ事項ニ付農商務大臣ノ諮問ニ應シ意見ヲ開申ス

第二條　農商工高等會議ハ農商工業ニ關スル重要ノ事項ニ付關係各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　農商工高等會議ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　農商工高等會議ハ議長副議長各一人及議員三十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　特別ノ事件ヲ審議スル爲ニ臨時必要ノ場合ニ於テ前條定員ノ外臨時議員ヲ命スルコトヲ得

第六條　議長副議長議員及臨時議員ハ官吏又ハ農商工ニ關スル學識若ハ經驗アル者ノ中ニ就キ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條　議長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ農商務大臣ニ具申ス

第八條　議長事故アルトキハ副議長ヲシテ事務ヲ代理セシム

第九條　農商工高等會議ニ幹事二人ヲ置キ農商務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條　議長副議長議員及幹事ニハ一箇年三百圓以内臨時議員ニハ事件ノ輕重ニ應シ其ノ都度相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十一條　農商工高等會議ニ書記ヲ置ク議長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

書記ハ農商務省判任官又ハ其ノ他ノ者ニ就キ之ヲ命ス

第十二條　書記ニハ事務ノ繁閑ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十三條　農商務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ議員又ハ其ノ他ノ者ヲシテ農商工業ニ關スル諸般ノ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

附則

第十四條　從前ノ議長副議長議員臨時議員及幹事ハ別ニ辭令ヲ用ヰス本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

○

朕海員審判所事務章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十二日

遞信大臣子爵野村靖

勅令第百八十九號（官報六月十五日）

海員審判所事務章程

第一條　審判所長ハ海員審判所ノ事務ヲ總理ス

審判所長故障アルトキハ審判官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ先ナル者之ヲ代理ス

第二條　審判所長ハ自ラ審判長ト爲リ若ハ審判官ニ審判長ヲ命スルコトヲ得

第三條　各審判事件ノ掛審判官ハ審判所長ノ指定ニ依ル

第四條　四日以上引續クヘキ見込アル審判ニ於テ審判所長ハ補充審判官一人ヲ命シ之ニ立會ハシ

ムルコトヲ得此ノ補充審判官ハ其ノ審判中或ル審判官ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第五條　審判官若ハ理事官差支アリテ同一審判所ノ審判官若ハ理事官中其ノ職務ヲ行フヘキ者ナキ場合ニ遞信大臣ニ於テ其ノ事件緊急ヲ要スト認ムルトキハ他ノ審判所ノ審判官若ハ理事官ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第六條　審判ノ公開ヲ停止スルノ決定ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第七條　審判ハ定數ノ審判官之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

評議ハ其ノ審判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顚末竝各審判官ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルコトヲ要ス

評議ノ際各審判官意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ審判長ヲ終トス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ後ナル者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命審判官ヲ始トス

第八條　審判官ハ審判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　裁決及決定ハ過半數ノ意見ニ依ル其ノ意見三說以上ニ分レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ル迄被審人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第十條　裁決ヲ言渡シタルトキハ審判所長ハ直ニ遞信大臣ニ裁決ノ謄本ヲ差出スヘシ

第十一條　理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シ取調ヲ爲シタル後審判ヲ要セスト思料スルトキハ理由ヲ具シ審判所長ヲ經由シテ遞信大臣ニ報告スヘシ

第十二條　審判所ニ於テ或ル事件ニ付審判ヲ開始セス若ハ繼續セスト決定シタルトキハ審判所長ハ之ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ

第十三條　審判所長ハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ事務取扱ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十四條　事務ノ執行ニ關シ遞信大臣ハ各審判所長ヲ監督シ高等海員審判所長ハ各地方海員審判所長ヲ監督ス

職務ノ執行ニ關シ高等海員審判所理事官ハ遞信大臣ノ命令ニ從ヒ地方海員審判所理事官ハ遞信大臣及高等海員審判所理事官ノ命令ニ從フ

○

朕地方海員審判所管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十二日

遞信大臣子爵野村靖

勅令第百九十號（官報六月十五日）

地方海員審判所管轄區域左ノ通之ヲ定ム

東京地方海員審判所管轄區域

東京府　神奈川縣　新潟縣　埼玉縣　群馬縣　千葉縣　茨城縣

栃木縣　三重縣　愛知縣　靜岡縣　山梨縣　岐阜縣　長野縣

宮城縣　福島縣　磯手縣　山形縣　石川縣　富山縣

大阪地方海員審判所管轄區域

京都府　大阪府　兵庫縣　奈良縣　滋賀縣　福井縣　鳥取縣

島根縣　岡山縣　廣島縣　山口縣　和歌山縣　德島縣　香川縣

愛媛縣　高知縣　福岡縣　大分縣

長崎地方海員審判所管轄區域

長崎縣　佐賀縣　熊本縣　宮崎縣　鹿兒島縣　沖繩縣

函館地方海員審判所管轄區域

北海道　青森縣　秋田縣

○

朕警視廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十二日

内閣總理大臣伯爵松方正義

内務大臣伯爵樺山資紀

勅令第百九十一號（官報　六月二十二日）

警視廳官制中左ノ通改正ス

第三條　警視ハ二十七八警察醫長消防司令長ハ各一人典獄ハ三人奏任トス

第四條中「四百二十八」ヲ「四百十四人」ニ改ム

第九條中「郡長島司」ヲ「島司郡區長」ニ改ム

第十五條　總監官房ニ主事一人巡視二人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ補ス

第二課長ハ主事ヲ以テ之ニ充テ第一課長第三課長ハ巡視ヲシテ之ヲ兼ネシメ又ハ警部警視屬ヲ以テ之ニ充ツ

主事ハ警視總監ノ命ヲ承ケ第一課第三課ノ事務ヲ佐クルコトアルヘシ

官房各課員ハ警部警視屬ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ課ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課ノ庶務ニ從事ス

巡視ハ警視總監ノ命ヲ承ケ警察事務及消防事務ノ實況ヲ巡閲點檢シ及傳令ノ事ヲ掌ル

第十六條中「第三部」ノ次ニ「第四部」ヲ加ヘ「監獄署」ヲ削ル

第十七條ヲ第十八條ニ改メ同條中「第一部」ヲ「第二部」ニ改ム

第十八條ヲ第十七條ニ改メ同條中「第二部」ヲ「第一部」ニ改ム

第二十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十條ノ二　第四部ニ於テハ監獄ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十一條第一項左ノ通改ム

第一部長第二部長ハ警視第三部長ハ警察醫長第四部長ハ典獄ヲ以テ之ニ補ス

同條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第四部員ハ監獄書記看守長ヲ以テ之ニ充テ監獄署員ノ内ヲシテ之ヲ兼ネシム

第二十二條第二項左ノ通改ム

第一部長ハ警察事務ニ付警察署長以下第四部長ハ監獄事務ニ付監獄署長以下ヲ指揮スルコトヲ得

第二十六條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

警察署長ハ水火災ニ際シ消防署長出場前ニ於テ消防分署長以下ヲ指揮スルコトヲ得

第二十七條　東京府下ニ三監獄署ヲ置ク在監人ノ分配ハ警視總監之ヲ定ム

監獄署ニ分課ヲ設クルコトヲ要スルトキハ警視總監之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ

第二十九條第一項及第三項左ノ通改ム

監獄署長ハ典獄ヲ以テ之ニ補ス但シ監獄署長ノ内一人ハ第四部長ヲシテ之ヲ兼ネシム

監獄支署長ハ監獄書記ヲ以テ之ニ充ツ

第三十條第三項左ノ通改ム

監獄署員監獄支署員ハ監獄書記看守長ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ事務ニ從事ス

〔參照〕

勅令第百五十九號警視廳官制（明治二十六年十月三十一日官報）抄錄

第三條　警視ハ二十六人警察醫長消防司令長及典獄ハ各一人奏任トス

第四條　警部、警視廳、消防士、警察醫、監獄書記、看守長及消防機關士ハ判任トス
警部、警視廳、消防士、警察醫、監獄書記、看守長及消防機關士ノ定員ハ通シテ四百二十人トシ其ノ各官ノ定員ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ警視總監之ヲ定ム
第九條　警視總監ハ其ノ主務ニ就テハ東京府下ノ郡長、島司及町村長ヲ指揮監督ス
第十五條　總監官房各課長ハ警視ヲ以テ之ニ補シ課員ハ警部、警視廳ヲ以テ之ニ充ツ
課長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ課ノ事務ヲ整理シ部下ノ官吏ヲ監督ス課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課ノ庶務ニ從事ス
第十六條　警視廳ニ左ノ部署ヲ置ク
第一部
第二部
第三部
消防署
監獄署
第十七條　第一部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ
第一課
一　營業及風俗警察並銃砲火藥刀劍等ニ關スル事項
第二課
一　交通警察並田野森林河海堤防取締及水火災害防等ニ關スル事項
第十八條　第二部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ
第一課
一　犯罪ノ搜査、刑餘人、無賴徒、變死傷者其ノ他公安ニ關スル事項
二　失踪者、瘋顚者、不具子弟、棄兒、迷兒及戶口民籍ニ關スル事項
三　遺流失物埋藏物等ニ關スル事項
第二課
一　警衛ニ關スル事項
二　警察署警察分署派出所等ノ廢置及其ノ職員ノ配置ニ關スル事項
三　巡査召募及其ノ教習ニ關スル事項
第二十一條　第一部長及第二部長ハ警視ヲ以テ之ニ補シ第三部長ハ警察醫長ヲ以テ之ニ充ツ
部長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
第一部及第二部ノ課長ハ警部又ハ警視廳課員ハ警部、警視廳ヲ以テ之ニ充ツ
第三部ノ課長ハ警視廳又ハ警察醫課員ハ警視廳警察醫ヲ以テ之ニ充ツ

第二十二條　部長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
第二部長ハ警察事務ニ付警察署長以下ヲ指揮スルコトヲ得
課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課務ヲ處理シ課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課ノ庶務ニ從事ス
第二十六條　消防署長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
消防分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ分署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
消防士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ消防組ヲ指揮監督ス
消防機關士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ消防機關ノ運用ヲ掌ル
第二十七條　監獄署ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ
第一課
一　文書ノ接受、發送、保存及統計ニ關スル事項
二　在監人ノ出入、名籍、願訴、特赦、假出獄、給與品、差入品及所有貨物ニ關スル事項
三　作業工錢、器具材料及製品ニ關スル事項
四　第二課ノ主務ニ屬セサル事項
第二課
一　在監人ノ戒護、書信及接見ニ關スル事項
二　在監人ノ行狀及賞罰ニ關スル事項
第二十九條　監獄署長ハ典獄、第一課長及其ノ課員ハ監獄書記、第二課長及其ノ課員ハ看守長ヲ以テ之ニ充ツ
監獄署長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
監獄支署長ハ監獄書記、支署員ハ監獄書記、看守長ヲ以テ之ニ充ツ
第三十條　監獄署長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ監獄ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課務ヲ處理シ課員支署員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス
看守長ハ前項職務ノ外看守ヲ指揮監督ス

○

朕警視廳高等官俸給令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十二日

内閣總理大臣伯爵松方正義
内務大臣伯爵樺山資紀

勅令第百九十二號（官報　六月二十二日）

警視廳高等官俸給令

第一條　警視廳高等官ノ年俸ハ左ノ如シ

警視總監		一級　四千圓
警視	主事第一部長第二部長ニ補スル者	二級　二千二百圓
		三級　二千圓
	巡視ニ補スル者	三級　千八百圓
		四級　千六百圓
		五級　千四百圓
警察署長		一級　千四百圓
典獄	第四部長ニ補スル者	二級　千二百圓
		三級　千圓
警視	警察署長ニ補スル者	一級　千圓
		二級　九百圓
		三級　八百圓
		四級　七百圓
		五級　六百圓
消防司令長		一級　千二百圓
		二級　千圓
		三級　九百圓
		一級　八百圓

典獄

第二條　警察署長ニ補スル警視ノ俸給區別ハ内務大臣其ノ警察署ニ就テ之ヲ指定スヘシ

警視		二級　七百圓
		三級　六百圓

○朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十二日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第百九十三號（官報　六月二十二日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

文武高等官官等表中警視廳ノ欄左ノ如ク改ム

警視總監		同
警視		上
警視總監官房主任		同
警視第一部長		同
警視第二部長		同
警察署長第三部長		同
典獄第四部長		上
典獄		同
警視		同
消防司令長		同
警視		上
警視		同
典獄監獄部長		上
警視		同
警視		上
警視		同
警視		上
警視		同
警視		上
警視		同
警視		上

○

朕巡視ニ補スヘキ警視及消防司令長特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十二日

内閣總理大臣伯爵松方正義
内務大臣伯爵樺山資紀

勅令第百九十四號（官報六月二十二日）

巡視ニ補スヘキ警視及消防司令長ハ警察署長ノ職ヲ奉スル警視又ハ五箇年以上左ニ記載シタル職ヲ奉シ現ニ判任官二級俸以上ノ官職ニ在ル者ニ限リ當分ノ内試驗ヲ要セス文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

巡視ニ補スヘキ警視ハ警部
消防司令長ハ警部又ハ消防士

○

朕市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十五日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百九十五號（官報六月二十二日）

左ノ諸稅ハ市町村ニ於テ徵收スヘシ

一　所得稅
二　營業稅

三　自家用酒稅
四　賣藥營業稅

附則

本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

○

朕内閣總理大臣祕書官及各省大臣祕書官等ノ初敍及陞敍ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十六日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第百九十六號（官報六月二十二日）

内閣總理大臣祕書官及各省大臣祕書官等ノ初敍及陞敍ハ高等官官等俸給令第七條及第八條ノ規程ニ依ラサルコトヲ得但シ他官ヨリ祕書官ヲ兼ヌル者ハ此ノ限ニアラス

〔參照〕

勅令第九十六號高等官官等俸給令（明治二十五年十一月十四日官報）抄錄

第七條　初メテ奏任文官ニ任セラルヽ者ノ官等ハ六等以下トス

奏任文官ヲ勤メ退官シタル者再ヒ奏任官ニ任セラルヽ場合ニ於テ其官等ハ前官ノ官等以下トス但前官ノ官等七等以下ナルトキハ歷シタ六等官ニ至ルコトヲ得

第八條　奏任官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタル者及七等以下ノ者ヲ除ク外在職滿二年ヲ踰ユルニ非サレハ陞敍スルコトヲ得ス

○

朕勅令第百九十六號ニ依レル祕書官ノ他官ニ轉任又ハ再任スル場合ノ官等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十六日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第百九十七號（官報六月二十二日）

第一條　本年勅令第百九十六號ニ依リ高等官五等以上ノ祕書官ニ任用セラレタル者又ハ同令ニ依リ在職年數ニ拘ラス陞等シタル者他ノ奏任文官ニ轉任シ又ハ其ノ官ヲ退キ他ノ奏任文官ニ再任スル場合ニ於ケル官等ハ本令ノ規程ニ依ル

第二條　祕書官ニ初任シタル者ニ在テハ高等官六等以下トス但シ祕書官在職年數ニ應シ高等官官等俸給令第八條ニ依リ六等ニ對シ一等若ハ數等ヲ陞敘スルコトヲ得

第三條　在職年數ニ拘ラス陞等シタル者ニ在テハ前奏任文官又ハ本令施行ノ際ニ於ケル祕書官ノ官等以下トス但シ祕書官在職年數ニ應シ高等官官等俸給令第八條ニ依リ同前官又ハ本令施行ノ際ニ於ケル祕書官ノ官等ニ對シ一等若ハ數等ヲ陞敘スルコトヲ得其ノ前官又ハ本令施行ノ際ニ於ケル祕書官ノ官等七等以下ノ者ニ在テハ第二條ノ例ニ準ス

第四條　第二條第三條ニ依リ他ノ奏任文官ニ轉任又ハ再任シタル者ノ陞等ニ關シテハ其ノ祕書官タル前ノ他官官等在職年數、本令施行前ノ祕書官官等在職年數竝ニ轉任又ハ退官現時ノ祕書官官等在職年數ヲ通算ス

○

朕漁業監督官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十六日

内閣總理大臣伯爵松方正義

農商務大臣伯爵大隈重信

勅令第百九十八號（官報六月二十二日）

漁業監督官官制

第一條　農商務省ニ左ノ職員ヲ置キ水産局ニ屬セシム

漁業監督官　專任二人

漁業監督官補　專任四人

漁業監督官書記　專任四人

第二條　漁業監督官ハ奏任トス農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ漁業監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　漁業監督官補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ監督ノ事務ヲ助ク

第四條　漁業監督官書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ監督ニ關スル庶務ニ從事ス

附則

第五條　本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

○

朕漁業監督官及漁業監督官補任用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十六日

内閣總理大臣伯爵松方正義

農商務大臣伯爵大隈重信

勅令第百九十九號（官報六月二十二日）

漁業監督官及漁業監督官補ハ文官任用令第四條ニ依リ任用スルコトヲ得

附　則

本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第百八十三號文官任用令（明治二十六年十月三十一日官報）抄錄

第四條　特別ノ學術技藝ヲ要スル行政官ハ別ニ試驗ヲ用ヰス奏任官ニ在リテハ文官高等試驗委員判任官ニ在リテハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ敎官技術官ノ中若クハ試驗委員ニ於テ敎官技術官タルノ資格アリト認ムル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

○

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十六日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第二百號（官報六月二十二日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第九條中農商務省牧馬監督官ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

農商務省漁業監督官　高等文官年俸二號表ニ依ル

文武高等官官等表中農商務省ノ欄內牧馬監督官ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

漁業監督官「同上」「同上」「同上」「同上」

高等文官官等相當俸給表中農商務省牧馬監督官ノ次ニ「農商務省漁業監督官」ヲ加フ

附　則

本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

○

朕文武判任官等級表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十六日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第二百一號（官報六月二十二日）

文武判任官等級表中左ノ通改正ス

農商務省牧馬監督官補ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

農商務省漁業監督官補同　同同　農商務省漁業監督官補同　同同　農商務省漁業監督官補同　同同　農商務省漁業監督官

補同　同農商務省漁業監督官補同　同

農商務省牧馬監督官書記ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

農商務省漁業監督官書記同　同同　農商務省漁業監督官書記同　同同　農商務省漁業

監督官書記同　同農商務省漁業監督官書記同　同

附　則

本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

○

朕稅關官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十七日

内閣總理大臣兼
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百二號（官報　六月二十二日）

稅關官制

第一條　稅關ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　各開港ニ於ケル西洋形船舶及外國通航ノ日本形船舶ノ出入及港內艀舟ノ取締ニ關スル事項

二　貨物ノ輸出入ニ關スル事項

三　各開港外ニ於ケル外國貿易取締ニ關スル事項

四　各開港外ニ於ケル輸出入貨物搭載ノ船舶出入ニ關スル事項

五　海關稅及稅外諸收入ノ徵收ニ關スル事項

六　稅關管理ノ倉庫ニ關スル事項

七　私設保稅倉庫監督ニ關スル事項

八　保稅倉庫藏置ノ貨物運搬取締ニ關スル事項

第二條　左ノ六港ニ稅關ヲ置ク

武藏國橫濱

攝津國神戶

攝津國大阪

肥前國長崎

渡島國函館

越後國新潟

第三條　前條稅關ノ外必要ノ場所ニ稅關支署又ハ稅關監視署ヲ設置ス其ノ設置ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第四條　各稅關ニ稅關長一人ヲ置ク奏任トス

第五條　各稅關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

檢査官	二人	奏任
鑑定官	七人	奏任
監視官	二人	奏任
屬	二百四十二人	判任
鑑定官補	四十五人	判任
技手	八人	判任
監吏	三十九人	判任
監吏補	三百八十五人	判任

第六條　稅關長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第七條　檢査官ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ輸出入申告書其ノ他諸文書ノ監査ニ關スル事務ヲ掌理ス

第八條　鑑定官ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ輸出入貨物ノ檢査鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス

第九條　監視官ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ監吏監吏補ヲ監督シテ關稅警察ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十一條　鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ輸出入貨物ノ檢査鑑定ノ事務ニ從事ス

第十二條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工事ニ從事ス

第十三條　監吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏補ヲ監督シテ關稅警察ニ從事ス

第十四條　監吏補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏ノ事務ヲ助ク

第十五條　各稅關支署ニ署長一人ヲ置キ稅關屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條　各稅關監視署ニ署長一人ヲ置キ稅關監吏若ハ監吏補ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條　稅關支署長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ニ從事シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第十八條　稅關監視警長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ水陸監視ノ事務ニ從事シ部下ノ官吏ヲ監督ス

○

朕高等官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十七日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第二百三號（官報　六月二十二日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

文武高等官官等表中五等乃至八等ノ欄司稅官ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

稅關檢査官　「同上」　「同上」　「同上」

同表中五等乃至八等ノ欄稅關鑑定官ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

稅關監視官　「同上」　「同上」　「同上」

高等文官官等相當俸給表中司稅官ノ次ニ左ノ通加フ

稅關檢査官							
稅關監視官							

一級俸	三級俸	五級俸	七級俸
二級俸	四級俸	六級俸	八級俸

○

朕造幣局印刷局稅關職員俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十七日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百四號（官報　六月二十二日）

明治二十六年勅令第百七十四號造幣局印刷局稅關職員俸給令中左ノ通改正ス

第一條　中神戸稅關長「二千五百圓」ヲ「三千圓」ニ改ム

第二條　稅關檢査官及監視官ノ俸給ハ高等官官等俸給令中高等文官年俸三號表ニ依ル

第三條　稅關鑑定官及鑑定官補ノ俸給ハ明治二十四年勅令第八十四號技術官俸給令ニ依ル

第四條　稅關監吏補ノ月俸ハ二十圓以下八圓以上トス

〔參照〕

勅令第百七十四號造幣局印刷局稅關職員俸給令（明治二十六年十月三十一日官報）抄錄

第二條　稅關鑑定官及鑑定吏ニ關シテハ明治二十四年勅令第八十四號技術官俸給令ヲ適用ス

第三條　監吏補ノ月俸ハ二十圓以下八圓以上トス

第四條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

明治二十四年勅令第百二十四號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○

朕稅關監視官特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十七日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百五號（官報　六月二十二日）

稅關監視官特別任用令

豫備後備ノ海軍將校及滿五年以上稅關ノ事務ニ從事シ判任官四級俸以上ノ俸給ヲ受ケ現職ニ在ル者ニ限リ當分ノ內試驗ヲ要セス文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ稅關監視官ニ任用スルコトヲ得

○

朕稅關出張所及派出所ニ關スル明治二十六年勅令第百三十九號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十七日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百六號（官報　六月二十二日）

稅關出張所及派出所ニ關スル明治二十六年勅令第百三十九號中「出張所」ヲ「支署」ニ「派出所」ヲ「監視署」ニ改ム

○

朕文武判任官等級表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十七日

內閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第二百七號（官報　六月二十二日）

文武判任官等級表中「稅關鑑定吏」ヲ「稅關鑑定官補」ニ改ム

○

朕帝國大學改稱ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十八日

內閣總理大臣伯爵松方正義

文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

勅令第二百八號（官報　六月二十二日）

帝國大學ヲ東京帝國大學ト改稱ス

○

朕京都帝國大學ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十八日

內閣總理大臣伯爵松方正義

文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

勅令第二百九號（官報　六月二十二日）

第一條　京都ニ帝國大學ヲ置キ京都帝國大學ト稱ス

第二條　京都帝國大學ノ分科大學ハ帝國大學令第九條ニ依ラス法科大學醫科大學文科大學及理工科大學トス

第三條　京都帝國大學ノ分科大學及分科大學中ノ各學科開設ノ期日ハ文部大臣之ヲ定ム

〔參照〕

勅令第三號帝國大學令（明治十九年三月二日官報）抄錄

第九條　分科大學ハ法科大學醫科大學工科大學文科大學理科大學農科大學トス

○

朕東京帝國大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十八日

內閣總理大臣伯爵松方正義

文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

勅令第二百十號（官報　六月二十二日）

東京帝國大學官制

第一條　東京帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總長
書記官
舍監
書記

第二條　總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ帝國大學令ノ規定ニ依リ東京帝國大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第三條　書記官ハ專任一人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第四條　舍監ハ專任二人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ學生ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第五條　書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

東京帝國大學及分科大學書記ハ通計專任五十二人ヲ以テ定員トス

第六條　各分科大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

教授
助教授
助手
書記

第七條　教授ハ專任九十人奏任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

教授ニシテ分科大學長及醫科大學附屬醫院長ニ補セラレタル者ハ講座ヲ擔任セサルコトアルヘシ

第八條　助教授ハ專任四十一人奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

第九條　助手ハ專任九十人判任トス教授助教授ノ指揮ヲ承ケ學術技藝ニ關スル職務ニ服ス

第十條　第六條職員ノ外各分科大學ニ學長一人ヲ置キ其ノ分科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

分科大學長ハ帝國大學令ノ規定ニ依リ總長監督ノ下ニ於テ各其ノ分科大學ノ事ヲ掌ル

第十一條　醫科大學附屬醫院ニ醫院長ヲ置キ醫科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

醫院長ハ總長監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第十二條　理科大學附屬東京天文臺ニ天文臺長ヲ置キ理科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

天文臺長ハ總長監督ノ下ニ於テ東京天文臺ノ事ヲ掌理ス

第十三條　東京帝國大學附屬植物園ニ園長ヲ置キ理科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

園長ハ總長監督ノ下ニ於テ植物園ノ事ヲ掌理ス

第十四條　東京帝國大學附屬圖書館ニ館長ヲ置キ教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

館長ハ總長監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事ヲ掌理ス

附則

第十五條　明治二十六年勅令第八十三號帝國大學官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○

朕京都帝國大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十八日

內閣總理大臣伯爵松方正義
文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

勅令第二百十一號（官報　六月二十二日）

京都帝國大學官制

第一條　京都帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總長
書記官
舍監
書記

第二條　總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ帝國大學令ノ規定ニ依リ京都帝國大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第三條　書記官ハ專任一人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第四條　舍監ハ專任一人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ學生ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第五條　書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

京都帝國大學及分科大學書記ハ通計專任二十七人ヲ以テ定員トス

第六條　分科大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

教授
助教授
助手
書記

第七條　教授ハ專任五十七人奏任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

教授ニシテ分科大學長及醫科大學附屬醫院長ニ補セラレタル者ハ講座ヲ擔任セサルコトアルヘシ

第八條　助教授ハ專任十六人奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

第九條　助手ハ專任二十八人判任トス教授助教授ノ指揮ヲ承ケ學術技藝ニ關スル職務ニ服ス

第十條　第六條職員ノ外各分科大學ニ學長一人ヲ置キ其ノ分科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

分科大學長ハ帝國大學令ノ規定ニ依リ總長監督ノ下ニ於テ各其ノ分科大學ノ事ヲ掌ル

第十一條　醫科大學附屬醫院ニ醫院長ヲ置キ醫科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

醫院長ハ總長監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第十二條　京都帝國大學附屬圖書館ニ館長ヲ置キ教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

館長ハ總長監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事ヲ掌理ス

○

朕帝國大學高等官官等俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十八日

內閣總理大臣伯爵松方正義
文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

勅令第二百十二號（官報　六月二十二日）

帝國大學高等官官等俸給令

第一條　帝國大學總長ハ高等官一等又ハ二等トス

帝國大學各分科大學教授ハ高等官六等以上助教授ハ高等官五等以下トス

帝國大學書記官ハ高等官三等以下七等以上トシ帝國大學專任舍監ハ高等官四等以下トス

第二條　帝國大學各分科大學教授助教授ノ俸給ハ分チテ本俸及職務俸トス

第三條　帝國大學高等官ノ俸給及教授助教授ノ本俸年額ハ別表ニ依ル

教授ニシテ特ニ效績アリ五箇年以上一級俸ヲ受クル者ハ本俸五百圓以內ヲ增給スルコトヲ得但シ本年勅令第百六號施行ノ前本俸千三百圓ヲ受ケタル者ハ其ノ以後ノ年數ヲ通算スルコトヲ得

教授ニシテ分科大學長醫院長又ハ天文臺長ニ補セラレタル者ニハ本俸五百圓以內教授助教授ニシテ植物園長又ハ圖書館長ニ補セラレタル者ニハ本俸四百圓以內ヲ加給スルコトヲ得

第四條　各講座ニ職務俸ヲ附ス

各講座ニ對スル職務俸ハ學科ノ種類職務ノ繁閑ニ從ヒ年額四百圓以上千二百圓以下トシ文部大臣之ヲ定ム

第五條　教授ハ其ノ擔任スル所ノ講座ニ對スル職務俸ヲ受ク

助教授ニシテ講座ヲ擔任スル者ハ其ノ講座ニ對スル職務俸ノ半額ヲ受ク

第六條　助教授ハ學科ノ種類職務ノ繁閑ニ從ヒ年額二百圓以上六百圓以下ノ職務俸ヲ受ク

第七條　教授ニシテ二箇ノ講座ヲ擔任スル場合ニ於テハ其ノ兼擔スル所ノ講座ニ對スル職務俸ノ半額ヲ加給ス

第八條　講師ヲ囑託シテ講座ヲ擔任セシムルトキハ教官俸給額ノ內ヨリ其ノ講座ニ對スル職務俸以下ノ手當ヲ給ス

第九條　教授助教授若ハ講師ヲシテ一講座ニ屬スル職務ヲ分擔セシムル場合ニ於テ教授助教授ニ分給スヘキ職務俸及講師ニ分給スヘキ手當ノ年額ハ合シテ其ノ講座ニ對スル職務俸ノ年額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條　教授ニシテ一時他ノ公務ニ從事シ若ハ特ニ學術上ノ必要ニ由リ文部大臣ノ指揮ヲ承ケ一時講座ヲ擔任セス又ハ職務ヲ離ルル者ハ二箇年以內ヲ限リ仍本俸ヲ給スルコトヲ得

第十一條　本令ノ施行ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

第十二條　明治二十六年勅令第九十四號同年勅令第八十四號帝國大學教官俸給令竝ニ明治三十年勅令第百七號中帝國大學ニ關スル條項ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表）

	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級
帝國大學總長	四千圓	三千五百圓					
帝國大學各分科大學教授	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千百圓	千圓	九百圓	八百圓
帝國大學各分科大學助教授	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓	四百圓	三百圓	
帝國大學書記官	二千圓	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓
帝國大學舍監	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓

〔參照〕明治二十六年九月八日官報勅令第九十四號ハ帝國大學各分科大學講座ニ屬スル職務分擔ノ件、同三十年四月二十七日官報勅令第百六號ハ帝國大學教官俸給令中改正ノ件、同年四月二十七日官報勅令第百七號ハ帝國大學及文部省直轄諸學校高等官官等俸給令ナリ

○

朕帝國大學講座ニ關スル勅令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十八日

文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

勅令第二百十三號（官報六月二十二日）

明治二十六年勅令第九十三號中帝國大學ノ上ニ「東京」ノ二字ヲ加フ

○

朕帝國大學舍監特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治三十年六月十八日

内閣總理大臣伯爵松方正義
文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

勅令第二百十四號（官報　六月二十二日）

文部省直轄諸學校舍監ノ任用ニ關スル明治三十年勅令第百十三號ハ帝國大學舍監ニモ適用ス

○

朕警部監獄書記看守長特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治三十年六月十九日

内閣總理大臣伯爵松方正義
拓殖務大臣子爵高島鞆之助
内務大臣伯爵樺山資紀

勅令第二百十五號（官報　六月二十二日）

警部監獄書記看守長特別任用令

第一條　巡査看守在職三箇年以上ニシテ精勤證書ヲ有シ現ニ其ノ職ヲ奉スル者ハ實務ノ成績ヲ考查シ及學術ヲ試驗シ巡査ハ警部ニ看守ハ監獄書記看守長ニ任用スルコトヲ得

巡査ニ關スル考查及試驗ハ警視廳ニ在テハ本廳勤務ノ警視三人、北海道廳府縣ニ在テハ書記官警部長參事官、看守ニ關スル考查及試驗ハ集治監ニ在テハ典獄、警視廳ニ在テハ警視二人第四部長、北海道廳府縣ニ在テハ書記官參事官典獄之ヲ行フ但シ北海道廳ニ在テハ書記官參事官ノ内各一人トス

第二條　考查ノ方法及試驗ノ科目ハ內務大臣拓殖務大臣之ヲ定ム

第三條　明治二十三年勅令第百四十六號ニ依リ任用セラレタル看守長ハ監獄書記ニ轉任スルコトヲ得

第四條　明治二十三年勅令第十號及明治二十三年勅令第百四十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治二十三年二月五日官報勅令第十號ハ巡査奉職滿五年以上ノ者ヲ警部警部補ニ任用ノ件、同年七月二十六日官報勅令第百四十六號ハ看守奉職滿五年以上ノ者ヲ看守長看守副長ニ任用ノ件ナリ

○

朕外國駐在陸軍武官給與令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治三十年六月十九日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百十六號（官報　六月二十二日）

外國駐在陸軍武官給與令

第一條　外國駐在ヲ命セラレタル陸軍武官ノ諸給與ハ陸軍給與令ニ於テ定ムル所ノ現役俸、職務俸及宅料ヲ給スルノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本邦出發ニ際シテハ出發手當、歸朝ニ際シテハ歸朝手當、本邦ト駐在國間往復ノ爲ニハ旅次手當外國駐在中ハ駐在手當ヲ給ス

第三條　外國駐在中乘馬ヲ要スル者ニハ馬匹ヲ貸與シ馬飼料ヲ給ス但シ借馬ヲ以テ應用スルトキ

ハ其ノ實費ヲ給ス

第四條　任務上必用ノ事項調査ノ爲メ或ハ駐在國軍隊等ノ演習ニ際シ駐在地ヲ離ルル七英里以上ノ地ニ派遣シ若ハ移轉セシムルトキハ駐在手當ノ外派遣手當及汽車料、船舶料、車馬料ノ實費ヲ給ス

第五條　出發手當、歸朝手當、旅次手當、駐在手當、派遣手當及馬飼料ノ金額ハ別表ニ依ル

第六條　本令施行ニ關スル細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

第七條　本令ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

明治二十九年勅令第六十八號外國駐在視察陸軍武官給與令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表）

外國駐在陸軍武官給與表

出發手當		金百二十圓	馬飼料　月額　金三十二圓
歸朝手當		金百二十圓	
駐在手當	月額	金百三十圓以上 金二百八十圓以下	派遣手當　日額　甲　佐官　金八圓 尉官　金六圓 乙　佐尉官　金二圓

旅次手當

區分	片道船車料	片道海陸諸費	計
東京間獨逸國伯林	金八百四十圓	金百五十圓	金九百九十四圓
東京間白國ブラッセル	金八百七十六圓	金百五十圓	金千二十六圓
東京間佛國巴里	金八百六十六圓	金百五十圓	金千十六圓
東京間伊國羅馬	金八百十二圓	金百五十圓	金九百六十二圓
東京間墺國維納	金八百十四圓	金百五十圓	金九百六十四圓
東京間露國聖彼得堡	金九百六圓	金百五十圓	金千五十六圓
東京間英國倫敦	金八百四十圓	金百五十圓	金九百九十圓
東京間和蘭國海牙	金八百八十八圓	金百五十圓	金千三十八圓

備考　派遣手當ハ軍隊等ノ演習ニ際シ派遣ノトキハ乙額其ノ他單獨旅行及駐在員取締旅行ノトキハ甲額トス

○

朕陸軍地方幼年學校生徒服制ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十九日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百十七號（官報　六月二十二日）

陸軍地方幼年學校生徒ノ服制ハ陸軍中央幼年學校生徒ノ服制ニ同シ但シ衣ノ袖章肩章ノ玉緣及袴ノ側章ヲ赤色トス

○

朕水産調査所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十九日

內閣總理大臣伯爵松方正義
農商務大臣伯爵大隈重信

勅令第二百十八號（官報　六月二十四日）

水産調査所官制中左ノ通改正ス

第一條中「農務局長」ヲ「水産局長」ニ改ム

〔參照〕

勅令第二十四號水産調査所官制（明治二十八年三月三十日官報）抄錄

第三條　所長ハ農務局長ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

○

朕京都帝國大學理工科大學講座ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二十二日

文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

勅令第二百十九號（官報　六月二十四日）

京都帝國大學理工科大學ニ於ケル講座ノ種類及其ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ

理工科大學

數學　二講座

物理學　三講座

化學　四講座

土木工學　三講座

機械工學　三講座

電氣工學　二講座

採鑛學　二講座

冶金學　二講座

○

朕船舶司檢所管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二十二日

遞信大臣子爵野村　靖

勅令第二百十號（官報　六月二十四日）

船舶司檢所ノ管轄區域ハ地方海員審判所ノ管轄區域ニ同シ

○

朕國稅徵收法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二十二日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百十一號（官報　六月二十五日）

國稅徵收法施行規則

第一條　收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第二條　各市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏其ノ金額ヲ調査シ之ヲ市町村ニ通知スヘシ市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第三條　納稅人納稅告知書ヲ受ケタルトキハ稅金ニ納稅告知書ヲ添ヘ之ヲ指定ノ場所ニ納付スヘシ

水産調査所官制中左ノ通改正ス

第一條中「農務局長」ヲ「水産局長」ニ改ム

〔參照〕

勅令第二十四號水産調査所官制（明治二十八年三月三十日官報）抄錄

第三條　所長ハ農務局長ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

○

朕京都帝國大學理工科大學講座ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二十二日

文部大臣侯爵蜂須賀茂韶

勅令第二百十九號（官報　六月二十四日）

京都帝國大學理工科大學ニ於ケル講座ノ種類及其ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ

理工科大學

數學　二講座

物理學　三講座

化學　四講座

土木工學　三講座

機械工學　三講座

電氣工學　二講座

採鑛學　二講座

冶金學　二講座

○

朕船舶司檢所管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二十二日

遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百十號（官報　六月二十四日）

船舶司檢所ノ管轄區域ハ地方海員審判所ノ管轄區域ニ同シ

○

朕國稅徵收法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二十二日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百十一號（官報　六月二十五日）

國稅徵收法施行規則

第一條　收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第二條　各市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官吏其ノ金額ヲ調査シ之ヲ市町村ニ通知スヘシ市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第三條　納稅人納稅告知書ヲ受ケタルトキハ稅金ニ納稅告知書ヲ添ヘ之ヲ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第四條　市町村ニ於テ稅金ヲ領收シタルトキハ領收證書ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第五條　市町村ノ領收シタル稅金ハ送付書ヲ添ヘ之ヲ金庫ニ送付スヘシ

第六條　市町村ニ於テ徵收シタル稅金ハ遲滯ナク漸次之ヲ金庫ニ送付シ遲クトモ納期後三日ヲ過クルコトナカルヘシ

第七條　市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ稅金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申出ヘシ

前項ノ申出アリタルトキハ地方長官事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第八條　市町村ハ納期內ニ稅金ノ徵收ヲ了ラサルモノアルトキハ納期後五日以內ニ其ノ滯納者ノ住所氏名及滯納ノ金額等ヲ收稅官吏ニ報告スヘシ

第九條　納稅人國稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ノ爲メ强制執行若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ又ハ納稅人タル會社カ解散ヲ爲シタル場合ニ於テハ未タ納期ノ到ラサルモ左ニ揭クルモノハ國稅徵收法第四條第一項ニ依リ之ヲ徵收スヘシ但シ納期ニ到リ納稅ニ妨ナシト認ムルモノハ此ノ限ニアラス

一　納稅告知書ヲ發シタル諸稅

二　造石數查定濟ノ酒類混成酒竝醬油ノ造石稅

三　當該年分ノ自家用酒製造稅

第十條　國稅ノ滯納ニ因リ其ノ滯納處分ヲ執行スルニ際シ國稅徵收法第四條第一項ニ依リ國稅ヲ徵收セムトスル場合ニハ收稅官吏ハ滯納處分費滯納稅金ト共ニ之ヲ徵收スヘシ

前項ノ場合ニ於テ未タ納稅告知書ヲ發セサルモノハ其ノ納金額ヲ滯納者ニ告知スヘシ

第十一條　納稅人他ノ公課ノ爲メ滯納處分ヲ受ケ又ハ他ノ債務ノ爲メ强制執行若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ又ハ納稅人タル會社カ解散ヲ爲シタル場合ニ於テ國稅徵收法第四條第一項ニ依リ國稅ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ第二十八條第二十九條第四十條ニ準シテ其ノ稅金ノ交付ヲ求ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ未タ納稅告知書ヲ發セサルモノハ其ノ納金額ヲ納稅人ニ告知スヘシ

第十二條　國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ滯納者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ手數料トシテ一通每ニ金五錢ヲ徵收ス

第十三條　收稅官吏滯納者ノ財產差押ヲ爲ストキハ滯納處分費及稅金ニ充ツル金額ヲ限度トシ徵收ニ便利ナリト認ムル財產ヲ差押フヘシ

第十四條　質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財產ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ滯納處分費及稅金額等ヲ示シ之ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ

第十五條　國稅徵收法第三條ニ依リ國稅ノ徵收ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前條ノ通知ヲ受ケ其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證憑書類ヲ添付シテ其ノ事實ヲ證明スヘシ

前項ノ場合ニ於テ提出スヘキ公正證書ハ官吏又ハ公吏其ノ職權ヲ以テ調製シタルモノトス

第十六條　債權ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ債務者ニ通知シ滯納處分費及稅金ニ相當スル金額ヲ債務辨濟ノ時期ニ納付スルコトヲ求ムヘシ

第十七條　天然及法定ノ果實ヲ生スヘキ財產ヲ差押ヘタルトキ第三者ヨリ果實ノ引渡又ハ仕拂ヲ受クヘキ場合ニハ收稅官吏ハ其ノ旨ヲ第三者ニ通知スヘシ

第十八條　民事訴訟法ニ依レル假差押ヲ受ケタル財產ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ强制管理人ニ通知スヘシ

第十九條　差押フヘキ財產管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財產所在地ノ收稅官吏ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第二十條　差押フヘキ財産數人ノ共有ニ係ルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均シキモノトシテ處分スヘシ

第二十一條　國稅徵收法第二十九條ニ依リ無限責任社員ニ就キ滯納處分ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ無限責任社員ノ一人ニ對シ又ハ同時若ハ順次ニ總員ニ對シ之ヲ執行スヘシ

第二十二條　數人共同ノ所有物件又ハ事業ニ係ル稅金ノ滯納ヲ爲シタル場合ニ於テハ各自ノ負擔ニ屬スル金額ニ就キ滯納處分ヲ爲スヘシ但シ數人連帶シテ納稅義務ヲ負擔スル場合ニハ前條ノ例ニ依ル

第二十三條　收稅官吏財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滯納者又ハ第三者ヨリ滯納處分費及稅金ヲ完納シタルトキハ其ノ財産ノ差押ヲ解クヘシ

第二十四條　收稅官吏財産ヲ差押ヘタルトキハ差押調書二通ヲ調製シ立會人ト共ニ之ニ署名捺印シ其ノ一通ハ立會人ニ交付スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ

前項差押調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　滯納者ノ住所氏名

二　差押財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情竝所在ヲ明ニスル事項

三　差押ノ事由

四　調書ヲ作リタル場所年月日

第二十五條　不動産及船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏之ヲ所轄登記所ニ照會シテ差押ノ登記ヲ受クヘシ

第二十六條　差押ヘタル財産ヲ公賣セムトスルトキハ三日以上差押財産所在地ノ市役所區役所町村役場若ハ戶長役場ノ掲示場ニ公告スヘシ

前項公告ノ外仍必要ト認ムルトキハ便宜他ノ場所若ハ新聞紙ニ公告スヘシ

第二十七條　財産公賣ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　滯納者ノ住所氏名

二　公賣財産ノ名稱、數量、性質、重要ナル事情竝所在ヲ明ニスル事項

三　入札又ハ競賣ノ場所、日時

四　開札ノ場所、日時

五　保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額

六　代金納付ノ期限

第二十八條　國稅徵收法第二十五條ニ依リ隨意契約ヲ以テ差押財産ヲ賣却セムトスルトキハ見積價格ヲ示シテ豫メ其ノ旨ヲ滯納者ニ通知スヘシ

第二十九條　公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十條　差押財産ヲ公賣スル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ

落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金ハ之ヲ滯納處分費ニ充テ仍殘餘アレハ政府ノ所得トス

第三十一條　公賣ハ差押財産所在ノ市區町村內ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ第二十八條ノ賣却ニ關シテモ之ヲ適用ス

第三十二條　公賣ハ公告ノ翌日ヨリ少クトモ十日ノ期間ヲ過キ之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相應ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ恐レアルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條　差押財產ヲ公賣セムトスルトキハ收稅官吏ニ於テ其ノ財產ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置クヘシ

第三十四條　入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價額仍同シキトキハ抽鏑ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條　差押財產ヲ公賣ニ付スルモ買受望人ナキトキ又ハ見積價格以上ノ入札人ナキトキハ更ニ公告シテ公賣ヲ爲スコトアルヘシ

第三十六條　公賣財產ノ買受人代金納付ノ期限マテニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ其ノ賣買ハ無效トシ收稅官吏公告シテ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第三十七條　前二條ニ依リ再度ノ公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第三十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第三十八條　國稅ノ滯納者他ノ公課ノ爲メ滯納處分ヲ受ケ其ノ財產ヲ差押ヘラレタル場合ニ於テ滯納處分ヲ執行スルトキ他ニ差押フヘキ財產ナキカ又ハ差押フヘキ財產アルモ滯納處分費及稅金ニ充ツルニ足ラスト認ムルトキハ收稅官吏ハ他ノ公課ニ係ル滯納處分ヲ執行スル官廳又ハ公共團體ニ滯納處分費及稅金ノ全部又ハ一部ノ交付ヲ求ムヘシ

第三十九條　國稅ノ滯納者他ノ債務ノ爲メ强制執行ヲ受ケ其ノ財產ヲ差押ヘラレタル場合ニ於テ滯納處分ヲ執行スルトキ他ニ差押フヘキ財產ナキカ又ハ差押フヘキ財產アルモ滯納處分費及稅金ニ充ツルニ足ラスト認ムルトキハ收稅官吏ハ執行裁判所又ハ執達吏若ハ强制管理人ニ滯納處分費及稅金ノ全部又ハ一部ノ交付ヲ求ムヘシ

第四十條　滯納者破產ノ宣告ヲ受ケ又ハ滯納者タル會社カ解散ヲ爲シタル場合ニ於テ滯納處分ヲ執行スルトキハ收稅官吏ハ破產主任官又ハ淸算人ニ滯納處分費及稅金ノ交付ヲ求ムヘシ

第四十一條　滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作リ之ヲ滯納者ニ交付スヘシ

賣却シタル財產ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記錄ノ閱覽ヲ收稅官吏ニ求ムルコトヲ得

第四十二條　國稅徵收法第二十八條第二項ニ依リ債權者ニ交付スヘキ金額ハ計算書ヲ滯納者ニ交付シタル日ヨリ五日ヲ經テ之ヲ交付スヘシ

第四十三條　滯納處分ニ關スル書類ノ送達ハ使丁又ハ書留郵便ヲ以テスヘシ

第四十四條　國稅徵收法第三十條第二項ノ公告ハ名宛人ノ住所又ハ事務所所在地ノ市役所區役所町村役場若ハ戶長役場ノ揭示場ニ三日以上揭示シ仍必要アリト認ムルトキハ新聞紙ニ公告スヘシ

附　則

第四十五條　市制町村制ヲ施行セサル地方（稅務署所在地ヲ除ク）ノ戶長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村內ノ國稅（酒類造石稅ヲ除ク）ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第四十六條　北海道水產稅ハ水產物營業人組合ニ於テ徵收シ之ヲ金庫ニ送付スヘシ

第四十七條　前二條ニ依リ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ納期內ニ完納セサル者アルトキハ戶長若ハ水產物營業人組合ハ本則中ニ規定セル市町村ノ例ニ準シ之ヲ稅務署收稅官吏ニ報告スヘシ

○

朕裁判所書記長特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月十七日

內閣總理大臣伯爵松方正義

司法大臣　淸浦奎吾

勅令第二百二十二號（官報　六月二十六日）

裁判所書記長ハ五箇年以上司法屬又ハ裁判所書記ノ職ヲ奉シ現ニ三級以上ノ俸給ヲ受クル者ニ限リ試驗ヲ要セス文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

○

朕判任官俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二十二日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第二百二十三號（官報　六月二十六日）

判任官俸給令第三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ八級俸以下ノ者ハ此ノ限ニアラス

〔參照〕

勅令第八十三號判任官俸給令（明治二十四年七月二十七日官報）抄錄

第三條　判任官ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ增給スルコトヲ得ス

○

朕在外國公使館附陸海軍武官俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二十二日

内閣總理大臣伯爵松方正義
海軍大臣侯爵西鄕從道
陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百二十四號（官報　六月二十六日）

在外國公使館附陸海軍武官俸給令中第九條ヲ削除シ別表ヲ左ノ通改正ス

附則

本令ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

（別表）

在外國公使館附陸海軍武官在勤俸年額表

官任所		英	露	米	佛	獨	澳	伊	清	朝鮮
陸軍	將官	五千六百圓				五千二百圓		二千三百圓	二千二百圓	
陸軍	佐官	四千四百圓				四千圓		千七百圓	千六百圓	
海軍	尉官	四千圓				三千六百圓		千六百圓	千五百圓	

〔參照〕

勅令第二百十二號在外國公使館附陸海軍武官俸給令（明治二十六年十一月二十四日官報）抄錄

第九條　歐米各國ニ在勤スル者ノ在勤俸ハ金貨ヲ以テ支給シ東洋諸國ニ在勤スル者ノ在勤俸ハ銀貨ヲ以テ支給ス

（別表）

在外國公使館附陸海軍武官在勤俸

官任所		英	露	米	佛	獨	澳	伊	清	朝鮮
陸軍	將官	二千八百圓				二千六百圓		二千三百圓	二千二百圓	
陸軍	佐官	二千二百圓				二千圓		千七百圓	千六百圓	
海軍	尉官	二千圓				千八百圓		千六百圓	千五百圓	

○

朕地方視學ノ俸給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二十二日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第二百二十五號（官報　六月二十六日）

他ノ判任官ヨリ地方視學ニ轉任シ又ハ再任スル者其ノ前官ノ俸給七級俸以下ナルトキハ明治二十四年勅令第八十三號判任官俸給令第三條ノ規程ニ拘ラス六級俸ニ昇級セシムルコトヲ得

〔參照〕

判任官俸給令第三條ハ勅令第二百二十三號ノ參照ニ載ス

○

朕明治二十九年勅令第三百十六號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二十二日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百二十六號（官報　六月二十六日）

明治二十九年勅令第三百十六號中石見國濱田ノ次ニ左ノ通追加ス

駿河國清水

伊勢國四日市

能登國七尾

附則

本令ハ明治三十年八月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

明治二十九年十月三日官報勅令第三百十六號ハ外國貿易ノタメ帝國臣民所有ノ船舶ノ出入及貨物ノ輸出入ヲ爲スヘキ港ニ關スル件ナリ

○

朕郡制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二十三日

内務大臣伯爵樺山資紀

勅令第二百二十七號（官報　六月二十六日）

第一條　郡制ヲ施行セサル島嶼ニ於テハ島嶼内各郡ヲ通シテ之ヲ一選舉區トシ其ノ選出ノ府縣會議員定數ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第二條　帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且滿二十五歳以上ノ男子ニシテ一戸ヲ構ヘ島嶼内ニ二年以來住居シ府縣内ニ於テ一年以來直接國税年額五圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ選舉權ヲ有ス

帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且滿二十五歳以上ノ男子ニシテ一戸ヲ構ヘ島嶼内ニ二年以來住居シ府縣内ニ於テ一年以來直接國税年額十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ府縣會議員ノ選舉權被選舉權ヲ有セス

一　治産ノ禁ヲ受ケタル者

一　公權停止中又ハ租税滯納處分中ノ者

一　家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ノ決定ヲ得サル者

一　公權剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレ其ノ裁判ノ確定ニ至ラサル者

一陸海軍ノ現役ニ服スル者又ハ現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若ハ事變ニ際シ召集セラレタル者

本條ノ外府縣會議員ノ選擧ニ關シテハ府縣制第四條第三項乃至第五項ヲ適用ス

第三條　戸長ハ毎年九月一日ヲ期トシ其ノ現在資格ニ依リ其ノ役場管内ノ選擧人名簿二本ヲ調製シ其ノ一本ヲ十月一日マテニ島司ニ送付スヘシ

島司ハ戸長ヨリ送付シタル選擧人名簿ヲ合シ毎年十月二十日マテニ其ノ所管内ノ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

第四條　選擧人名簿ニハ選擧人ノ氏名住所生年月竝ニ直接國税年額及其ノ納税地其ノ他選擧資格ノ要件ヲ記載スヘシ

第五條　選擧人其ノ住居スル戸長役場管外ニ於テ直接國税ヲ納ムルトキハ其ノ納税地戸長又ハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ九月一日マテニ其ノ住居地ノ戸長ニ居出ヘシ

前項ノ居出ヲ爲ササルトキハ其ノ納税額ハ選擧資格ニ算入セス

第六條　島司ハ十月二十五日ヨリ十五日間島廳ニ於テ選擧人名簿ノ寫ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ

關係者ニ於テ選擧人名簿ニ關シ異議アルトキハ縱覽期限内ニ之ヲ島司ニ申立ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ島司ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定シ申立人ニ通知スヘシ

於テ修正スヘシト決定シタルトキハ選擧人名簿ヲ修正スヘシ

選擧人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定期限トシ確定名簿ハ次年ノ十二月二十日マテ之ヲ据置クモノトス

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選擧ニ干與スルコトヲ得ス

本條島司ノ決定ニ不服アル者ハ決定ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其ノ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

府縣參事會ノ裁決確定シ又ハ行政裁判所ノ判決アリタルニ依リ選擧人名簿ノ修正スヘキモノアルトキハ島司ニ於テ其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ二十四時間以内ニ之ヲ修正スヘシ

本條ニ依リ島司ニ於テ選擧人名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ要領ヲ公告シ且本人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ

第七條　選擧ノ效力ニ關スル訴願ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ選擧人名簿ノ無效ト爲リタルトキハ前選擧人名簿ニ記載スヘキ選擧人資格ニ依リ府縣知事ノ指定シタル期日マテニ新ニ名簿ヲ調製スヘキモノトス其ノ縱覽修正ニ關スル期限等ハ總テ前條ノ例ヲ準用ス

第八條　府縣會議員ノ選擧ハ島司之ヲ管理スヘシ

第九條　府縣知事ハ投票ヲ行フヘキ日ヨリ少クトモ三十日前其ノ日時ヲ告示スヘシ

天災若ハ其ノ他ノ事故ニ依リ更ニ投票ヲ行フ場合ニ於テハ府縣知事ハ島司ヲシテ其ノ日時ヲ定メ之ヲ告示セシムヘシ

島嶼内交通不便ノ地ニ對シテハ府縣知事ハ島司ヲシテ適宜投票ノ期日ヲ變更セシムルコトヲ得

第十條　戸長役場所轄區域ヲ以テ投票所區域ト爲ス

投票所ハ戸長役場又ハ戸長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ戸長其ノ事務ヲ管理スヘシ

島司ハ事情ニ依リ數戸長役場區域ヲ以テ一投票所區域ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ島司ハ投票所竝投票所管理ノ戸長ヲモ指定スヘシ

第十一條　戸長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選擧人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ選任スヘシ

第十二條　選擧人ノ外何人タリトモ投票所ニ入ルコトヲ得ス

選擧人ハ投票所ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　選擧ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ選擧人名簿ノ對照ヲ經テ選擧人自ラ投票函ニ投入スヘシ

投票ニハ選擧人自ラ投票所ニ於テ被選擧人ノ氏名ヲ記シ次ニ自己ノ氏名及住所ヲ記シテ捺印スヘシ

第十四條　選擧人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ルトキハ戸長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票錄ニ記載スヘシ

第十五條　戸長ハ投票錄ヲ製シ投票ニ關スル顚末ヲ記錄シ立會人ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ

第十六條　投票ヲ終リタルトキハ戸長ハ一名ノ立會人ト共ニ投票函及投票錄ヲ選擧會場ニ護送スヘシ

第十七條　選擧會ハ島廳又ハ島司ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ク

第十八條　島司ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選擧掛三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第十九條　島司ハ選擧掛長ト爲リ投票函ノ總テ送達シタル翌日選擧掛立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若シ投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選擧錄ニ記載スヘシ

前項ノ計算終リタルトキハ選擧掛長ハ選擧掛ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第二十條　選擧人ハ選擧會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條　投票ニ記載シタル人員其ノ選擧スヘキ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其ノ投票ヲ無效トセス其ノ定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却スヘシ

左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　被選擧人ノ氏名讀ミ難キモノ

二　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載スルモノ

以上三種ノ投票中他ニ列記ノ被選擧人ニ付テハ仍其ノ效アルモノトス

四　選擧人被選擧人ノ氏名ヲ記載セサルモノ

五　選擧人ノ氏名讀ミ難キモノ

六　選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

七　選擧人名簿ニ記載ナキ者ノ投票

八　第十三條第三項ニ規定シタル外他事ヲ記入スルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ無效ト爲ス限ニアラス

九　投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

第二十二條　投票ノ效力ニ關スル事項ハ選擧掛之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選擧掛長之ヲ決ス

第二十三條　議員ノ選擧ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ選擧掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選擧スルトキハ投票數ノ多キ者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ投票ノ數相同ギトキハ選擧掛長自ラ抽籤シテ其ノ順序ヲ定ム

第二十四條　選擧掛ハ選擧錄ヲ製シテ選擧ノ顚末ヲ記錄シ之ニ署名捺印シ選擧人名簿投票錄其ノ他關係書類ト共ニ少クトモ四年間之ヲ保存スヘシ

投票ハ之ヲ選擧錄ニ附屬シ選擧ノ效力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第二十五條　二人以上投票同數ニシテ年長ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ依テ當選セサリシ者ヲ以テ當選人トス但シ年少ニ依テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ第二十三條第一項ノ例ヲ適用ス

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セサリシ者ヲ以テ當選人トス但シ抽籤ノ爲當選セサリシ者二人以上アルトキハ選擧掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

第二十六條　選擧ヲ終リ當選人ノ定マリタルトキハ島司ハ直ニ當選人ニ通知シ及府縣知事ニ報告スヘシ

當選人其ノ當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ二十日以內ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ屆出ヘシ

一人ニシテ數箇所ノ選擧ニ當リタルトキハ同期限內ニ何レノ選擧ニ應スヘキコトヲ府縣知事ニ屆出ヘシ

前二項ノ屆出ヲ其ノ期限內ニ爲ササルトキハ總テ選擧ヲ辭スル者ト視做スヘシ

第二十七條　當選人其ノ當選ヲ辭シタルトキハ府縣知事ハ更ニ選擧ヲ行ハシムヘシ

第二十八條　府縣會議員ノ選擧ニ關シテハ衆議院議員ノ選擧ニ關スル罰則ヲ適用ス

第二十九條　此ノ勅令施行ノ爲必要ナル命令ハ內務大臣之ヲ定ムヘシ

〔參照〕

法律第三十五號府縣制（明治二十三年五月十七日）抄錄

第四條第三項乃至第五項　其府縣ノ官吏及有給吏員神官諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ府縣會議員タルコトヲ得ス（東京府ハ郡ト稱セヘシ）

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

○

朕造船造兵監督官條例ニ依リ外國ニ派遣スル者ニ手當金給與ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二十三日

海軍大臣侯爵西鄕從道

勅令第二百二十八號（官報　六月二十六日）

造船造兵監督官條例ニ依リ外國ニ派遣スル者ニハ其ノ地ニ到著ノ翌日ヨリ歸朝ノ爲メ出發ノ日マテ海軍外國旅費定額ノ外別表金額以內ノ手當金ヲ給ス但シ其ノ細則ハ海軍大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

明治二十七年勅令第三十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表）

官等	日額	官等	日額
上長官	三圓五十錢	准士官	七十錢
士官	二圓三十錢	下士判任文官	七十錢

〔參照〕

明治二十七年三月二十七日官報　勅令第三十二號ハ外國ニ派遣スル造船造兵監督官會計官及監督助手ノ客舍料及日當ニ關スル件ナリ

○

朕北海道廳ニ於テ鐵道築港其ノ他土木工事ニ要スル「セメント」買入ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二十九日

拓殖務大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百二十九號（官報　七月一日）

北海道廳ニ於ケル鐵道築港其ノ他土木工事ニ要スル「セメント」ノ買入ハ明治三十年度及同三十一年度ニ在テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○

朕作業及鐵道會計規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月一日

大藏大臣伯爵松方正義
陸軍大臣子爵高島鞆之助
遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百三十號（官報　七月五日）

明治二十三年勅令第三十三號作業及鐵道會計規則第十五條但書中「俸給諸給ヲ除キ」ノ七字ヲ削ル

〔參照〕

勅令第三十三號作業及鐵道會計規則（明治二十三年三月二十日）抄錄

第十五條　仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ正當債主若クハ其代理人ノ爲メニスルニアラサレハ仕拂請求書ヲ發スルヲ得ス但俸給諸給ヲ除キ支部局及派出工場ニ於テ仕拂ヲナス經費外國ニ於テ仕拂ヲナス經費職工人夫ノ給料諸手當ハ仕拂請求書ヲ發シ主任ノ官吏又ハ外國派出ノ官吏ヲ仕拂官吏トシテ現金ノ前渡ヲナスコトヲ得

○

朕固定軍用電信ヲ公衆通信ノ用ニ供スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月一日

陸軍大臣子爵高島鞆之助
遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百三十一號（官報七月五日）

明治二十七年法律第五號ニ依リ那覇基隆間固定軍用電信ヲ公衆通信ノ用ニ供ス其ノ通信所及開始期日ハ遞信大臣之ヲ告示ス

○

朕稅關監視官ノ服制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年六月二十九日

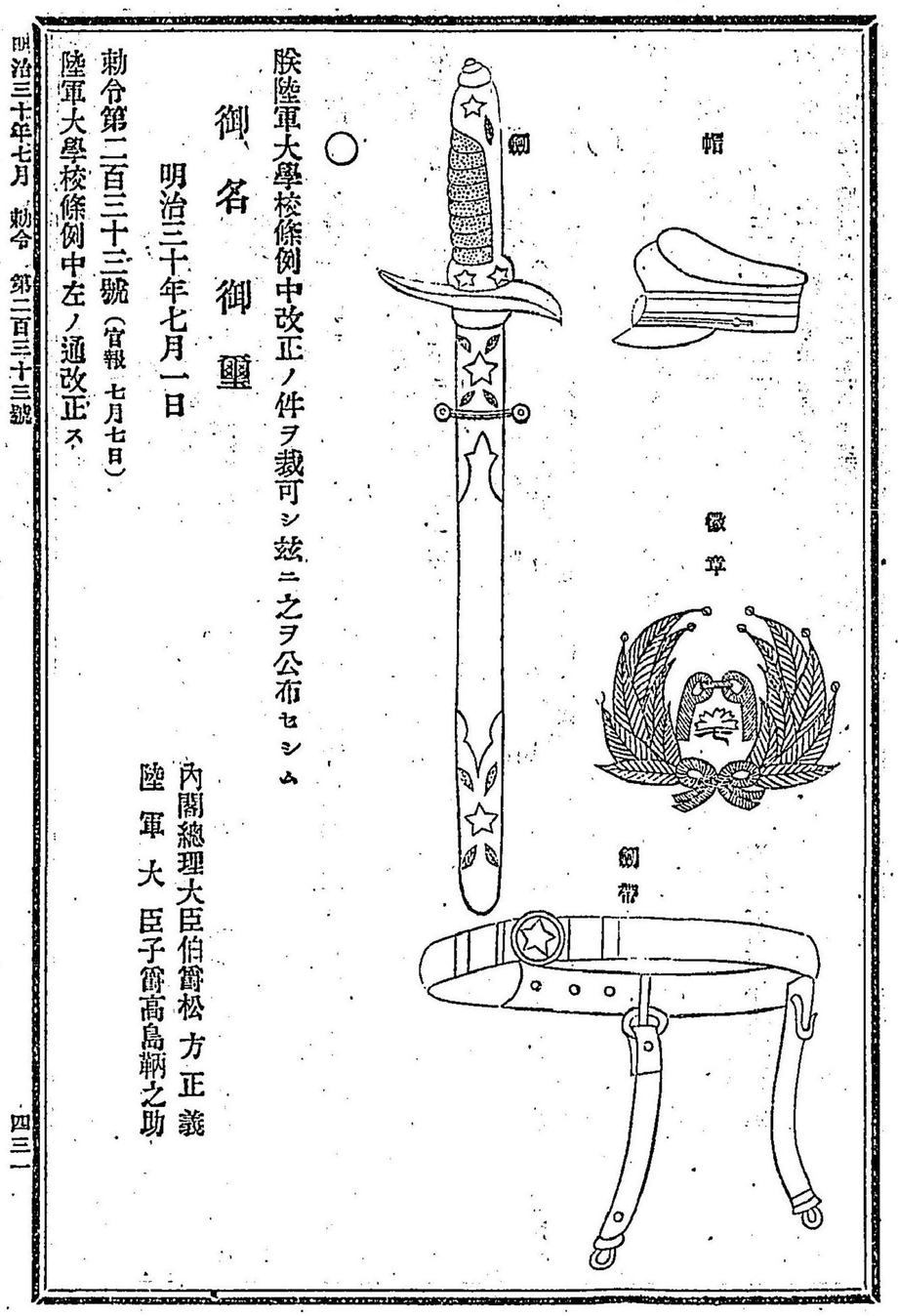
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百三十二號（官報七月七日）

稅關監視官服制左ノ通定ム

稅關監視官服制表

正	上衣	地質	紺羅紗
		製式	竪襟胸二重圖ノ如シ
		袖章	幅四分金線二條幅二分金線一條線ノ間隔ハ各一分トス
		釦	金櫻花胸部ニ二行一行八箇後面腰部ニ四箇ヲ附ス圖ノ如シ
		地質	紺羅紗
		製式	長サ靴踵ノ上ニ止ル物入兩股ニ各一箇ヲ附ス圖ノ如シ
		側章	幅一寸ノ黑線一條ヲ附ス
		地質	紺羅紗
		製式	圓形ニシテ黑革ノ眉庇及支革ヲ附シ支革ノ兩端各一箇ノ金櫻花釦釦ヲ以テ留ム圖ノ如シ
		徽章	金闕ノ字及櫻葉七枚抱合セ其ノ中ニ金櫻花一箇ヲ附ス周圍ニ幅八分金線一條ヲ附ス圖ノ如シ
	帽	地質	紺「セルジ」
		製式	正服ニ同シ
		袖章	正服ニ同シ
		釦	正服ニ同シ
	襯衣	地質	白「リンネル」
		製式	正服ニ同シ
	帽		正帽ニ白布ヲ覆フ但シ帽ニ適合ノ縫合トス
	外套	地質	紺羅紗
		製式	竪襟胸二重圖ノ如シ
		袖章	正服ニ同シ
		釦	金櫻花前面胸部ニ二行一行六箇後面腰部ニ八箇ヲ附ス圖ノ如シ
	雨覆		紺羅紗圖ノ如シ
	劍		柄白鮫背面ヲ覆フタル金具金色長五寸鞘黑革長一尺五寸緑頭鍔胴輪鐶及小尻トモ金具金色櫻花及櫻葉ヲ置ク圖ノ如シ
	劍帶		黑革製金具金色徑一寸三分中央櫻花ヲ置ク圖ノ如シ



朕陸軍大學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月一日

勅令第二百三十三號（官報　七月七日）

陸軍大學校條例中左ノ通改正ス

內閣總理大臣伯爵松方正義

陸軍大臣子爵高島鞆之助

第二條中「軍吏」ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

教頭　參謀大佐

第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六條　教頭ハ校中一般ノ教育ヲ監督シ校長ニ對シ教育方法ヲ參畫スルノ責ニ任ス

教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ自ラ一部ノ教授ヲ擔任シ又時トシテハ校長ニ代リ兵學教官及教官ニ學術上ノ課業ヲ命スルコトアルヘシ

第六條ヲ第七條ニ改メ其次ニ左ノ一條ヲ加フ

第八條　總テ教育ノ事ニ關スル校長ヘノ具申ハ豫メ教頭ノ承認ヲ得ルカ若シクハ教頭ヲ經由シテ之ヲ爲スモノトス

第七條ヲ第九條ニ改メ以下逐次繰下ク

第十八條中「終ニ於テ」ノ下ニ「教頭及」ノ三字ヲ加フ

〔參照〕

勅令第百七十一號陸軍大學校條例（明治二十四年八月十三日官報）抄錄

第十八條　校長ハ各學期ノ終ニ於テ武官教官ヲ會集シ學生ノ修學結果及ヒ技倆ヲ審査シ第一第二學年者ニアリテハ其修學結果ヲ第三學年者ニアリテハ技倆證明書竝優劣順次名簿ヲ參謀總長ニ呈ス

○

朕舞鶴軍港境域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

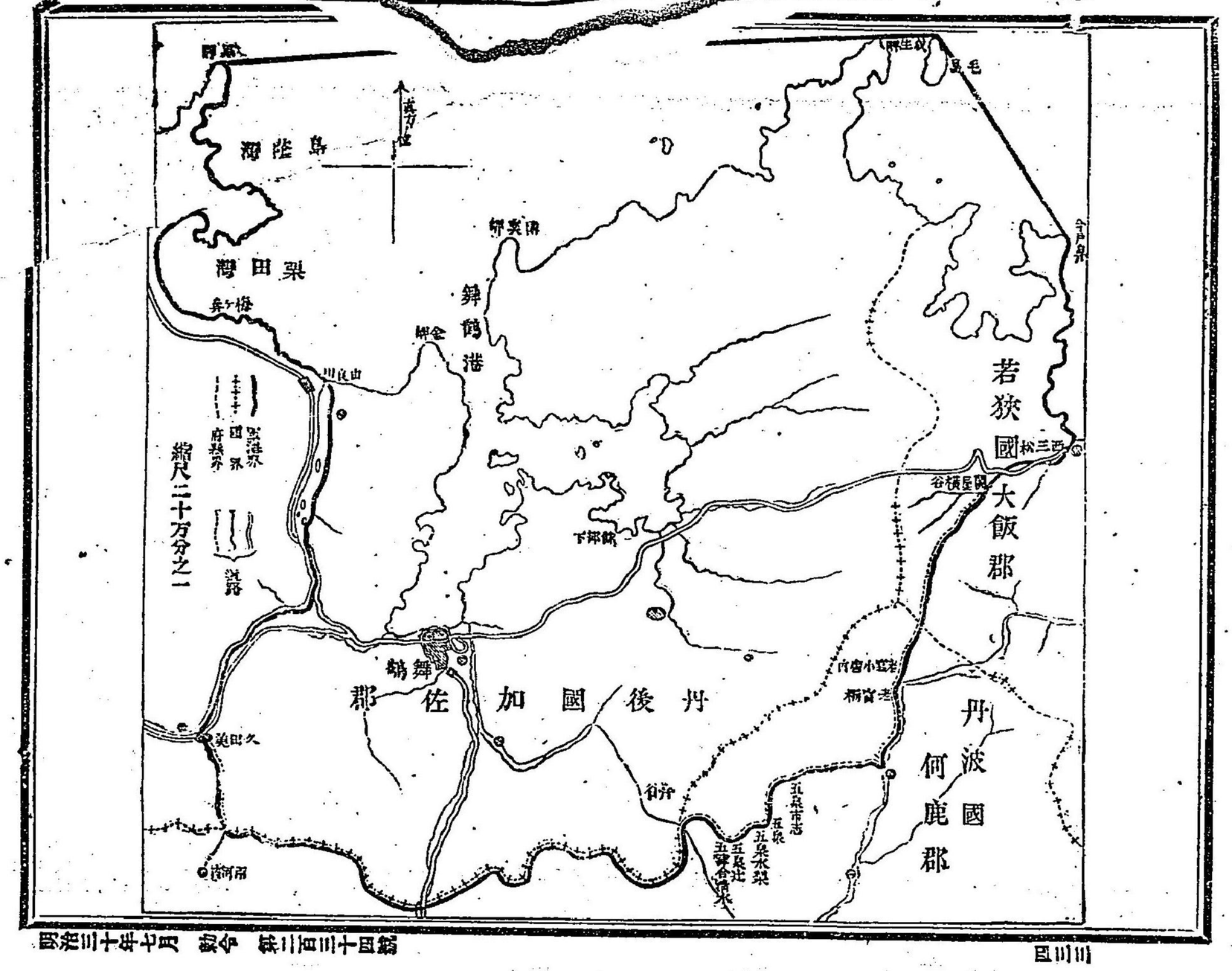
御名御璽

明治三十年七月二日

海軍大臣侯爵西鄕從道

勅令第二百三十四號（官報　七月七日）

舞鶴軍港ノ境域ハ左圖ニ記スル黑線以內ト定ム


湖陸島
梁田湖
舞鶴港
若狭國
大飯郡
丹後國
佐加郡
丹波國
何鹿郡
縮尺二十万分之一

左ノ線ヲ以テ軍港境域ノ陸上境界トス

若狹國大飯郡青郷村字西三松ノ東ニ於テ海ニ注ク所ノ河流ヲ遡リ關屋横谷ニ至リ同所ヨリ丹波國何鹿郡ノ内、老富小唐内、老富栃、五泉市志、五泉、五泉水梨、五泉辻、五津合清水ヲ經ル道路ニ沿ヒ仍五津合清水ヨリ丹後國加佐郡池内村字岸谷ニ通スル道路ヲ西ニ進ミ丹波丹後二國ノ國境ニ會スル點ヨリ丹波丹後二國ノ國境ニ沿ヒ西ニ進ミ丹後國加佐郡岡田下村字久田美ヨリ丹波國何鹿郡志賀郷村字兩河内ニ通スル道路ト會スル點ニ至リ同所ヨリ久田美ニ通スル道路ヲ北方ニ進ミ由良川ニ出テ由良川ノ右岸ニ沿ヒ海ニ達スル線

○

朕舞鶴軍港ノ取締ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍大臣侯爵西郷從道

御名御璽

明治三十年七月二日

勅令第二百三十五號（官報　七月七日）

舞鶴鎮守府ヲ設置スルマテノ間第四海軍區中舞鶴軍港ノ取締ハ臨時海軍建築部ヲシテ之ヲ掌理セシム

○

朕陸軍砲兵會議條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍大臣子爵高島鞆之助

御名御璽

明治三十年七月九日

勅令第二百三十六號（官報 七月十三日）

陸軍砲兵會議條例

第一條　陸軍砲兵會議ハ砲兵技術ニ關シ陸軍大臣ノ諮詢ニ應スル所トス

第二條　陸軍砲兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長　少將若クハ砲兵大佐

議員　砲兵佐官

臨時議員　各兵科各部上長官或ハ陸軍技師

審査官　砲兵佐官同大尉

第三條　前條ニ掲クル職員ノ外審査官ノ下ニ砲兵上等監護、砲兵下士竝屬、技手ヲ置ク

第四條　議長ハ陸軍大臣ニ隷シ議事ヲ整理シ會議一切ノ事務ヲ總理ス

第五條　審査官ハ審査試驗ノ事ヲ分擔シ其ノ分擔事項ニ關シテハ議事ニ列シ答辯説明ノ任ニ當リ且會議ノ事務ヲ處理ス

第六條　議員ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補ス

臨時議員ハ議事ノ必要ニ方リ陸軍大臣他ニ本職アル者ヲ以テ之ヲ命シ議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス

第七條　議長不在ノトキハ議事ニ關シテハ議員中高級故參ノ者其ノ代理ヲナスヘシ但議員ハ事務ニ關シ代理スルコトナシ

第八條　陸軍砲兵會議ハ砲兵技術ニ關シ必要ト認ムル事件ハ陸軍大臣ニ建議スルコトヲ得但輕易ノ事項ニシテ議事ニ附スルノ必要ナシト認ムルモノニ在テハ議長ハ直ニ之ヲ建議スルコトヲ得

第九條　陸軍砲兵會議ハ議事規則ヲ議定シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條　總議員二分一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス但緊急ノ場合

ニ在テハ總議員三分一以上出席スルトキハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得

第十一條　議長ハ議事表決ノ數ニ預ルコトヲ得ス

第十二條　議事ハ出席議員ノ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十三條　輕易ノ事項ニシテ議事ニ附スルノ必要ナキモノハ陸軍大臣ハ單ニ審査若クハ起案ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條　試驗等ノ爲メ軍隊ヲ要スルトキハ議長ハ師團長及當該兵監ニ稟議シ之ヲ使用スルコトヲ得

第十五條　砲工兵兩科ノ技術ニ跨ル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ在テハ陸軍大臣之ヲ特達ス

第十六條　合同會議ヲ開クトキハ砲工兵兩會議議長中高級故參ノ者議長トナリ下級ノ者ハ議員ニ列シ表決ニ預ルモノトス第二項ノ場合ニ於テハ高級故參ノ者モ亦同シ

議事ノ必要ニ依リ陸軍大臣ハ特ニ他ノ將官ヲ以テ議長ニ命スルコトヲ得但其ノ議事了レハ直ニ解任スルモノトス

第十七條　合同會議ハ總テ本會議ノ規定ニ據ル

○

朕陸軍工兵會議條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月九日

勅令第二百三十七號（官報　七月十三日）

陸軍工兵會議條例

陸軍大臣子爵高島鞆之助

第一條　陸軍工兵會議ハ工兵技術ニ關シ陸軍大臣ノ諮詢ニ應スル所トス

第二條　陸軍工兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長　少將若クハ工兵大佐

議員　工兵佐官

臨時議員　各兵科各部上長官或ハ陸軍技師

審査官　工兵佐官同大尉

第三條　前條ニ掲クル職員ノ外審査官ノ下ニ工兵上等監護、工兵下士竝屬、技手ヲ置ク

第四條　議長ハ陸軍大臣ニ隸シ議事ヲ整理シ會議一切ノ事務ヲ總理ス

第五條　審査官ハ審査試驗ノ事ヲ分擔シ其ノ分擔事項ニ關シテハ議事ニ列シ答辯説明ノ任ニ當リ且會議ノ事務ヲ處理ス

第六條　審査官ニハ陸軍技師ヲ混用スルコトヲ得

第七條　議員ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補ス

臨時議員ハ議事ノ必要ニ方リ陸軍大臣他ニ本職アル者ヲ以テ之ヲ命シ議事了レハ直ニ解任スルモノトス

第八條　議長不在ノトキハ議事ニ關シテハ議員中高級故參ノ者其ノ代理ヲナスヘシ但議員ハ事務ニ關シ代理スルコトナシ

第九條　陸軍工兵會議ハ工兵技術ニ關シ必要ト認ムル事件ハ陸軍大臣ニ建議スルヿトヲ得但輕易ノ事項ニシテ議事ニ附スルノ必要ナシト認ムルモノニ在テハ議長ハ直ニ之ヲ建議スルコトヲ得

第十條　陸軍工兵會議ハ議事規則ヲ議定シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十一條　總議員二分一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス但緊急ノ場合ニ在テハ總議員三分一以上出席スルトキハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得

第十二條　議長ハ議事表決ノ數ニ預ルコトヲ得ス

第十三條　議事ハ出席議員ノ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十四條　輕易ノ事項ニシテ議事ニ附スルノ必要ナキモノハ陸軍大臣ハ單ニ審査若クハ起案ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條　試驗等ノ爲メ軍隊ヲ要スルトキハ議長ハ師團長及當該兵監ニ稟議シ之ヲ使用スルコトヲ得

第十六條　砲工兵兩科ノ技術ニ跨ル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ在テハ陸軍大臣之ヲ特達ス

第十七條　合同會議ヲ開クトキハ砲工兵兩會議議長中高級故參ノ者議長トナリ下級ノ者ハ議員ニ列シ表決ニ預ルモノトス第二項ノ場合ニ於テハ高級故參ノ者モ亦同シ

議事ノ必要ニ依リ陸軍大臣ハ特ニ他ノ將官ヲ以テ議長ニ命スルコトヲ得但其議事了レハ直ニ解任スルモノトス

第十八條　合同會議ハ總テ本會議ノ規定ニ據ル

○

朕臨時博覽會事務局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

內閣總理大臣伯爵松方正義
農商務大臣伯爵大隈重信

明治三十年七月七日

勅令第二百三十八號（官報七月十四日）

臨時博覽會事務局官制中左ノ通改正ス

第二條中副總裁「二人」ヲ「二人」ニ事務官「六人」ヲ「十人」ニ改ム

第三條第一項ヲ左ノ通改ム

總裁ハ農商務大臣副總裁事務官長ハ勅任官事務官ハ高等官又ハ學識經驗アル者ヲ以テ之ニ充ツ

〔參照〕

勅令第百八十九號臨時博覽會事務局官制（明治二十九年五月九日官報）抄錄

第三條第一項

總裁ハ農商務大臣、副總裁事務官長ハ勅任官、事務官ハ奏任官ヲ以テ之ニ充ツ

○

朕警備隊司令部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

陸軍大臣子爵高島鞆之助

明治三十年七月十三日

勅令第二百三十九號（官報七月十七日）

警備隊司令部條例

第一條　警備隊司令官ハ師團長ニ隸シ在島陸軍諸隊ヲ統率シ警備隊區內ノ警備保護ニ任ス

隊中ノ軍紀、風紀、訓練、教育、內務、經理及動員計畫ノ事ハ警備隊司令官ノ責任トス但對馬ニ在テハ當該隊長其ノ責ニ任シ警備隊司令官之ヲ統監ス

第二條　警備隊司令官ハ警備隊區內ノ徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

第三條　警備隊司令官ハ警備隊區內ニ現在スル在鄉陸軍軍人及補充兵役ニ在ル者ノ身上異動其ノ他願屆ニ關スル一切ノ事ヲ管理ス

第四條　騷擾變亂ノ事アルニ際シ地方長官ヨリ兵力ヲ請求スルトキ事急ニシテ指揮ヲ請フノ暇

ナキトキハ警備隊司令官直ニ之ニ應スヘシ但極メテ火急ノ場合ニ在テハ地方長官ノ請求ヲ待タス自ラ兵力ヲ以テ事ニ從フコトヲ得

前項ノ場合ニ在テハ事後直ニ之ヲ師團長ニ報告スヘシ

第五條　參謀ハ防禦計畫ニ從事シ且司令部一般ノ事務ヲ整理シ司令官ニ對シ其ノ責ニ任ス

第六條　副官ハ司令部一般ノ庶務ニ服ス

第七條　軍醫ハ衛生一般ノ事務ニ服シ其ノ他徵兵、志願兵及諸生徒志願者ノ身體檢査ニ從事シ且其ノ事務ヲ管理ス

第八條　軍吏ハ經理一般ノ事務ニ服ス

第九條　下士以下ハ上官ノ指揮ヲ承ケ各分擔ノ業務ニ從事ス

第十條　警備隊ノ內務ハ軍隊內務書ノ規定ニ據ル

○

朕明治二十六年勅令第百三十九號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月十六日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百四十號（官報　七月二十日）

稅關支署及監視署設置ニ關スル明治二十六年勅令第百三十九號中左ノ通改正ス

下ノ關神戶稅關支署ノ前ニ左ノ一項ヲ加フ

清水橫濱稅關支署　　駿河國清水

伏木新潟稅關支署ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

七尾新潟稅關支署　　能登國七尾

築地橫濱稅關監視署ノ次ニ左ノ七項ヲ加フ

本牧橫濱稅關監視署　　武藏國本牧

屏風浦橫濱稅關監視署　　武藏國屏風浦

館山橫濱稅關監視署　　安房國館山

父島橫濱稅關監視署　　小笠原島父島

今治神戶稅關監視署　　伊豫國今治

鹿兒島長崎稅關監視署　　薩摩國鹿兒島

稚內函館稅關監視署　　北見國稚內

附則

本令ハ明治三十年八月一日ヨリ施行ス

○

朕理事主理任用令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月十五日

內閣總理大臣伯爵松方正義

海軍大臣侯爵西鄕從道

陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百四十一號（官報　七月二十一日）

理事主理任用令中左ノ通改正ス

第二條中「主理試補ハ」ノ下ニ「理事試補主理試補登用試驗ニ及第シタル者若ハ」ノ二十一字ヲ加フ

第四條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ理事試補主理試補登用試驗ニ依リ採用セラレタル者ハ此ノ限ニアラス

第七條中「實務修習」ノ上ニ「登用試驗竝」ノ五字ヲ加フ

〔參照〕

勅令第十三號理事主理任用令（明治二十七年二月六日官報）抄錄

第二條　理事試補及主理試補ハ司法官試補タルノ資格ヲ有スル者ヨリ採用ス

第四條　滿三年以上理事又ハ主理ノ職ニ在ル者及其ノ職ニ在リタル者ハ明治二十六年勅令第百八十三號文官任用令第一條判事檢事ノ例ニ依リ他ノ奏任文官ニ任用スルコトヲ得

第七條　實務修習及實務修習試驗ニ關スル規則ハ理事試補ニ係ルモノハ陸軍大臣、主理試補ニ係ルモノハ海軍大臣之ヲ定ム

○

朕臺灣總督府國語學校官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月十五日

内閣總理大臣伯爵松方正義

拓殖務大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百四十二號（官報七月二十一日）

第一條　臺灣總督府國語學校ニ附屬學校ヲ置キ公學模範學校ヲ附設ス

第二條　臺灣總督府國語學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

教授

助教授

教諭

助教諭

舍監

書記

第三條　學校長ハ一人奏任トス臺灣總督府民政局長ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條　教授ハ八人奏任トス國語學校生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授ハ六人判任トス教授ノ職務ヲ助ク

第五條　教諭ハ十五人判任トス附屬學校又ハ公學模範學校生徒ノ教授ヲ掌ル

助教諭ハ九人判任トス教諭ノ職務ヲ助ク

第六條　舍監ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

舍監ハ教官ヨリ之ヲ兼ネシム

第七條　書記ハ九人判任トス學校長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第八條　臺灣總督府民政局長ハ國語學校教官ノ中ヨリ公學模範學校ノ主事ヲ命シ同校ニ關スル事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

○

朕臺灣總督府國語傳習所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月十五日

内閣總理大臣伯爵松方正義

拓殖務大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百四十三號（官報七月二十一日）

臺灣總督府國語傳習所官制

第一條　臺灣總督府國語傳習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

教諭

助教諭

書記

第二條　所長ハ各所一人縣廳ノ高等官又ハ教諭ヲシテ之ヲ兼ネシム

所長ハ知事、廳長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第三條　教諭ハ五十二人判任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

助教諭ハ二十八判任トス教諭ノ職務ヲ助ク

第四條　書記ハ二十八人判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

○

朕臺灣總督府直轄諸學校官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月十五日

內閣總理大臣伯爵松方正義

拓殖務大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百四十四號（官報七月二十一日）

明治二十九年勅令第九十四號臺灣總督府直轄諸學校官制ハ本年勅令第二百四十二號臺灣總督府國語學校官制及勅令第二百四十三號臺灣總督府國語傳習所官制施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○

朕海軍下士卒手當金規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月二十二日

海軍大臣侯爵西鄕從道

勅令第二百四十五號（官報七月二十六日）

海軍下士卒手當金規則

第一條　陸上勤務ノ下士卒ヲシテ外宿セシムルトキハ下士ニハ一日二十錢卒ニハ一日十八錢ノ手當金ヲ給ス

第二條　下士卒ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スルトキハ一日二十五錢以內ノ手當金ヲ給スルコトヲ得、

一　水底ノ事業ニ從事セシムルトキ

二　艦底、汽罐內部、機關室底部若ハ水罐底部ノ掃除ニ從事セシムルトキ

三　難破船、漂流人ノ救助ニ從事セシムルトキ

四　艦船ニ於テ石炭積込ノ事業ニ從事セシムルトキ

五　前諸項ノ外之ニ準スヘキ非常ノ勞働ニ從事セシムルトキ

第三條　下士卒ニシテ熱帶地方其ノ他炎熱ノ場所ニ於テ左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スルトキハ一日十二錢以內ノ手當金ヲ給スルコトヲ得

前項手當金ノ支給期間ハ熱帶地方ノ外ニ在テハ暑期百二十日以內トス

一　艦船ニ在テ釀汽中機關部ノ事業ニ從事セシメ又ハ廚房ノ事業ニ從事セシムルトキ但シ小蒸汽船ニ在テハ此ノ限ニアラス

二　北緯三十度以南ノ陸地ニ於テ釀汽中機關部ノ事業ニ從事セシムルトキ

第四條　徵兵ニシテ再服役ノ許可ヲ受ケ現役ニ就キタル者ニハ毎期金十圓ノ手當金ヲ給ス

第五條　第一條ノ手當金ハ糧食若ハ旅費ヲ給スルトキ傷痍疾病治療ノ爲メ入院シタルトキ擅ニ職役ヲ離レタルトキ他方ニ赴キ歸著ノ期ニ後レタルトキ又ハ依願歸鄉、處刑、留置、收禁中若ハ被告事件ノ爲メ護送中ハ其ノ間之ヲ給セス

第六條　第一條ノ手當金ハ毎月下旬ニ於テ之ヲ給ス

第七條　此ノ規則施行ノ細則ハ海軍大臣之ヲ定ム

附則

第八條　此ノ規則ハ明治三十年八月一日ヨリ施行ス

○

朕北海道廳巡査看守及北海道集治監看守ニ手當支給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月二十二日

内閣總理大臣伯爵松方正義

拓殖務大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百四十六號（官報　七月二十六日）

北海道廳巡査看守及北海道集治監看守ニハ土地ノ狀況ニ依リ一箇月三圓以内ノ手當ヲ支給スルコトヲ得

○

朕明治二十九年十二月二十二日白耳義國「ブラッセル」ニ於テ朕カ全權委員ト白耳義國全權委員ノ記名調印シタル領事職務條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月二十四日（官報　七月三十日）

内閣總理大臣伯爵松方正義

外務大臣伯爵大隈重信

日本國皇帝陛下及白耳義國皇帝陛下ハ相互ニ各其ノ領事官ノ權利、特權、免除及兩國ニ於テ遵守スヘキ職務竝ニ義務ヲ充分明確ニ規定セムコトヲ欲シ領事職務條約ヲ締結スルコトニ決定シ之カ爲メ日本國皇帝陛下ハ白耳義國駐箚特命全權公使從二位勳一等子爵青木周藏ヲ白耳義國皇帝陛下ハ其ノ外務大臣衆議院議員「ナイト、オフ、ゼ、オルダー、オフ、レオポルド」「ボール、ド、ファヴェロー」ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ眞好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ヲ其ノ各港、各市、各地ニ駐在セシムルコトニ同意ス但シ領事官ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラサル場所ハ此ノ限ニ在ラス然レトモ右ノ制限ハ他ノ諸外國ニ對シテモ均シク之ヲ適用スルニ非サレハ兩締盟國ノ一方ニモ適用セサルヘシ

第二條

兩締盟國ノ一方ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ相互ニ他ノ一方ノ國内ニ於テ最惠國ノ同等同格ノ領事官カ享有スル特權、特典及免除ヲ享有スヘシ、右領事官ハ其ノ職務ノ執行及其ノ職務ニ附屬スル免除ノ享有ヲ許可セラルルニ先タチ各其ノ本國ノ規定ノ書式ニ據ル所ノ委任狀ヲ差出スヘシ、兩締盟國政府ハ無料ニテ領事官ノ職務執行ニ必要ナル認可狀ヲ付與シ領事官ハ此ノ認可狀ヲ示シテ本條約ニ依リ許與セラレタル所ノ權利、特權及免除ヲ享有スヘシ

認可狀ヲ付與シタル政府ニ於テ若其ノ認可狀ヲ取上ルコトヲ便宜ト認メタルトキハ其ノ理由ヲ示

シテ之ヲ取上ルノ權利ヲ有ス

第三條

總領事、領事、副領事及代辨領事ニシテ其ノ任命國ノ臣民ナルトキハ駐在國ノ法律ニ從ヒ重罪ト認メ且重罪ノ刑罰ニ處スヘキ罪ヲ犯シタル場合ニ非サレハ勾留ヲ受クルコトナカルヘシ、又軍隊ノ宿營及陸海常備軍、護國軍、地方自衛軍、民兵ノ兵役ヲ免カルヘシ、又國、府縣、郡、市町村ノ利益ノ爲ニ課セラルル對人的性質ヲ有スル一切ノ直接稅ヲモ免カルヘシ、但シ不動產所有ノ故ヲ以テ課セラルルモノ若ハ右領事官ノ駐在國ニ於テ投シタル資本ノ利子ニ對シテ課セラルルモノハ此ノ限ニ在ラス、然レトモ右ノ特典ハ總領事、領事、副領事及代辨領事ノ職業、工業若ハ商業ニ從事スル者ニ適用スルヲ得ス此ノ場合ニ於テハ右領事官ハ總テ他ノ外國人カ同樣ノ場合ニ於テ拂フモノト同一ノ稅金ヲ拂フヘキモノトス

第四條

兩國ノ一方ノ裁判所カ任命國ノ臣民ニシテ商業ニ從事セサル總領事、領事、副領事若ハ代辨領事ヨリ裁判上ノ申立若ハ供述ヲ聽カムト欲スルトキハ書面ヲ以テ其ノ出廷ヲ請求シ若支障アルトキハ民事ノ場合ニ限リ供述書ヲ請求スルカ若ハ其ノ居宅又ハ事務所ニ就キ供述ヲ聽取ルヘシ

該領事官ハ成ルヘク速ニ右ノ請求ニ應スルノ義務アルモノトス

第五條

總領事、領事、副領事及代辨領事ハ其ノ事務所ノ門戶ニ其ノ本國ノ徽章ト共ニ日本國若ハ白耳義國總領事館、領事館、副領事館若ハ代辨領事館ナル文字ヲ記シタル標牌ヲ掲クルコトヲ得

右領事官ハ又其ノ事務所ニ本國國旗ヲ掲クルコトヲ得但シ其ノ場所國ノ首府ニシテ公使館所在地ナルトキハ此ノ限ニ在ラス、又港內ニ於テ職務執行ノ爲メ使用スル船舶ニモ均シク其ノ本國國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第六條

任命國ノ臣民ニシテ商業、工業又ハ其ノ他ノ營業ニ從事セサル領事官ノ事務所ハ如何ナル時ト雖侵スヘカラサルモノトス、駐在國ノ當該官廳ハ刑事取調ノ爲ノ外何等ノ口實ヲ以テスルモ該事務所ニ侵入スルコトヲ得ス、又如何ナル場合ニ於テモ該事務所內ニ在ル書類ハ右官廳ニ於テ之ヲ檢閱シ又ハ差押ユルコトヲ得ス、領事館事務所ハ如何ナル場合タリトモ犯罪人ノ庇護所ト爲スヘカラス、領事官ニシテ他ノ事業ニ從事スルトキハ領事館ニ關スル書類ハ別ニ保管シ置キ如何ナル時ト雖侵スヘカラサルモノトス

第七條

總領事、領事、副領事及代辨領事ノ死亡、支障若ハ不在ノ場合ニハ書記生又ハ筆生ニシテ日本國外務大臣若ハ白耳義國外務大臣ヘ豫メ其ノ資格ヲ通知シアル者ニ於テ臨時其ノ領事館ノ事務ヲ擔任スルコトヲ得而シテ其ノ事務代理中ハ領事官ニ許與セラルル總テノ權利、特權及免除ヲ享受スヘシ

第八條

總領事及領事ハ其ノ本國法律ノ許ス限ハ其ノ政府ノ認可ヲ經テ管轄區域內ノ市、港及其ノ他ノ場所ニ副領事及代辨領事ヲ任命スルコトヲ得、右副領事及代辨領事ハ日本國臣民、白耳義國臣民若ハ他國人中ヨリ選擇スルコトヲ得而シテ正式ノ委任狀ヲ受ケ本條約中領事官ノ爲ニ定ムル所ノ特權ヲ享受スヘシ、但シ右ノ如キ領事官ニ對シ殊ニ規定スル所ノ除外制限ニ遵フヘキモノトス

第九條

日本國ト白耳義國トノ間ニ存在スル條約又ハ約定ノ違背ニ對シ抗議ヲ爲シ又ハ自國臣民ノ權利利益ヲ保護スル爲メ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ其ノ管轄區域內ニ在ル國、府縣、郡若ハ市町村ノ行政官廳或ハ司法官廳ヘ照會スルノ權アルモノトス

若其ノ抗議ニ對シ相當ノ處分ナキトキハ右領事官ハ其ノ本國外交官不在ノ場合ニ限リ駐在國ノ政

府ヘ直接ニ之ヲ申出ルコトヲ得

第十條

兩締盟國ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ其ノ事務所、自宅、當事者ノ住所又ハ船舶內ニ於テ其ノ本國船舶ノ船長、船員、乘客及其ノ他本國臣民ノ供述ヲ聽取ルコトヲ得、又其ノ本國ノ法律規則ニ準據シ其ノ事務所ニ於テ本國臣民ニ關スル出生ノ證明書、私生兒ノ承認狀、結婚及死亡ノ證明書ヲ調製スルコトヲ得、但シ其ノ登錄證明シタル旨ヲ直ニ駐在國ノ官廳ヘ告知スヘシ、又其ノ本國臣民ト駐在國ノ臣民若ハ其ノ他ノ住民トノ間ニ取結フ所ノ一切ノ契約書ヲ調製スルコトヲ得、且又契約ニシテ右領事官ノ本國ノ版圖內ニ在ル財產或ハ右版圖內ニ於テ取扱フヘキ事務ニ關係アルトキハ駐在國ノ臣民若ハ其ノ他ノ住民間ニ於ケルモノト雖總テ之ヲ調製スルコトヲ得

前記各種ノ書類及證書ハ其ノ原本、謄本若ハ翻譯タルニ拘ラス總領事、領事、副領事及代辨領事ニ於テ證明公認シ其ノ官印ヲ捺シタルモノハ日本國及白耳義國ノ裁判所ニ於テ公認證書トシテ承認スヘキモノトス

第十一條

兩締盟國ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ專ラ本國商船船內ノ秩序ヲ保持スルコトニ任シ且起因ノ如何ヲ問ハス船長、役員及乘組員間ニ海上又ハ港內ニ於テ起ル一切ノ紛議就中給料ノ整理及契約ノ履行ニ關スル紛議ヲ單獨ニ處理スヘシ、其ノ起リタル紛擾カ陸上若ハ港內ノ安寧秩序ヲ妨害スヘキ性質タルカ若ハ其ノ國ノ人民或ハ乘組員ニ非サル者ノ關係シタルトキノ外地方官廳ハ之ニ關涉スルコトヲ得サルモノトス

總テ其ノ他ノ場合ニ於テハ地方官廳ハ其ノ國民ノ關係シタル場合ヲ除クノ外領事官カ至當ト認メ之ヲ依賴スルニ於テハ乘組員名簿ニ登載シアル者ヲ逮捕シ其ノ船ノ港內ニ碇泊シ居ル間其ノ管下ノ監獄ニ留置スルコトノ援助ヲ與フルニ止マルヘシ

但シ此ノ規定ハ地方官廳ニ於テ逮捕留置ノ必要アリト認メタル場合ニ限リ之ヲ適用スヘキモノトス

右逮捕留置ニ關スル費用ハ領事官ニ於テ負擔スヘキモノトス

第十二條

兩締盟國ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ各其ノ本國船舶ノ脫船者ヲ逮捕スル爲メ駐在國地方官廳ヨリ法律ノ許ス限リ一切ノ援助ヲ受クヘキモノトス但シ脫船者カ其ノ所屬國ニ於テ脫船シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

右逮捕ヲ求ムルニハ領事官ハ書面ヲ以テ夫夫其ノ駐在國當該地方官廳ニ依賴スヘシ而シテ右脫船者ヲ請求スルニハ書面ヲ以テ之ヲ照會シ且船舶登錄簿及船員名簿ヲ示シ或ハ其ノ他ノ公證書類ヲ示シテ以テ其ノ引渡ヲ請求スル者ノ該船乘組員タルコトヲ證明スヘシ

斯ク證明アル請求ヲ受ケタル以上ハ脫船者ヲ領事官ニ引渡スコトヲ拒絕スルヲ得ス、但シ右脫船者カ乘組人員ニ編入ノトキ又ハ著港ノトキ引渡ノ請求ヲ受ケタル國ノ臣民タリシコトヲ正當ニ證明サレタル場合ハ此ノ限ニ在ラス、而シテ右ノ如ク逮捕シタル脫船者ハ之ヲ還送スルノ便ヲ得ル迄領事官ノ請求ニ應シ且其ノ費用ヲ以テ地方ノ監獄ニ抑留シ置クヘシ、但シ逮捕ノ日ヨリ三箇月以內ニ還送ノ便ヲ得サルトキハ右脫船者ハ放免セラルヘシ而シテ右事件ノ爲メ再ヒ逮捕セラルルコトナカルヘシ

脫船者ニシテ若罪科ヲ犯シタルトキハ之ヲ管轄スル權アル裁判所ニ於テ其ノ判決ヲ下シ之ヲ執行スル迄ハ引渡ヲ延期スヘシ

第十三條

兩國船舶ノ航海中受ケタル總テノ損害ハ船舶所有者、荷主及保險者ノ間ニ特ニ契約シアル場合ヲ除キ該船舶カ任意ニ寄港シタルト避難ノ爲メ已ヲ得ス寄港シタルトヲ問ハス總テ其ノ所屬國ノ總

領事、領事、副領事及代辨領事ニ於テ夫夫之ヲ決定スヘキモノトス
但シ領事官ニシテ該船舶若ハ積荷ニ對シ利害ノ關係ヲ有スル場合又ハ其ノ代理人タル場合及駐在國ノ住民若ハ第三國ノ臣民若ハ人民ニ於テ其ノ事件ニ關係ヲ有シ居リ當事者ノ間ニ協議一致セサルトキハ駐在國ノ當該官廳ニ於テ之ヲ決定スヘキモノトス

第十四條

白耳義國ニ於ケル日本國臣民若ハ日本國ニ於ケル白耳義國臣民ノ死亡シタル場合ニハ當該官廳ヨリ右死亡者所屬國ノ總領事、領事、副領事若ハ代辨領事ノ最モ近ク駐在シ居ルモノニ通知スヘシ、右領事官ニ於テ當該官廳ニ先タチ死亡ノコトヲ知リタルトキハ該領事官ヨリ其ノ旨當該官廳ヘ通知スヘシ
當該官廳ハ死亡證明書ノ定式謄本ヲ無料ニテ送付シ以テ右通知ヲ補完スヘシ
相續人ノ無能力若ハ不在或ハ遺言執行者ノ不在ノ場合ニハ領事官ハ當該官廳ト協同シ夫夫其ノ國ノ法律ニ從ヒ相續財產ノ保存及管理ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲シ就中封印ヲ施シ又ハ開封ヲ爲シ財產目錄ヲ調製シ相續財產ヲ管理清算スルコト卽一語ヲ以テ之ヲ言ヘハ相續人ノ利益ヲ保全スルニ必要ナル一切ノ措置ヲ施スノ權アルヘシ但シ爭論ヲ生シタル場合ニ於テハ相續ノ開始セル國ノ當該裁判所ノ判決ヲ受クヘキモノトス

第十五條

本條約ハ千八百九十六年六月二十二日兩締盟國ノ間ニ締結セラレタル通商航海條約ト同時ニ實施スヘキモノトス
又本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年ノ間效力ヲ有スヘキモノトス
右期限ノ滿了ヨリ十二箇月以前ニ兩締盟國ノ一方ヨリ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知セサル場合ニハ兩締盟國ノ一方ニ於テ本條約ヲ廢棄スル旨ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ向フ一箇年間效力ヲ有スルモノトス

第十六條

本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ本條約調印後六箇月以內ニ可成速ニ「ブラッセル」ニ於テ交換スヘシ
右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ
千八百九十六年十二月二十二日「ブラッセル」ニ於テ本書二通ヲ作ル

子爵青木周藏　印
ポール、ド、ファヴェロー　印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕帝國ト白耳義國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治二十九年十二月二十二日「ブラッセル」ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル領事職務條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス
神武天皇卽位紀元二千五百五十七年明治三十年四月十六日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名國璽

外務大臣伯爵大隈重信　印

○

朕臨時海軍建築部官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月三十日

内閣總理大臣伯爵松方正義
海軍大臣侯爵西郷從道

勅令第二百四十七號（官報八月三日）

臨時海軍建築部官制

第一條　臨時海軍建築部ヲ東京ニ置キ其ノ支部ヲ舞鶴ニ置ク

第二條　臨時海軍建築部ハ海軍大臣ノ監督ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル

一　新ニ設置スヘキ鎮守府ニ屬スル建築工事竝ニ其ノ計畫及監督

二　新ニ設置スヘキ鎮守府ニ屬スル諸機械ノ購買及其ノ据附

三　既設鎮守府ニ屬スル建築ノ計畫及其ノ工事ノ監視竝ニ其ノ契約ノ審査

四　鎮守府所屬ニアラサル建築工事竝ニ其ノ計畫及監督

第三條　臨時海軍建築部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長
部員
工務監
工務員

第四條　支部ニ左ノ職員ヲ置ク

支部長

支部員
工務員

第五條　部長ハ海軍大臣ニ隷シ部務ヲ總理ス

第六條　部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第七條　工務監ハ部長ノ命ヲ承ケ建築工事ヲ統理ス

第八條　第三條ニ掲クル工務員ハ部長又ハ工務監ノ命ヲ承ケ服務ス

第九條　支部長ハ部長ノ命ヲ承ケ支部ノ事務及工事ヲ管理ス

第十條　支部員ハ支部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十一條　第四條ニ掲クル工務員ハ支部長又ハ工務監ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條　第三條第四條ニ掲クル職員ノ外海軍下士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第十三條　臨時海軍建築部ノ定員ハ別表定ムル所ニ依ル

（別表）

臨時海軍建築部定員表

部			
部長	海軍將官	海軍佐官	一
部員		海軍大尉	二
		海軍機關大監	一
		海軍機關少監	一
		海軍軍醫大監	一
		海軍主計大監	一
		海軍造船大監	一
		海軍造船大技士	一
		海軍造兵大監	一
		海軍造兵大技士	一
		海軍造船少監	二
		海軍造兵少監	二
		海軍一等看護手	一
		書記	十八

工務監	技監	海軍佐官	一
工務員	技師	海軍大尉	三
支部長	海軍大佐	技手	一
支部員		海軍大尉	三十一
		海軍軍醫大監	一
		海軍軍醫少監	一
		海軍主計大監	一
		海軍主計少監	一
		海軍造船大監	一
		海軍造船大技士	一
		海軍造船少監	一
		海軍造兵少監	一
		海軍造兵大技士	一
工務員	技師	海軍一等看護手	一
合計八十二人			

備考
一　部員ト支部員ノ定員ハ各官ニ對スル所定ノ定員總計ヲ超過セサル限リ彼是共通スルコトヲ得
二　臨時海軍建築部及其ノ支部ノ工務員及判任文官ノ定員ハ各官ニ對スル所定ノ定員總計ヲ超過セサル限リ彼是增減スルコトヲ得
三　本表定員ノ外必要ニ應シ本職アル者ヲ以テ兼務セシムルコトヲ得

朕海軍在外國學生學資金規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月三十日

勅令第二百四十八號（官報　八月三日）

海軍在外國學生學資金規則中左ノ通改正ス

海軍大臣侯爵西鄕從道

第二條中「二千五百圓」ヲ「三千五百圓」ニ改ム

別表ヲ左ノ通改ム

國名	歐米洲各國				亞細亞洲各國		
等級	一等	二等	三等		一等	二等	三等
年額	千八百圓	千五百六十圓	千三百二十圓	九百圓	七百八十圓	六百六十圓	

〔參照〕

勅令第十五號海軍在外國學生學資金規則（明治二十三年二月十三日官報）抄錄

第二條　在外國學生在官者ナルトキ若クハ在官者ニシテ外國軍艦ニ乘組ミタルトキ別表ノ年額ニテ不足スル場合ニ限リ年額二千五百圓以內ノ學資金ヲ給スルコトヲ得

（別表）

國名	歐米洲各國					亞細亞洲各國				
等級	一等	二等	三等	四等	五等	一等	二等	三等	四等	五等
年額	千四百圓	千二百圓	千圓	八百圓	六百圓	七百圓	六百圓	五百圓	四百圓	三百圓

○

朕驚種檢査法第十二條府縣驚種檢査費ニ對スル國庫補助金額ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月三十日

大藏大臣伯爵松方正義
農商務大臣伯爵大隈重信

勅令第二百四十九號（官報八月三日）

驚種檢査法第十二條ニ依リ國庫ヨリ補助スル金額ハ驚種檢査ノ爲ニ要スル費額ノ十分ノ三トス但シ必要ノ場合ニ於テハ十分ノ二以內ヲ增加交付スルコトヲ得

○

朕千島國國後島、同國擇捉島、大隅國大島、琉球國八重山島ニ設置スル二等郵便及電信局職員月手當ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月三十日

遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百五十號（官報八月三日）

千島國國後島、同國擇捉島、大隅國大島、琉球國八重山島ニ設置スル二等郵便及電信局職員ニハ別表定ムル所ニ依リ月手當ヲ給ス其ノ給與細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

（別表）

官名	月手當金額
局長	三十圓以內
郵便電信書記	二十圓以內
郵便電信書記補	十二圓以內

○

朕會計檢査官資格ニ關スル明治二十二年勅令第八十號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月三十日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第二百五十一號（官報　八月三日）

明治二十二年勅令第八十號第二項左ノ通改正ス

第二　五箇年以上高等行政官若クハ判事檢事檢査官補ノ職ニ在ル者及在リタル者但試補勤務年數ハ之ヲ算ス

〔參照〕

勅令第八十號（明治二十二年六月六日官報）抄錄

會計檢査院法第六條ニ依リ會計檢査官ハ左ノ資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

第二　五年以上檢査官補又ハ五年以上他ノ高等行政官タル者但試補勤務年數ハ之ヲ算ス

朕外務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月三十一日

内閣總理大臣伯爵松方正義

外務大臣伯爵大隈重信

勅令第二百五十二號（官報　八月三日）

明治二十六年勅令第百二十三號外務省官制中左ノ通改正ス

第三條　外務省專任參事官ハ三人專任外務大臣祕書官ハ二人專任書記官ハ六人ヲ以テ定員トス

〔參照〕

勅令第百二十三號外務省官制（明治二十六年十月三十一日官報）抄錄

第三條　外務省專任參事官及外務大臣祕書官ハ各二人專任書記官ハ六人ヲ以テ定員トス

○

朕内務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月三十一日

内閣總理大臣伯爵松方正義

内務大臣伯爵樺山資紀

勅令第二百五十三號（官報　八月六日）

内務省官制中左ノ通改正ス

第二條中「褒賞」ノ下ニ「竝ニ戸籍」ヲ加フ

第三條　内務省專任參事官ハ四人專任書記官ハ五人ヲ以テ定員トス

内務省ニ專任内務事務官五人專任監獄事務官一人ヲ置ク

内務事務官ハ奏任トス各局ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル

監獄事務官ハ奏任トス監獄局ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル

第四條　内務省ニ左ノ七局ヲ置ク

縣治局

警保局

土木局

衛生局

社寺局

監獄局

庶務局

第五條　縣治局長、警保局長、土木局長、衛生局長及社寺局長ハ勅任トシ監獄局長及庶務局長ハ奏任トス

第七條中三項四項及六項ヲ削除ス

第十一條　監獄局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　監獄ニ關スル事項

二　假出獄及監視假免ニ關スル事項

第十二條　庶務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算竝會計ニ關スル事項

二　本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項

三　官有地處分竝管理ニ關スル事項

四　土地收用ニ關スル事項

五　官有地地種目變換ニ關スル事項

第十三條　內務省ニ專任技師六人專任技手二十二人ヲ置ク

內務省屬ハ二百四十八人ヲ以テ定員トス

〔參照〕

勅令第百二十七號內務省官制（明治二十六年十月三十一日官報）抄錄

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノヽ外褒賞ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條　內務省專任參事官ハ三人專任書記官ハ五人ヲ以テ定員トス

第四條　內務省ニ左ノ六局ヲ置ク

縣治局
警保局
土木局
衛生局
社寺局
庶務局

第五條　縣治局長、警保局長、土木局長、衛生局長及社寺局長ハ勅任トシ庶務局長ハ奏任トス

第七條　警保局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

三　監獄ニ關スル事項

四　假出獄及監視假免ニ關スル事項

六　戶口及民籍ニ關スル事項

第十一條　庶務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算竝會計ニ關スル事項

二　本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項

三　官有地處分竝管理ニ關スル事項

四　土地收用ニ關スル事項

五　官有地地種目變換ニ關スル事項

第十二條　內務省ニ專任技師二人專任技手四人ヲ置ク

第十三條　內務省屬ハ二百四十三人ヲ以テ定員トス

○

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月三十一日

內閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第二百五十四號（官報　八月六日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第九條中外務省翻譯官ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

內務事務官　高等文官年俸二號表ニ依ル

監獄事務官　同　上

文武高等官官等表中內務省ノ部內務書記官ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

內務事務官	同上	同上	同上	同上	
監獄事務官	同上	同上	同上	同上	

高等文官官等相當俸給表中各省書記官ノ次ニ「內務事務官」「監獄事務官」ヲ加フ

○

朕監獄事務官特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月三十一日

內閣總理大臣伯爵松方正義
內務大臣伯爵樺山資紀

勅令第二百五十五號（官報八月六日）

監獄事務官ハ五箇年以上獄務ニ從事シ現ニ判任官二級俸以上ノ官職ニ在ル者ニ限リ當分ノ內試驗ヲ要セス文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

○

朕公使館領事館費用條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

外務大臣伯爵大隈重信

勅令第二百五十六號（官報八月六日）

明治二十六年勅令第百七十一號公使館領事館費用條例中左ノ通改正ス

別表第二號中「シドニー」ノ次位ニ左ノ通追加ス

木浦		一	二、三〇〇	二、一〇〇	八〇〇	七〇〇以下		一	一、五〇〇
鎭南浦		一	二、三〇〇	二、一〇〇	八〇〇	七〇〇以下		一	一、五〇〇

〔參照〕

勅令第百七十一號公使館領事館費用條例（明治二十六年十月三十一日官報）抄錄

別表第二號中

領事官及領事館書記生在勤俸

任官所	總領事	一等領事	二等領事	總領事代理	領事官補	領事館書記生	總領事館事務代理	領事館事務代理

○

朕明治二十八年勅令第百二十六號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月十五日

海軍大臣侯爵西鄕從道
陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百五十七號（官報八月七日）

明治二十八年勅令第百二十六號中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

明治三十一年一月一日ヨリ天鹽、北見、日高、十勝、釧路、根室、千島ノ七箇國ニ徵兵令ヲ施行ス

第三條　屯田現役豫備役下士兵卒ノ戶籍內ニ在ル者ハ徵集ヲ免除ス

附則

第三條ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第百二十六號（明治二十八年九月二十一日官報）抄錄

第三條　屯田兵ノ戸籍内ニ在ル者ハ徵集ヲ免除ス

○

朕沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月三十日

海軍大臣侯爵西鄕從道

陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百五十八號（官報八月七日）

明治三十一年一月一日ヨリ沖繩縣及東京府管下小笠原島ニ徵兵令ヲ施行ス

沖繩縣壯丁ニシテ徵集ニ應スルトキハ從來ノ產業ヲ維持スルコト能ハスト認ムル者ハ特ニ徵集ヲ免除ス

小笠原島ニ轉籍移住シ開墾其ノ他一定ノ生業ニ從事スル者ハ轉籍移住ノ後五箇年ニ滿ツル年迄徵集ヲ猶豫ス但轉籍移住ノ後本島外ニ轉籍シ更ニ轉籍移住シタル者ハ此ノ限ニアラス

○

朕臺灣島及澎湖島駐箚陸軍部隊給與規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月三十日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百五十九號（官報八月七日）

臺灣島及澎湖島駐箚陸軍部隊給與規則第四條第一項中「總督府副官」ノ下ニ「兵器修理所長、同所員」ノ九字ヲ追加ス

〔參照〕

勅令第七十號臺灣島及澎湖島駐箚陸軍部隊給與規則（明治二十九年三月三十日官報）抄錄

第四條　陸軍給與令第八條第一項職員ノ外左ノ職員ノ職務俸ハ甲額トス

軍務局陸軍部部長、同課長、同課員、同副官、混成旅團司令部監督部長、同軍醫部長、同獸醫部長、總督府副官

士官ノ階級ニアラスシテ士官ノ勤務ニ服スル者ノ給料ハ特務曹長ノ二等給ニ該ル金額トス

○

朕判事檢事官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月三十日

內閣總理大臣伯爵松方正義

司法大臣　清浦奎吾

勅令第二百六十號（官報八月七日）

明治二十七年勅令第十七號判事檢事官等俸給令第三條左ノ通改正ス

第三條　大審院判事及大審院檢事ニシテ二級俸ヲ給セラルル者ハ特ニ勅任ニ進メ四級俸ヲ給スルコトヲ得

〔參照〕

勅令第十七號判事檢事官等俸給令（明治二十七年二月十五日官報）抄錄

第三條　大審院判事ノ中四人、大審院檢事ノ中一人ヲ限リ特ニ勅任ニ進メ四級俸ヲ給スルコトヲ得

○

朕屯田兵移住給與規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年七月三十一日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百六十一號（官報　八月七日）

屯田兵移住給與規則中左ノ通改正ス

第一條中「給與ス」ノ下ニ「但旅費日當ノ給與ハ一戸ニ付五人迄トス」ヲ加フ

第三條中「費用ハ」ノ下ニ「一戸ニ付五人迄」ヲ加フ

第八條中「山刀」ヲ「鉈」ニ「鐮」ヲ「斧」ニ改ム

第十條第一項中「鹽菜料ハ」ノ下ニ「一戸ニ付五人迄」ヲ加フ

第十二條ニ左ノ二項ヲ加フ

八　逃亡失踪其ノ他縱ニ兵村ヲ離ルル者ハ其ノ不在ノ間扶助米及鹽菜料ヲ給與セス

九　正當ノ手續ヲ爲シタル者ト雖三十一日以上兵村ヲ離ルルトキハ其ノ兵村ヲ離ルル間扶助米及鹽菜料ヲ給與セス

第十五條中「屯田兵司令官」ヲ「第七師團長」ニ改ム

〔參照〕

勅令第九十六號屯田兵移住給與規則（明治二十七年七月十二日官報）抄錄

第一條　屯田兵及其ノ家族移住ノ際ハ支度料、旅費日當、運搬料トシテ左ノ金額ヲ給與ス

一　支度料　一戸ニ付五圓

二　旅費日當　一人一日ニ付三十錢（七歲未滿ハ半額）

三　運搬料　一戸一日ニ付二圓六十錢

第三條　集合地ヨリ移住地迄ノ旅行ニ關スル費用ハ官ニ於テ仕拂フモノトス

第十條　扶助米及鹽菜料ハ移住地到著ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年間左ノ區分ヲ以テ毎月之ヲ給與ス但端日數ノ場合ニハ其ノ月ノ日數ヲ以テ月額ヲ除シ給與スヘキ日數ニ乘シテ給額ヲ定ム（區分表略ス）

第十五條　兵村ニ給與シタル事業場學校及之ニ關スル器具若クハ事業場學校ノ爲ニ給與シタル金額ノ管理使用ノ方法ハ屯田兵司令官之ヲ定ム

○

朕陸軍軍隊檢閱條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百六十二號（官報　八月七日）

陸軍軍隊檢閱條例第十三條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但鐵道隊ニ關シテハ參謀總長ヲ經テ上奏シ屯田兵隊ニ關シテハ陸軍大臣ヲ經テ上奏ス

〔參照〕

勅令第二百九十號陸軍軍隊檢閱條例（明治二十九年八月十九日官報）抄錄

第十三條　師團長ハ其檢閱シタル所ノ實況ヲ都督、監軍ヲ經テ　上奏シ竝ニ陸軍大臣、參謀總長ニ報告スヘシ

○

朕警察署警察分署ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ食糧ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月十日

拓殖務大臣子爵高島鞆之助

內務大臣伯爵樺山資紀

勅令第二百六十三號（官報　八月十四日）

警察署警察分署ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ食糧ハ內務大臣又ハ拓殖務大臣ノ定ムル費額ノ範圍內ニ於テ適宜之ヲ給與スルコトヲ得

○

朕侍從武官官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月十四日

內閣總理大臣伯爵松方正義
海軍大臣侯爵西鄕從道
陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百六十四號（官報　八月十七日）

侍從武官官制第七條中「屬二名」ヲ「陸海軍屬各二名」ニ改正ス

〔參照〕
勅令第百十三號侍從武官官制（明治二十九年四月一日）抄錄
第七條　第一條ニ揭クル人員ノ外侍從武官ニ屬二名ヲ附ス

○

朕東宮武官官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月十四日

內閣總理大臣伯爵松方正義
陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百六十五號（官報　八月十七日）

東宮武官官制中第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第六條　第一條ニ揭クル職員ノ外東宮武官ニ陸軍屬二名ヲ附ス

○

朕要塞司令部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月十四日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百六十六號（官報　八月十七日）

要塞司令部條例中左ノ通改正ス

第八條中「工兵方面支署長」ノ下ニ「其地所在ノ高級古參衞生部上長官若クハ士官及軍吏」ノ二十三字ヲ加フ

第十條中「第八條」ヲ「第九條」ニ改ム

〔參照〕
勅令第三十九號要塞司令部條例（明治二十八年四月五日官報）抄錄
第八條　砲兵方面支署長工兵方面支署長ハ要塞司令官ノ指揮ニ從ヒ要塞防禦ノ調査ニ從事ス

○

朕遞信省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

內閣總理大臣伯爵松方正義
遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百六十七號（官報　八月十八日）

遞信省官制

第一條　遞信大臣ハ官設鐵道、郵便、小包郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話及航路標識ヲ管理シ私設鐵道、電氣、造船、水陸運輸ニ關スル事業及航路、船舶、海員ヲ監督ス

第二條　遞信省專任參事官ハ四人專任書記官ハ五人ヲ以テ定員トス

第三條　遞信省ニ左ノ五局ヲ置ク

鐵道局

郵務局

電務局

管船局

監査局

第四條　鐵道局長、郵務局長、電務局長、管船局長及監査局長ハ勅任トス

第五條　鐵道局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　鐵道ノ監督ニ關スル事項

二　私設鐵道ノ免許ニ關スル事項

第六條　郵務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　郵便、小包郵便、郵便爲替及郵便貯金ニ關スル事項

二　陸運事業ノ監督ニ關スル事項

第七條　電務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　電信、電話ニ關スル事項

二　電氣事業ノ監督ニ關スル事項

第八條　管船局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　航路標識ニ關スル事項

二　航路、船舶、海員、水運及保護海事會社ノ監督ニ關スル事項

第九條　監査局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本省所管ノ一般及特別會計ノ監査ニ關スル事項

二　本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算竝會計ニ關スル事項

三　本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項

四　電信用品作業ニ關スル事項

五　燈臺用品作業ニ關スル事項

第十條　遞信省ニ專任技監二人ヲ置ク鐵道局及管船局ニ屬シ技術官ヲ指揮監督シ其ノ事業ヲ掌理ス

第十一條　遞信省ニ專任遞信事務官六人ヲ置ク奏任トス各局ニ屬シ其ノ事務ヲ分掌ス

第十二條　遞信省ニ專任技師二十人ヲ置ク

第十三條　遞信省屬ハ三百三十人ヲ以テ定員トス

第十四條　遞信省ニ專任技手七十六人ヲ置ク

○

朕鐵道作業局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

内閣總理大臣伯爵松方正義

遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百六十八號（官報　八月十八日）

鐵道作業局官制

第一條　鐵道作業局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ官設鐵道ノ建設、保存及運輸ノ業務ヲ掌ル

第二條　鐵道作業局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官
鐵道技監
部長
鐵道事務官
鐵道技師
鐵道書記
鐵道技手
鐵道書記補

第三條　長官ハ一人勅任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　鐵道技監ハ專任四人ヲ以テ定員トス技術官ヲ指揮監督シ其ノ事業ヲ掌理ス

第五條　部長ハ定員五人奏任トシ長官ノ命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ分掌ス

第六條　鐵道事務官ハ專任十五人奏任トス各部ニ分屬シ部務ヲ掌ル

第七條　鐵道技師ハ專任五十四人ヲ以テ定員トス

第八條　鐵道書記ハ八百七十三人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　鐵道技手ハ三百六十八人ヲ以テ定員トス

第十條　鐵道書記補ハ五百八十二人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記ノ事務ヲ助ク

第十一條　鐵道作業局ニ左ノ五部ヲ置ク

建設部
工務部
汽車部
運輸部
計理部

各部事務ノ分掌ハ遞信大臣之ヲ定ム

第十二條　建設部長工務部長汽車部長運輸部長ハ鐵道技監ヲシテ之ヲ兼ネシム

第十三條　遞信大臣ハ必要ニ應シ局中ニ課ヲ置キ又ハ地方ニ鐵道業務取扱ノ部所ヲ置キ各部ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

課ニ課長部所ニ部所長ヲ置キ高等官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

第十四條　明治二十九年勅令第八十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

勅令第八十五號（明治二十九年三月三十日官報）抄錄

鐵道敷設及既成鐵道改良ニ關スル事務ヲ整理セシムル爲遞信省ニ左ノ職員ヲ置キ鐵道局ニ屬セシム

鐵道技監　二人
鐵道事務官　三人
鐵道技師　三十人
鐵道書記　百五十人
鐵道技手　百四十一人
鐵道書記補　百四十四人

○

朕郵便及電信局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

内閣總理大臣伯爵松方正義
遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百六十九號（官報八月十八日）

郵便及電信局官制

第一條　郵便及電信局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便、電信ノ事務ヲ執行スルコトヲ掌ル

第二條　郵便及電信局ヲ分テ一等郵便電信局、二等郵便電信局、二等郵便電信局、三等郵便電信局、三等郵便局、三等電信局トス

第三條　一等郵便電信局ニ於テハ管轄内ノ各郵便電信局、郵便局、電信局ヲ監督ス
遞信大臣ノ指定シタル一等郵便電信局ニ於テハ電信建築ノ事務ヲ兼掌ス
遞信大臣ハ二等郵便電信局、二等郵便局ヲシテ其ノ指定シタル區域内ノ三等郵便電信局、三等郵便局、三等電信局監督事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトアル可シ
遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ郵便及電信ノ支局所ヲ置キ郵便電信ノ業務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第四條　一等郵便電信局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長
通信事務官
通信書記
通信書記補

電信建築ノ事務ヲ兼掌スル一等郵便電信局ニハ前項職員ノ外通信技師通信技手ヲ置ク

第五條　二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長
通信書記
通信書記補

第六條　一等郵便電信局、二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局ニ通信事務官補ヲ置クコトヲ得

第七條　三等郵便電信局、三等郵便局、三等電信局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

第八條　一等郵便電信局長ハ通信事務官ヲ以テ之ニ充ツ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第九條　二等郵便電信局長、二等郵便局長、二等電信局長ハ通信書記ヲ以テ之ニ充ツ所轄一等郵便電信局長ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス
通信事務官補ヲ置ク二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局ニ於テハ通信事務官補ヲ以テ局長ニ充ツ

第十條　三等郵便電信局長、三等郵便局長、三等電信局長ハ判任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第十一條　通信事務官ハ奏任トス第八條ニ依リ局長タル者ノ外各局ニ分屬シ局長ノ事務ヲ助ク

第十二條　通信技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十三條　通信事務官補ハ奏任トス第九條ニ依リ局長タル者ノ外各局ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ分掌ス

第十四條　通信書記ハ判任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ局務ニ從事ス

第十五條　通信技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス。

第十六條　通信書記補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記ノ事務ヲ助ク

第十七條　一等郵便電信局ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

第十八條　二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局、三等郵便電信局、三等郵便局、三等電信局ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ遞信大臣之ヲ定ム

（別表）

一等郵便電信局名稱位置管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
東京郵便電信局	武藏國東京	東京府埼玉縣千葉縣山梨縣
大阪郵便電信局	攝津國大阪	大阪府奈良縣和歌山縣
京都郵便電信局	山城國京都	京都府滋賀縣
横濱郵便電信局	武藏國横濱	神奈川縣靜岡縣
神戸郵便電信局	攝津國神戸	兵庫縣岡山縣鳥取縣
長崎郵便電信局	肥前國長崎	長崎縣佐賀縣
札幌郵便電信局	石狩國札幌	北海道
新潟郵便電信局	越後國新潟	新潟縣
名古屋郵便電信局	尾張國名古屋	愛知縣岐阜縣三重縣
熊本郵便電信局	肥後國熊本	熊本縣福岡縣大分縣
仙臺郵便電信局	陸前國仙臺	宮城縣福島縣山形縣
廣島郵便電信局	安藝國廣島	廣島縣島根縣山口縣
宇都宮郵便電信局	下野國宇都宮	栃木縣群馬縣茨城縣
長野郵便電信局	信濃國長野	長野縣
青森郵便電信局	陸奥國青森	青森縣岩手縣秋田縣
金澤郵便電信局	加賀國金澤	石川縣富山縣福井縣
多度津郵便電信局	讃岐國多度津	香川縣愛媛縣高知縣德島縣
鹿兒島郵便電信局	薩摩國鹿兒島	鹿兒島縣宮崎縣沖繩縣

○朕在外郵便電信局、郵便局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

内閣總理大臣伯爵松方正義

遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百七十號（官報八月十八日）

在外郵便電信局、郵便局官制

第一條　在外各地ノ郵便電信局、郵便局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便、電信ノ業務ヲ執行スルコトヲ掌ル

第二條　在外各地ノ郵便電信局、郵便局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

通信書記

通信書記補

第三條　在外各地ノ郵便電信局長、郵便局長ハ奏任又ハ判任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　通信書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ局務ニ從事ス

第五條　通信書記補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ通信書記ノ事務ヲ助ク

第六條　在外郵便電信局、郵便局ノ名稱、位地ハ遞信大臣之ヲ定ム

○

朕郵便爲替貯金管理所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

内閣總理大臣伯爵松方正義
遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百七十一號（官報八月十八日）

郵便爲替貯金管理所官制

第一條　郵便爲替貯金管理所ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ郵便爲替資金郵便貯金ヲ管理シ及郵便爲替郵便貯金ノ檢査計算ニ關スル事務ヲ掌理スル所トス

第二條　郵便爲替貯金管理所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
通信事務官
通信事務官補
通信書記

通信書記補

第三條　郵便爲替貯金管理所長ハ通信事務官ヲ以テ之ニ充ツ遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス

第四條　通信事務官、通信事務官補ハ奏任トス　第三條ニ依リ所長タル者ノ外所長ノ事務ヲ助ケ又ハ郵便爲替貯金管理支所長トナリテ其ノ事務ヲ掌理ス

第五條　通信書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記、簿記、計算ノ事務ニ從事ス

第六條　通信書記補ハ判任トス通信書記ノ事務ヲ助ク

第七條　遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ郵便爲替貯金管理支所ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

○

朕航路標識管理所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

内閣總理大臣伯爵松方正義
遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百七十二號（官報八月十八日）

航路標識管理所官制中左ノ通改正ス

第三條中「遞信省高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム」ノ十五字ヲ削ル

〔參照〕
勅令第百五十四號航路標識管理所官制（明治二十六年十月三十一日官報）抄錄
第三條　所長ハ一人奏任トス遞信省高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理ス

○

朕船舶司檢所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

内閣總理大臣伯爵松方正義
遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百七十三號（官報八月十八日）

船舶司檢所官制中左ノ通改正ス

第二條　船舶司檢所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
司檢官
司檢官補
書記
技手

第五條　司檢官補ハ奏任トシ專任二十八ヲ以テ定員トス司檢官ノ事務ヲ助ク

第六條　司檢官及司檢官補ハ遞信省管船局ニ兼勤シ若クハ臨時命ヲ承ケ其ノ事務ヲ助ク

第七條　書記ハ判任トシ專任二十七人ヲ以テ定員トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條ノ二　技手ハ專任十三人ヲ以テ定員トス

〔參照〕

勅令第七十九號船舶司檢所官制（明治二十九年三月三十日官報）抄錄

第二條　船舶司檢所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
司檢官
司檢官補
書記

第五條　司檢官補ハ判任トシ專任三十三人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第六條　書記ハ判任トシ專任二十七人ヲ以テ定員トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第七條　司檢官及司檢官補ハ遞信省管船局ニ兼勤シ若クハ臨時命ヲ承ケ其ノ事務ヲ助ク

○

朕電話交換局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

内閣總理大臣伯爵松方正義
遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百七十四號（官報八月十八日）

電話交換局官制

第一條　電話交換局ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ電話交換ノ業務ヲ執行スル所トス

第二條　電話交換局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長
通信技師
通信書記
通信技手

遞信大臣ハ必要ナシト認ムル場合ニ於テ電話交換局ニ通信技師ヲ置カサルコトヲ得

第三條　局長ハ通信技師又ハ通信技手ヲ以テ之ニ充ツ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　通信技師ハ局長ノ指揮ヲ承ケ局中ノ事務ヲ分掌ス
第五條　通信書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第六條　通信技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ電話交換ノ工事ニ從事ス
第七條　電話交換局ノ名稱及位置ハ遞信大臣之ヲ定ム
第八條　遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ電話交換支局ヲ設置シ其ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

○

朕商船學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

内閣總理大臣伯爵松方正義
遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百七十五號（官報八月十八日）

商船學校官制中左ノ通改正ス

第二條　商船學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
幹事
教授
學生監
教諭
分校長
助教
書記

第七條　教諭ハ奏任トシ專任八人ヲ以テ定員トス技業ヲ教授シ又ハ實地練習ヲ監督ス
第八條　分校長ハ教授又ハ教諭之ヲ兼任シ分校ノ事務ヲ掌理ス
第八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
第八條ノ二　助教ハ判任トシ專任八人ヲ以テ定員トス教授及教諭ノ職掌ヲ佐ク

〔參照〕

勅令第八十一號商船學校官制（明治二十九年三月三十日官報）抄錄

第二條　商船學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
幹事
教授
學生監
分校長
助教
書記

第七條　分校長ハ教授又ハ助教之ヲ兼任シ分校ノ事務ヲ掌理ス
第八條　助教ハ判任トシ專任十六人ヲ以テ定員トス教授ノ職掌ヲ佐ケ學生及生徒ノ教授ヲ掌ル

○

朕郵便及電信局、在外郵便電信局郵便局、郵便爲替貯金管理所及電話交換局職員定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

内閣總理大臣伯爵松方正義
遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百七十六號（官報 八月十八日）

第一條　郵便及電信局、在外郵便電信局郵便局、郵便爲替貯金管理所及電話交換局職員ノ定員ハ各局所ヲ通シテ左ノ通トス但シ在外郵便電信局長郵便局長及三等郵便電信局長三等郵便局長三等電信局長ハ定員ノ外トス

通信事務官　專任三十一人
通信事務官補　專任二十七人
通信技師　專任十九人
通信書記　專任二千三百三十一人
通信技手　專任二百二十六人
通信書記補　專任四千四百七人

第二條　各局所ノ定員ハ遞信大臣之ヲ定ム

○

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第二百七十七號（官報 八月十八日）

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第九條中「遞信省鐵道事務官」ヲ削ル

文武高等官官等表中遞信省ノ部「遞信省參事官」ノ項以下左ノ通改ム

遞信省參事官	鐵道作業局長官																	
同上	同上													商船學校長				
同上		遞信大臣祕書官	遞信書記官	遞信事務官	鐵道作業局部長	鐵道事務官	通信事務官		在外各地ノ郵便電信局長	在外各地ノ郵便局長	航路標識管理所長	船舶司檢所司檢官		同上	商船學校教授			
同上		同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	同上	同上	同上		同上	同上			
同上		同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	同上	同上	同上		同上	同上	商船學校學生監		東京郵便電信學校教授
同上		同上	同上	同上	同上	同上	同上	通信事務官補	同上	同上		同上	船舶司檢所司檢官補		同上	同上	商船學校教諭	同上
同上		同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	同上		同上	同上	同上	同上
								同上	同上	同上		同上	同上		同上	同上	同上	同上
								同上	同上	同上		同上	同上		同上	同上	同上	同上

高等文官官等相當俸給表中「遞信省鐵道事務官」ヲ削リ「遞信事務官」ノ次ニ「鐵道作業局部長」「鐵道事務官」ヲ加ヘ陸軍監獄長ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

通信事務官				一級俸	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸	八級俸		

一等郵便電信局長ヲ削リ在外各地郵便電信局長在外各地郵便局長ノ欄「十級俸」ノ次ニ「十一級俸」ヲ加フ

郵便電信學校教授ノ欄左ノ通改ム

東京郵便電信學校教授						一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸	八級俸	

郵便爲替貯金管理所長ノ欄ヲ左ノ通改ム

通信事務官補							一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸	

○

朕技術官俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第二百七十八號（官報八月十八日）

技術官俸給令中左ノ通改正ス

第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

技監ニシテ三箇年以上一級俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ハ年俸四千圓ヲ給スルコトヲ得

〔參照〕

勅令第八十四號技術官俸給令（明治二十四年七月二十七日官報）抄錄

第四條　技監及技師ノ年俸ハ別ニ定ムルモノヽ外別表ニ依ル

（別表）

官名	年俸	等級
技監	一級三千五百圓	二級三千圓
技師	一級三千五百圓	二級三千二百圓
	七級千二百圓	八級千圓
	三級二千圓	四級千八百圓
	九級九百圓	十級八百圓
	五級千六百圓	六級千四百圓
	十一級七百圓	十二級六百圓

○

朕遞信省所屬職員俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

内閣總理大臣伯爵松方正義

遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百七十九號（官報八月十八日）

遞信省所屬職員俸給令

第一條　遞信省所屬各局所及學校高等官及判任官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノヽ外本令ニ依ル

第二條　鐵道作業局長官ノ年俸ハ一級四千圓二級三千五百圓トス

第三條　商船學校長ノ年俸ハ一級二千五百圓二級二千二百圓三級二千圓トス

商船學校長ニシテ高等官三等ニ在リ特ニ功勞アル者ハ高等官二等ニ陞敍セラルルコトヲ得又一級俸ヲ受クルコト滿五年以上ニシテ功勞アル者ハ年俸三千圓マテ增給スルコトヲ得

第四條　鐵道作業局部長鐵道事務官ノ年俸ハ高等官官等俸給令第二號表ニ依ル

第五條　船舶司檢所司檢官商船學校教授ノ年俸ハ技術官俸給令ニ依ル

第六條　航路標識管理所長ノ年俸ハ一級二千五百圓二級二千二百圓三級二千圓トス

第七條　通信事務官在外各地ノ奏任郵便電信局長郵便局長ノ年俸ハ別表第一號ニ依ル但シ通信事

務官ニシテ特ニ功勞アル者ハ二千五百圓マテ增給スルコトヲ得

第八條　東京郵便電信學校教授、通信事務官補、船舶司檢所司檢官補、商船學校教諭、商船學校學生監ノ年俸ハ別表第一號ニ依ル

第九條　通信書記鐵道書記航路標識管理所書記船舶司檢所書記商船學校助教商船學校書記竝ニ東京郵便電信學校助教東京郵便電信學校書記ノ俸給ハ判任官俸給令ニ依ル

第十條　通信書記補鐵道書記補ノ俸給ハ月俸十五圓以下七圓以上トス

第十一條　航路標識看守ノ俸給ハ別表第二號ニ依ル

第十二條　三等郵便電信局長三等郵便局長三等電信局長ハ俸給ヲ給セス一箇年四百圓以下ノ手當ヲ給ス其ノ細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附則

第十三條　明治二十六年勅令第百七十八號遞信省所屬職員俸給令明治二十九年勅令第八十號船舶司檢所司檢官等俸給令明治二十九年勅令第八十二號商船學校職員官等俸給令明治二十四年勅令第百五十六號遞信省所管學校職員俸給令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表）

第一號

官名	年俸等級										
	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸	八級俸	九級俸	十級俸	十一級俸
通信事務官	二千圓	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千　圓	九百圓	八百圓			
在外各地郵便電信局長	二千圓	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千　圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓
在外各地郵便局長											
東京郵便電信學校教授	千四百圓	千二百圓	千　圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓			
通信事務官補	千二百圓	千　圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓				

第二號

官名	月俸等級								
	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸	八級俸	九級俸
航路標識看守	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓	十二圓	十圓

〔參照〕

勅令第九十六號高等官官等俸給令（明治二十五年十一月十四日官報）抄錄

高等文官年俸二號表

一級	二千五百圓	二級	二千二百圓	三級	二千圓	四級	千八百圓	五級	千六百圓
六級	千四百圓	七級	千二百圓	八級	千　圓	九級	九百圓	十級	八百圓

○

朕文武判任官等級表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第二百八十號（官報　八月十八日）

文武判任官等級表中左ノ通改正ス

「遞信省鐵道書記」ヲ「鐵道書記」ニ「遞信省鐵道技手」ヲ「鐵道技手」ニ「郵便電信書記」ヲ「通信書記」ニ「電信建築技手」ヲ「通信技手」ニ「遞信省鐵道書記補」ヲ「鐵道書記補」ニ「郵便電信書記補」ヲ「通信書記補」ニ改メ「郵便爲替貯金書記」「郵便爲替貯金書記補」「司檢官補」ノ各項ヲ削リ「三等郵便局長」ノ次ニ「三等

電信局長」ヲ加ヘ「航路標識看守」ノ等級ヲ左ノ通改ム

航路標識看守二級俸	航路標識看守三級俸 四級俸	航路標識看守五級俸 六級俸	航路標識看守七級俸 八級俸 九級俸

○

朕遞信事務官通信事務官補特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

内閣總理大臣伯爵松方正義

遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百八十一號（官報八月十八日）

遞信事務官、通信事務官、通信事務官補特別任用令

第一條　遞信事務官ハ滿二年以上鐵道事務官船舶司檢所司檢官通信事務官ノ職ニ在ル者ヨリ任用スルコトヲ得其ノ通信事務官在職年數ニハ一等郵便電信局長在職年數ヲ通算ス

第二條　通信事務官ハ滿五年以上通信事務ニ從事シ現ニ判任官二級俸以上ノ俸給ヲ受クル者通信事務官補ハ滿三年以上通信事務ニ從事シ現ニ判任官五級俸以上ノ俸給ヲ受クル者ヨリ任用スルコトヲ得

第三條　前條ニ依リ任用セラレタル通信事務官補ハ通信事務官ニ任用スルコトヲ得但シ判任官三級俸以下ニシテ通信事務官補ニ任用セラレタル者ハ滿二年以上在職スルニアラサレハ通信事務官ニ任用スルコトヲ得ス

第四條　本令ニ依リ任用セントスルトキハ總テ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經ヘシ

○

朕鐵道書記補通信書記補特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二日

内閣總理大臣伯爵松方正義

遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百八十二號（官報八月十八日）

鐵道書記補、通信書記補特別任用令

第一條　鐵道書記補、通信書記補ハ遞信大臣定ムル所ノ試驗規則ニ依リ任用スルコトヲ得

本令施行ノ際遞信省鐵道書記補郵便電信書記補郵便爲替貯金書記補ノ職ニ在ル者ハ前項ノ規程ニ拘ラス通信書記補鐵道書記補ニ任用スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ任用シタル判任官ニシテ滿二年以上其ノ職ニ在リタル者ハ文官普通試驗ヲ要セス遞信部内ノ判任官ニ任用スルコトヲ得其ノ遞信省鐵道書記補郵便電信書記補郵便爲替貯金書記補ヨリ任用セラレタル者ニ在リテハ其ノ前官在職年數ヲ通算ス

第三條　本令施行ノ際遞信省鐵道書記補郵便電信書記補郵便爲替貯金書記補タル者ニシテ二箇年以上其ノ職ニ在ル者ハ文官普通試驗ヲ要ス遞信部内ノ判任官ニ任用スルコトヲ得

附則

第四條　明治二十六年勅令第百九十五號遞信省鐵道書記補郵便電信書記補及郵便爲替貯金書記補任用令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○

朕陸軍乘馬學校將校學生ニ當分ノ内戰術ヲ併セ教育スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月十九日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百八十三號（官報　八月二十三日）

陸軍乘馬學校將校學生ニハ當分ノ內戰術ヲ併セ教育スルコトヲ得

○

朕海底電信線保護萬國聯合條約罰則ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二十七日

內閣總理大臣伯爵松方正義
拓殖務大臣兼陸軍大臣子爵高島鞆之助
遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百八十四號（官報　八月三十日）

明治十八年第十八號布告海底電信線保護萬國聯合條約罰則ヲ臺灣ニ施行ス

○

朕郵便聯合國郵便切手類保護法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二十七日

內閣總理大臣伯爵松方正義
拓殖務大臣兼陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百八十五號（官報　八月三十日）

明治二十五年法律第三號郵便聯合國郵便切手類保護法ヲ臺灣ニ施行ス

○

朕臨時臺灣電信建設部官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二十七日

內閣總理大臣伯爵松方正義
陸軍大臣子爵高島鞆之助
遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百八十六號（官報　八月三十日）

明治二十八年勅令第八十九號臨時臺灣電信建設部官制ハ明治三十年九月三十日限リ廢止ス

○

朕軍用電信線ヲ普通電信線トシテ遞信大臣又ハ臺灣總督ノ管理ニ屬セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二十七日

拓殖務大臣兼陸軍大臣子爵高島鞆之助
遞信大臣子爵野村靖

勅令第二百八十七號（官報　八月三十日）

鹿兒島那覇間及那覇基隆間ノ固定軍用電信線ハ明治三十年八月三十一日ヲ期シ普通電信線トシ其

ノ鹿兒島那覇間ニ係ルモノハ遞信大臣ノ管理ニ屬セシメ其ノ那覇基隆間ニ係ルモノハ遞信大臣及臺灣總督ノ管理ニ屬セシム

○

朕陸軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治三十年八月二十七日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百八十八號（官報　八月三十日）

陸軍給與令中左ノ通改正ス

第八條第一項中「製造所所員」ノ下ニ「同修理所長」ノ五字ヲ「警備隊司令官」ノ下ニ「同司令部副官」ノ六字ヲ「諸學校教官」ノ下ニ「地方幼年學校生徒監」ノ九字ヲ加ヘ第四項中「警備隊副官（徵兵事務及召集ノ事務ニ服スル者）」ノ十九字ヲ削ル

第二十條第三項ヲ左ノ如ク改ム

豫備役後備役下士以上ニシテ部隊ノ職務ニ就キタル者ノ宅料ハ前二項ニ準ス

第二十四條第一項但書中「半官費生」ノ下ニ「及半特待生ニ」ノ六字ヲ加ヘ第二項中「中央幼年學校官費生徒」ヲ「幼年學校官費生徒同特待生」ニ改ム

第二十七條　營內居住ノ下士兵卒諸學校ニ分遣中ノ糧食ハ該校所在地屯在隊ノ定額ニ依リ其ノ經理ヲ該校ニ委任ス

第二十八條　營內居住ノ下士諸學校ヘ入學外宿セシムルトキノ食料ハ該校ニ於テ給ス其ノ金額ハ第九表甲ニ依ル

第三十一條第一項中「第十表ニ依ル」ノ下ニ「營內居住ノ下士以下現役滿期若ハ豫備役後備役ノ下士以下召集解除ノ際懲罰中ニ係ル食料亦同シ」ノ四十三字ヲ加フ

第五十四條中「軍樂學舍及ヒ教導團」ノ九字ヲ削ル

第五十六條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ步兵砲兵聯隊本部ノ定額ハ第二十四表ニ依ル

第六十一條中「軍樂學舍及ヒ教導團」ノ九字ヲ削ル

第六十三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ步兵砲兵聯隊本部ノ定額ハ第二十七表ニ依ル

第六十八條第五項中「士官候補生」ノ下ニ「見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、見習軍吏」ノ十八字ヲ加フ

第七十四條第二項中「見習獸醫官」ノ下ニ「見習軍吏」ノ四字ヲ加ヘ第三項ヲ左ノ如ク改ム

三　營內居住ノ下士以下ニシテ諸學校ノ學生生徒又ハ教導隊附トシテ派遣スル者地方幼年學校生徒卒業ノ上中央幼年學校ヘ入校スル者及豫備役後備役ノ兵卒ニシテ學生志願ニ依リ召喚セラレタル者

第八十五條第六項中「管轄地」ヲ「警察區」ニ改ム

第四表中「幼年學校生徒」ヲ「中央幼年學校生徒」ニ改ム

第十二表第二種帽、第一種衣袴、日覆、夏衣袴、外套、被服手入具ノ各區畫中「幼年學校官費生半官費生」ヲ「幼年學校官費生半官費生特待生半特待生」ニ第二種衣袴、襟布、冬襦袢袴下、夏襦袢、夏袴下、メリヤス製手套、麻製脚絆、靴下ノ各區畫中「幼年學校官費生」ヲ「幼年學校官費生特待生」ニ短靴ノ區畫中「幼年學校官費生」ヲ「幼年學校官費生特待生」ニ「士官學校騎砲（野戰）兵科生徒」ヲ「士官學校騎砲（野戰）輜重兵科生徒」ニ長靴ノ區畫中「士官學校步、砲工輜重兵科生徒」ヲ「士官學校步、砲工輜重兵科生徒」ニ改ム